取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

C-HR

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 12
検索のしかた 13
イラスト目次 14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 26
安全なドライブのために 28
シートベルト 30
SRS エアバッグ 34
排気ガスに対する注意 42

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 43
チャイルドシート 44

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 64
ハイブリッドシステムの注意 69

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 75
オートアラーム 76

2 メーターの見方

2. メーターの見方
警告灯／表示灯 80
計器類 87
マルチインフォメーションディスプレイ 91
エネルギーモニター／燃費画面 99

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い
キー 104

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 108
バックドア 114
スマートエントリー＆スタートシステム 119

3-3. シートの調整
フロントシート 126
リヤシート 127
ヘッドレスト 129

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 132
インナーミラー 134
ドアミラー 136

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 138

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....144
荷物を積むときの注意.....154

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ.....156
EV ドライブモード.....162
トランスミッション.....164
方向指示レバー.....168
電動パーキングブレーキ.....169
ブレーキホールド.....173

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....176
オートマチックハイビーム....181
フォグランプスイッチ.....185
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....187
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....191

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....193

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense..... 198
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 204
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 219
RSA（ロードサインアシスト）.... 233
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 238
先行車発進告知機能..... 252
ドライブモードセレクト..... 255
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 257
クリアランスソナー..... 263
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)..... 274
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 282
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 289
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 293
運転を補助する装置..... 296

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 303
寒冷時の運転..... 305

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
オートエアコン.....310
シートヒーター.....318
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....320
・インテリアランプ.....321
・パーソナルランプ.....321
5-3. 収納装備の使い方
収納装備一覧.....323
・グローブボックス.....324
・コンソールボックス.....324
・ボトルホルダー.....325
・カップホルダー.....326
ラゲージルーム内装備.....327
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備.....334
・サンバイザー.....334
・バニティミラー.....334
・時計.....335
・アクセサリーソケット.....336
・アシストグリップ.....337
・ステアリングスイッチ.....337
アクセサリーコンセント.....338
非常時給電システム.....345

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....358
内装の手入れ.....364
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....367
ガレージジャッキ.....369
ウォッシャー液の補充.....370
タイヤについて.....372
タイヤ空気圧について.....377
エアコンフィルターの交換.....379
駆動用電池冷却用吸入口の清掃.....382
ワイパーゴムの交換.....387
電子キーの電池交換.....392
ヒューズの点検、交換.....395
電球（バルブ）の交換.....398

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....410
非常点滅灯（ハザードランプ）.....411
発炎筒.....412
車両を緊急停止するには.....414
水没・冠水したときは.....415

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....416
警告灯がついたときは.....422
警告メッセージが表示されたときは.....427
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....434
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....448
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....458
電子キーが正常に働かないときは.....460
補機バッテリーがあがったときは.....463
オーバーヒートしたときは....469
スタックしたときは.....474

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....478

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....484

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....492

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....494
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....498
アルファベット順さくいん.....500
五十音順さくいん.....502

次の装備については別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」をお読みください。

- オーディオ
- ナビゲーションシステム
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
・電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 10 も参照してください。

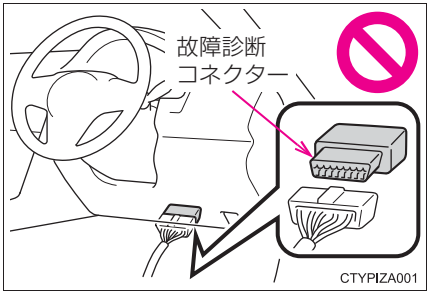
● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システムの作動状況
・カメラの画像情報
　車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

　トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

　なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。
　・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
　・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
　・トヨタが訴訟で使用する場合
　・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。
　また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

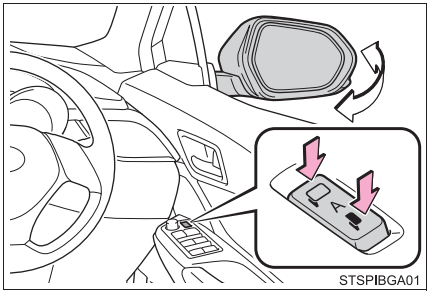
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

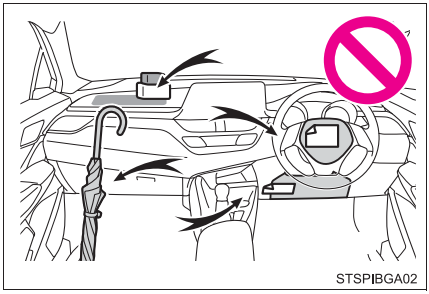
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

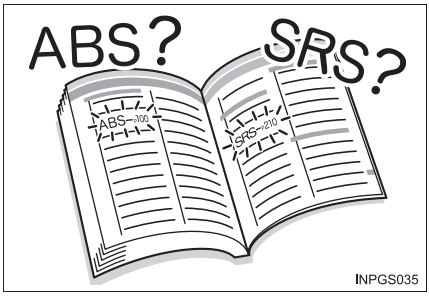


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

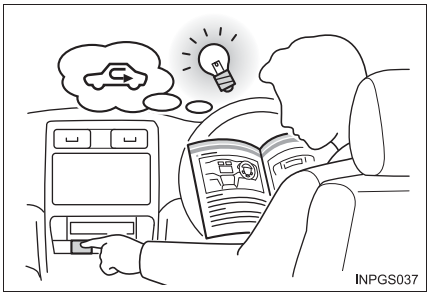
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....502
・アルファベット順
さくいん.....500



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....14

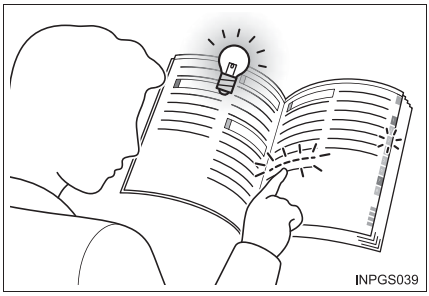


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....494
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....498

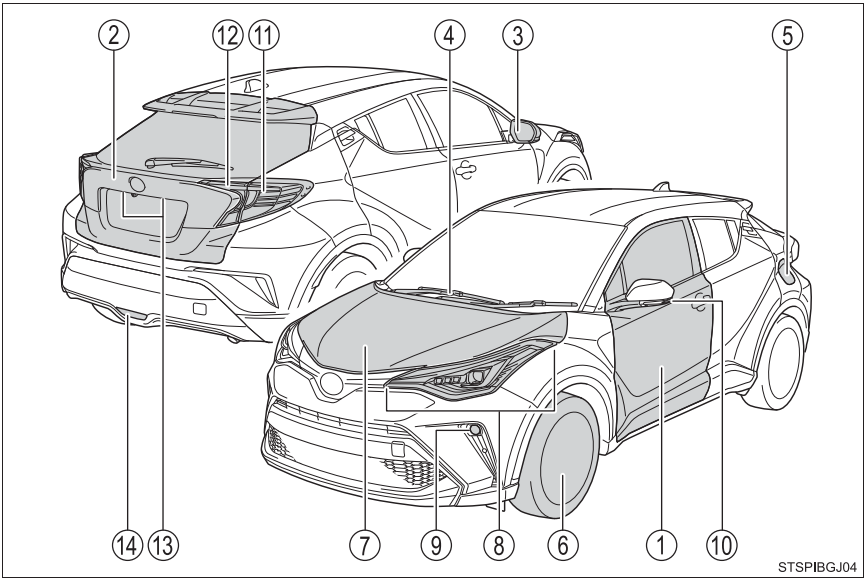
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■外観 (GR SPORT 除く)



ランプの形状は、グレードなどで異なります。(→ P. 398)

① **ドア . . . . . P. 108**

施錠／解錠 . . . . . P. 108

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 138

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 460

② **バックドア . . . . . P. 114**

施錠／解錠 . . . . . P. 114

③ **ドアミラー . . . . . P. 136**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 136

ミラーの格納 . . . . . P. 136

曇りを取る（ミラーヒーター）. . . . . P. 313

④ **ワイパー . . . . . P. 187**

冬季の注意 . . . . . P. 305

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 314

洗車時の注意 . . . . . P. 361

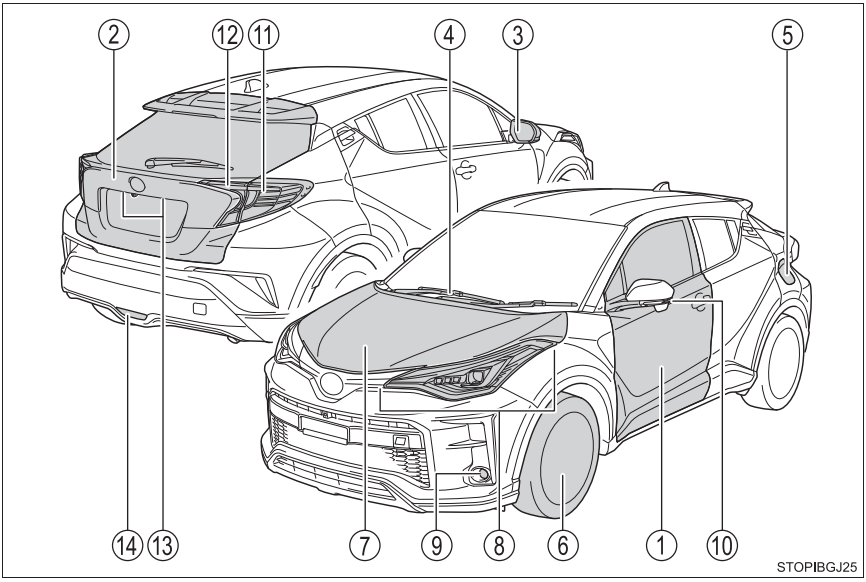
⑤ **給油口**. . . . . .**P. 193**
給油方法 . . . . . .P. 193
燃料の種類・燃料タンク容量. . . . . .P. 478
⑥ **タイヤ**. . . . . .**P. 372**
サイズ・空気圧 . . . . . .P. 482
冬用タイヤ・タイヤチェーン. . . . . .P. 305
点検・ローテーション. . . . . .P. 372
パンク時の対処 . . . . . .P. 434, 448
⑦ **ボンネット** . . . . . .**P. 367**
開け方. . . . . .P. 367
エンジンオイル . . . . . .P. 479
オーバーヒート時の対処 . . . . . .P. 469

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 398, ワット数：P. 483）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・方向指示灯** . . . . . .**P. 168, 176**
⑨ **フロントフォグランプ★** . . . . . .**P. 185**
⑩ **方向指示灯** . . . . . .**P. 168**
⑪ **尾灯・方向指示灯** . . . . . .**P. 168, 176**
⑫ **尾灯 (LED タイプ)** . . . . . .**P. 176**
方向指示灯 (LED タイプ) . . . . . .**P. 168**
後退灯 (バルブタイプ)
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 164
⑬ **番号灯**. . . . . .**P. 176**
⑭ **後退灯 (LED タイプ)**
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 164
リヤフォグランプ★. . . . . .**P. 185**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

外観 (GR SPORT)



① **ドア . . . . . P. 108**
施錠／解錠 . . . . . P. 108
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 138
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 460
② **バックドア . . . . . P. 114**
施錠／解錠 . . . . . P. 114
③ **ドアミラー . . . . . P. 136**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 136
ミラーの格納 . . . . . P. 136
曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 313
④ **ワイパー . . . . . P. 187**
冬季の注意 . . . . . P. 305
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 314
洗車時の注意 . . . . . P. 361

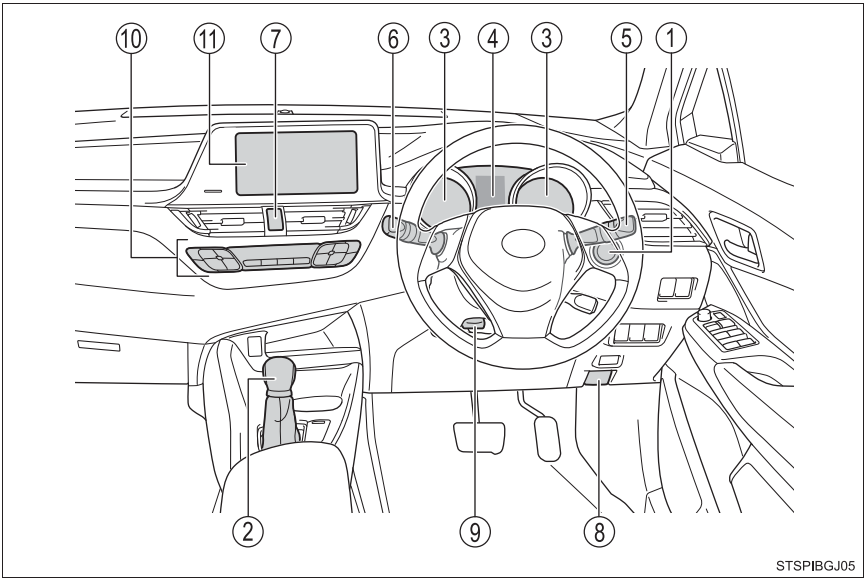
⑤ **給油口**. . . . . .**P. 193**
給油方法 . . . . . .P. 193
燃料の種類・燃料タンク容量. . . . . .P. 478
⑥ **タイヤ**. . . . . .**P. 372**
サイズ・空気圧 . . . . . .P. 482
冬用タイヤ・タイヤチェーン. . . . . .P. 305
点検・ローテーション. . . . . .P. 372
パンク時の対処 . . . . . .P. 434, 448
⑦ **ボンネット** . . . . . .**P. 367**
開け方. . . . . .P. 367
エンジンオイル . . . . . .P. 479
オーバーヒート時の対処 . . . . . .P. 469

走行に関わる外装のランプバルブ（交換要領：P. 398, ワット数：P. 483）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・方向指示灯** . . . . . .**P. 168, 176**
⑨ **フロントフォグランプ**. . . . . .**P. 185**
⑩ **方向指示灯** . . . . . .**P. 168**
⑪ **尾灯・方向指示灯** . . . . . .**P. 168, 176**
⑫ **尾灯・方向指示灯** . . . . . .**P. 168, 176**
⑬ **番号灯**. . . . . .**P. 176**
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 164
リヤフォグランプ★. . . . . .**P. 185**

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■インストルメントパネル

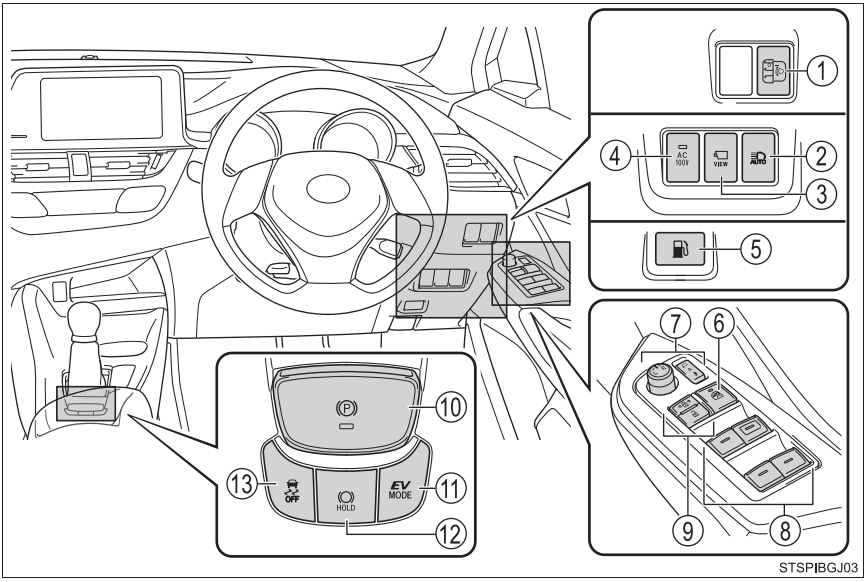


① **パワースイッチ . . . . . P. 156**
ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 156
ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 414
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 458
警告メッセージ . . . . . P. 427
② **シフトレバー . . . . . P. 164**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 164
けん引時の注意 . . . . . P. 416
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 166
③ **メーター . . . . . P. 87**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 87, 94
警告灯／表示灯 . . . . . P. 80
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 422

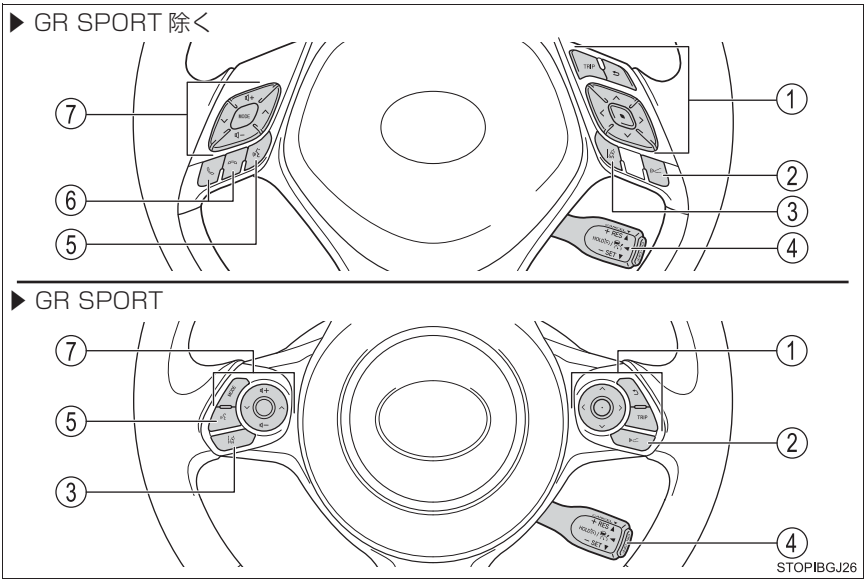
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 91**
表示内容 . . . . . P. 91
エネルギーモニター . . . . . P. 99
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 427
⑤ **方向指示レバー . . . . . P. 168**
ランプスイッチ . . . . . P. 176
ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・尾灯 . . . . . P. 176
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ . . . . . P. 185
⑥ **ワイパー&ウォッシャースイッチ（フロント）. . . . . P. 187**
ワイパー&ウォッシャースイッチ（リヤ）. . . . . P. 191
使い方 . . . . . P. 187, 191
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 370
⑦ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 411**
⑧ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 367**
⑨ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 132**
⑩ **エアコン . . . . . P. 310**
操作方法 . . . . . P. 310
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）. . . P. 313
シートヒーター★ . . . . . P. 318
⑪ **オーディオ★※**
音楽を聴く
電話をかける・受ける（ハンズフリー）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■スイッチ類



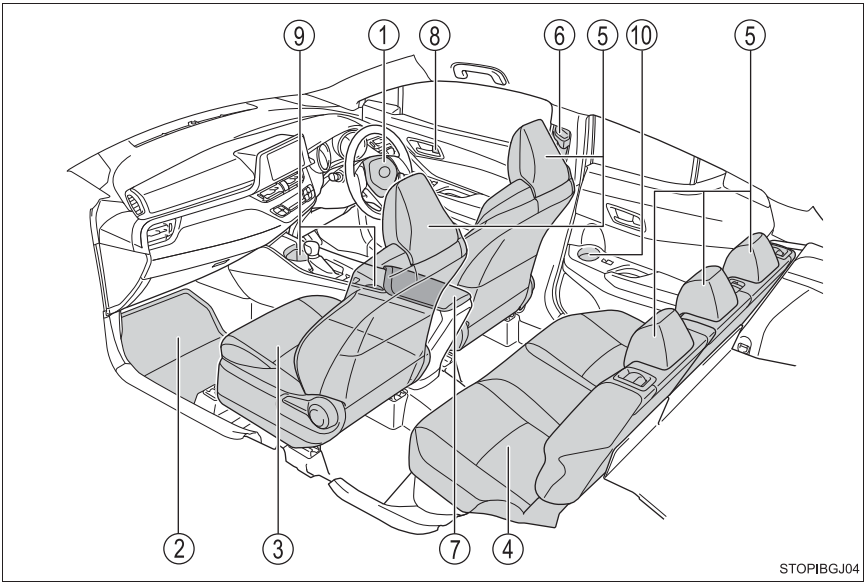
① 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . .P. 178
② オートマチックハイビームスイッチ. . . . . .P. 181
③ カメラスイッチ★ ※1
④ AC100V スイッチ★ . . . . . .P. 338, 345
⑤ 給油口オープナー . . . . . .P. 195
⑥ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 138
⑦ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 136
⑧ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 138
⑨ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 110
⑩ パーキングブレーキスイッチ. . . . . .P. 169
かける・解除する . . . . . .P. 169, 170
冬季の注意 . . . . . .P. 306
警告ブザー・警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 171, 424, 427
⑪ EV ドライブモードスイッチ . . . . . .P. 162
⑫ ブレーキホールドスイッチ . . . . . .P. 173
⑬ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 297



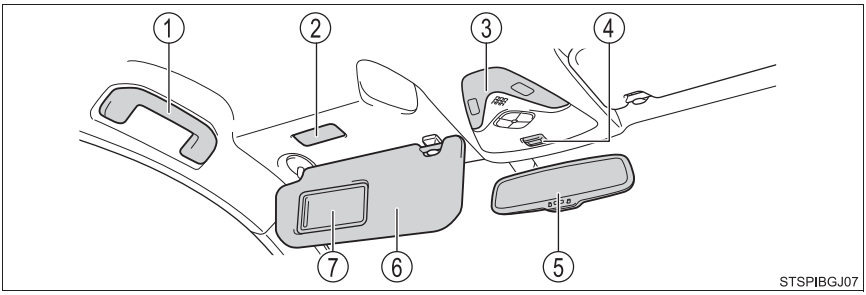
① メーター操作スイッチ . . . . . P. 92
② 車間距離切りかえスイッチ . . . . . P. 244
③ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . P. 219
④ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. . . . . P. 238
⑤ トークスイッチ ※2 . . . . . P. 337
⑥ 電話スイッチ★ ※1 . . . . . P. 337
⑦ オーディオスイッチ ※1 . . . . . P. 337

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
※2：別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 34
② フロアマット . . . . . P. 26
③ フロントシート . . . . . P. 126
④ リヤシート . . . . . P. 127
⑤ ヘッドレスト . . . . . P. 129
⑥ シートベルト . . . . . P. 30
⑦ コンソールボックス . . . . . P. 324
⑧ ロックレバー . . . . . P. 110
⑨ カップホルダー . . . . . P. 326
⑩ ボトルホルダー . . . . . P. 325



① アシストグリップ . . . . . .P. 337
② バニティミラーランプ★ . . . . . .P. 334
③ フロントインテリアランプ／パーソナルランプ . . . . . .P. 321
④ ヘルプネットボタン★ ※1
⑤ インナーミラー . . . . . .P. 134
⑥ サンバイザー ※2 . . . . . .P. 334
⑦ バニティミラー . . . . . .P. 334

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。
※1：別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
※2：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 47）

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....26
安全なドライブのために.....28
シートベルト.....30
SRS エアバッグ.....34
排気ガスに対する注意.....42
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....43
チャイルドシート.....44
1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴.....64
ハイブリッドシステムの注意.....69
1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....75
オートアラーム.....76

運転する前に

点検整備

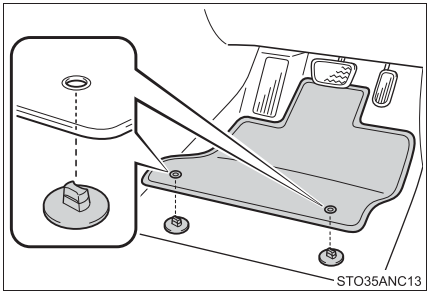
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

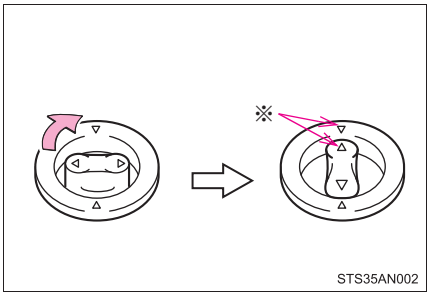
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

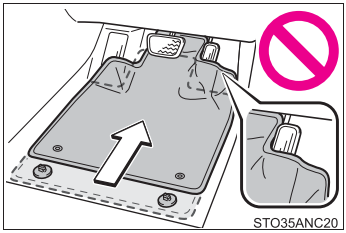
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 126）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 126, 132）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 129）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 30）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 30）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 134, 136）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

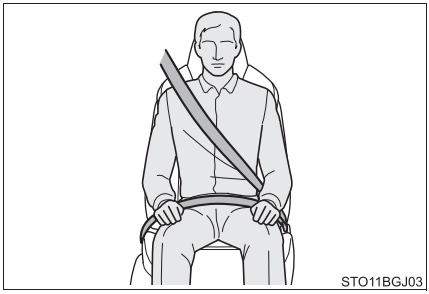
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

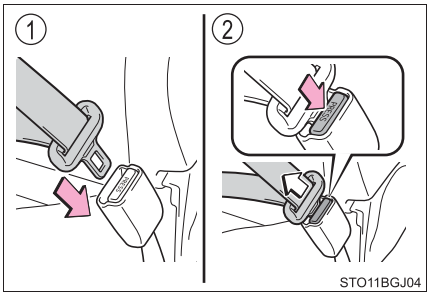
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方、はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

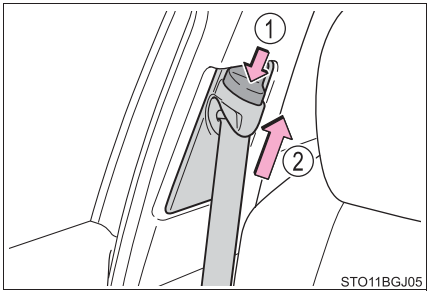


シートベルトの高さ調節（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

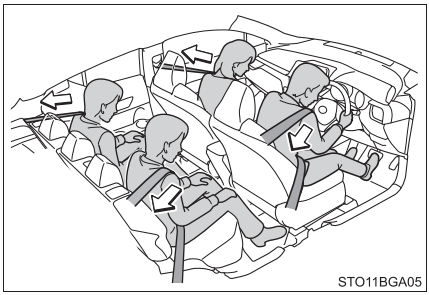
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 30）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

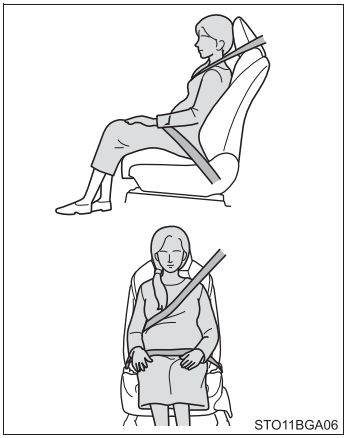
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 30）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 30）

警告

■お子さまを乗せるとき

→P. 59

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

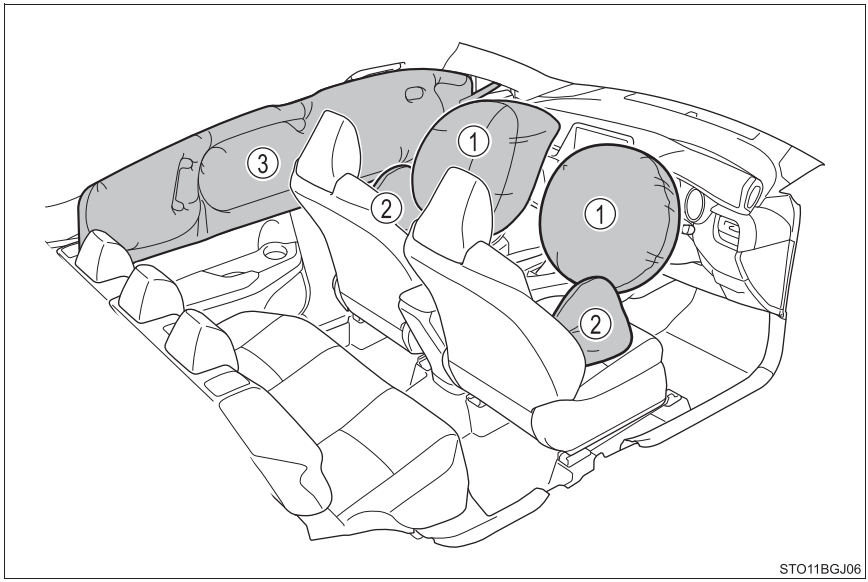
●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

② SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

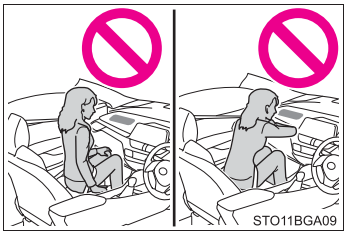
③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

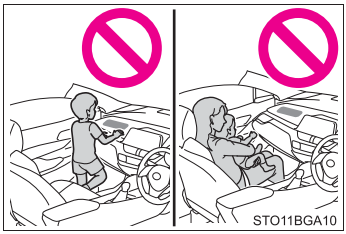
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 44）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



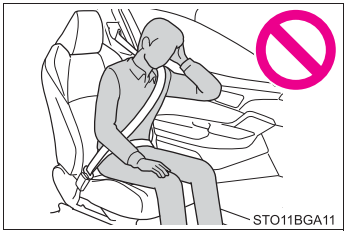
- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



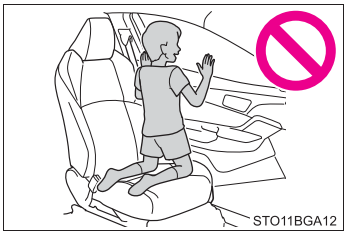
警告

■SRS エアバッグについて

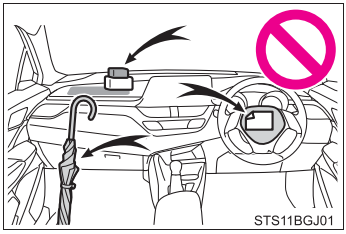
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



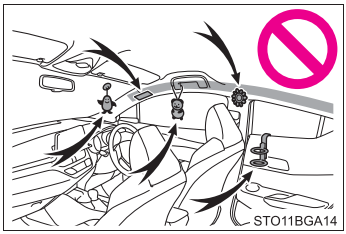
●助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→P. 438）



警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカー等周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→ P. 70）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

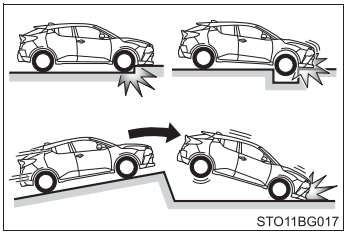
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

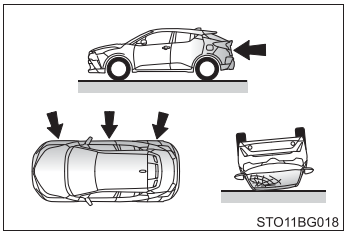
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

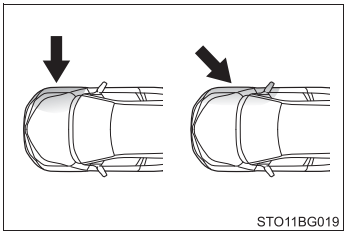


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

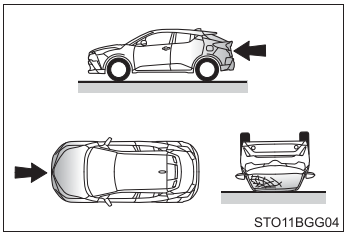


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

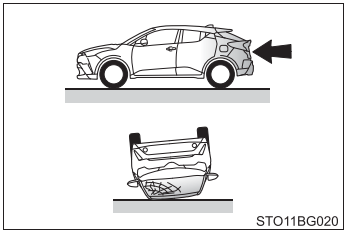
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

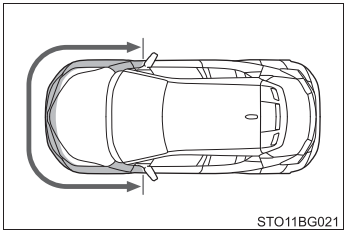


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

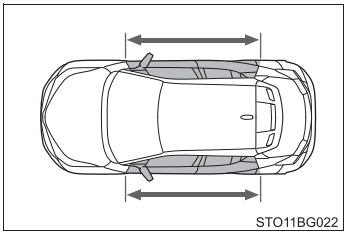
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

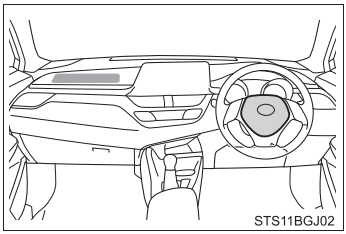
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


STO11BG021

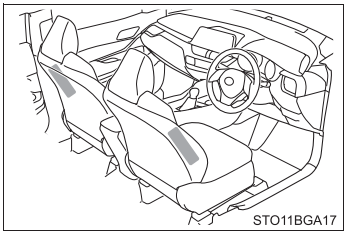
●SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき


STO11BG022

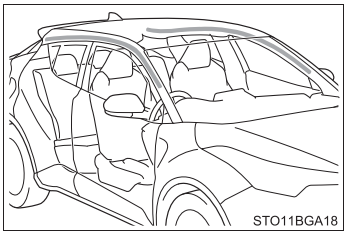
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


STS11BGJ02

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


STO11BGA17

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


STO11BGA18

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 111）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 138）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→ P. 44）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 57
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・P. 60
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・P. 62

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 49）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 49）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

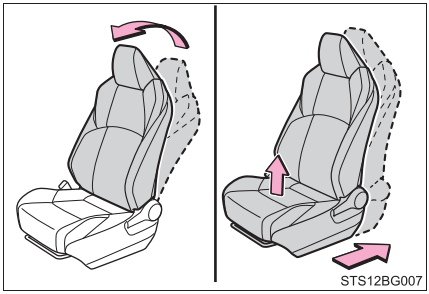
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる



● シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

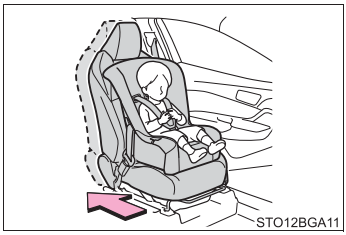
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

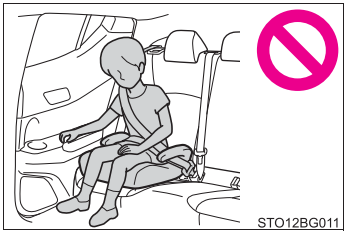
●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

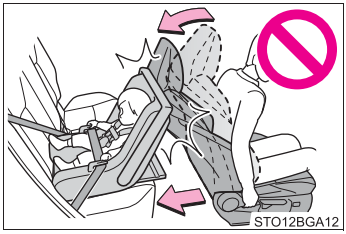


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 51）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 55）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN(ECE) R129認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

IN11AV055

※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

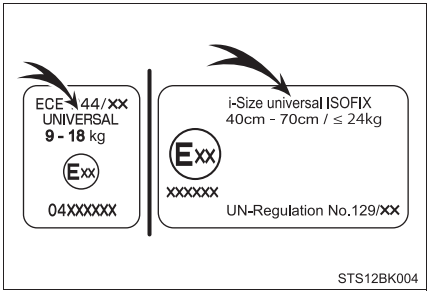
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

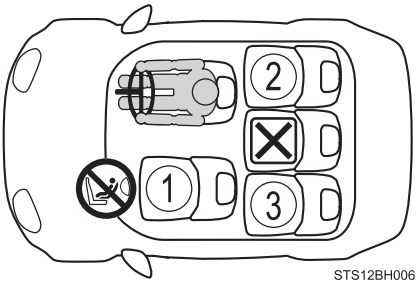
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



※1,2,3 ①	※4 U L
※3 ②	U L
※3 ③	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 55）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

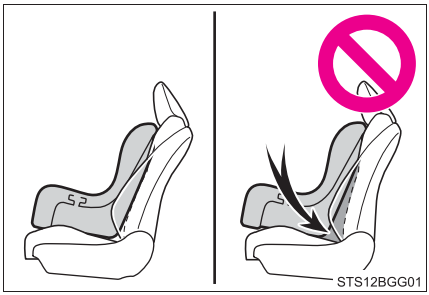
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1、R2X、R2	R1、R2X、R2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X、F2、F3	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2、B3	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

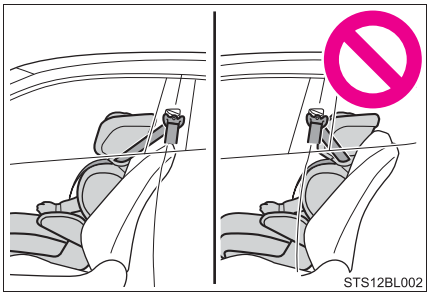
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0, 0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

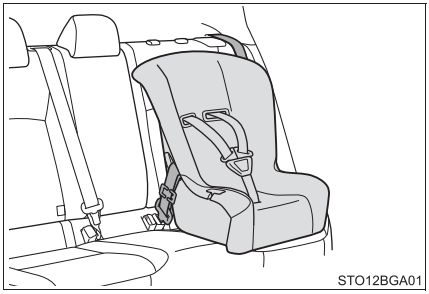
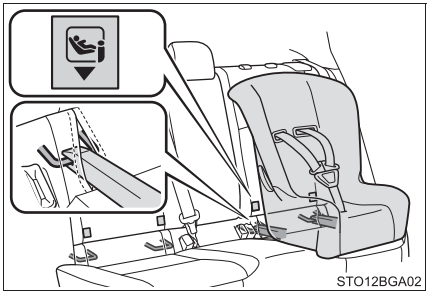
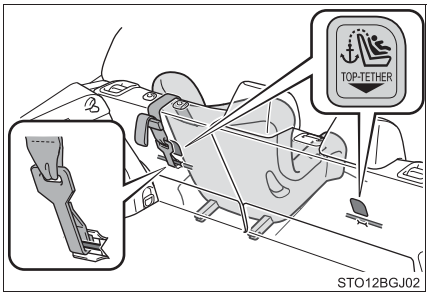
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	 STO12BGA01	P. 58
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 STO12BGA02	P. 60
テザーベルトを固定する	 STO12BGJ02	P. 62

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

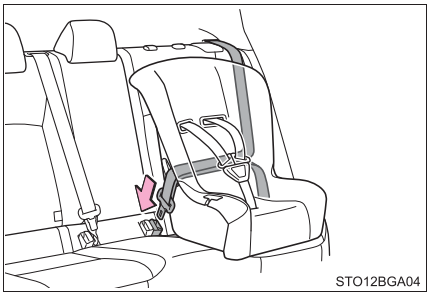
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 46）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 129）

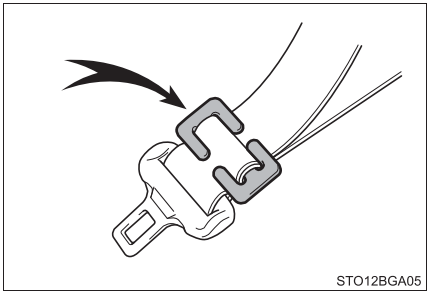
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。


STO12BGA04

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）


STO12BGA05

5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 59）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

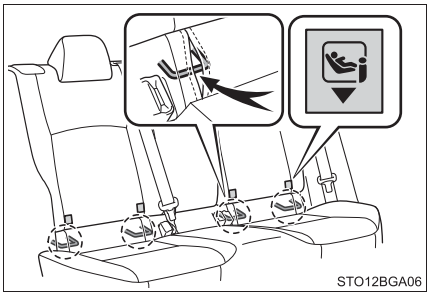
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にISOFIXロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）


STO12BGA06

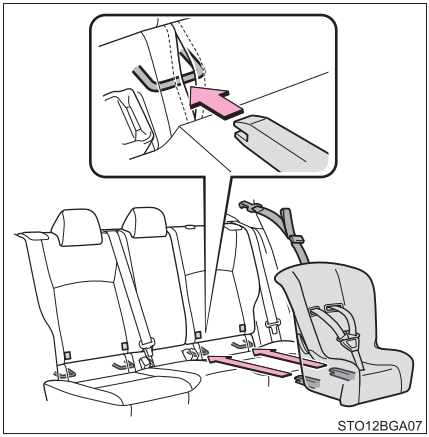
■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 50, 51）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 129）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。


STO12BGA07

3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 59）

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

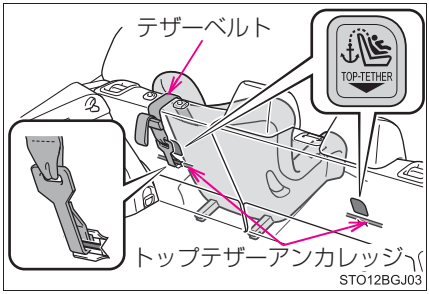
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

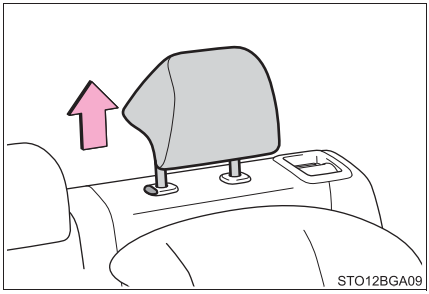


■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

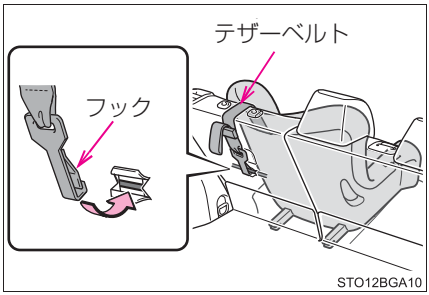
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 129）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→ P. 59）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

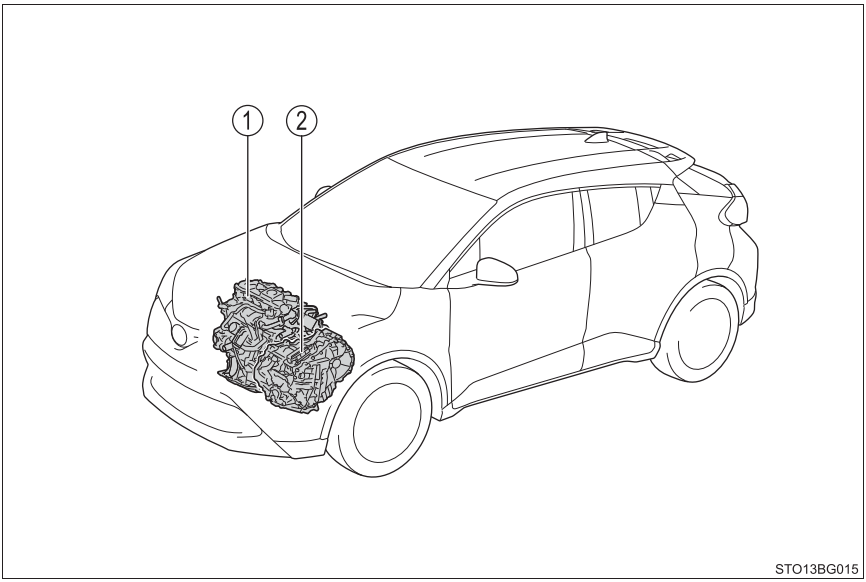
■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 66）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■回生ブレーキについて

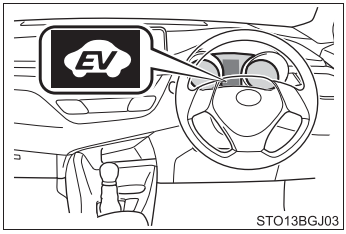
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

●シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 465

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトレバーを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- ●エンジンルームからのモーター音
- ●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音
- ●バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- ●急加速時のエンジン音
- ●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ●ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- ●駆動用電池冷却用吸入口（→ P. 70）から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

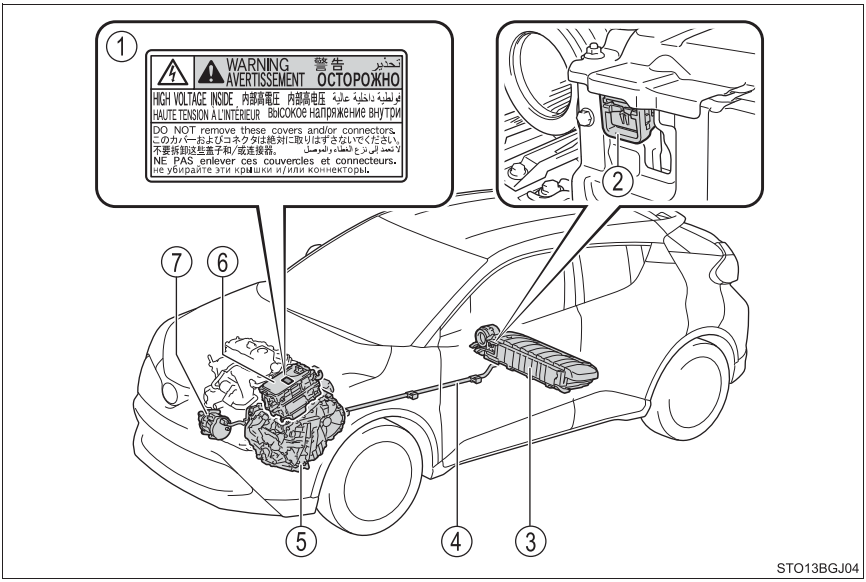
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 484）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。



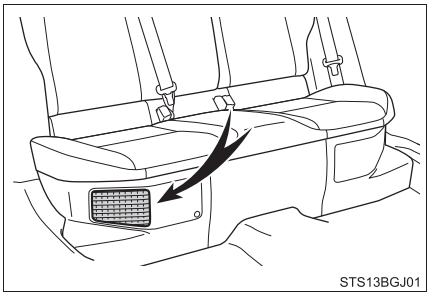
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ 駆動用電池
④ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑤ 電気モーター
⑥ パワーコントロールユニット
⑦ エアコンコンプレッサー

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（運転席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



緊急停止システム

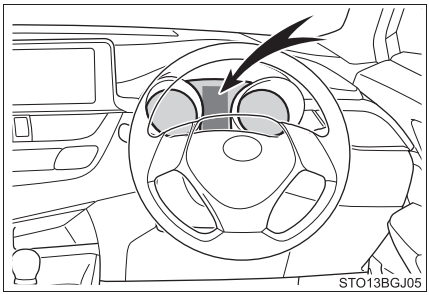
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 424）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 7.5L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

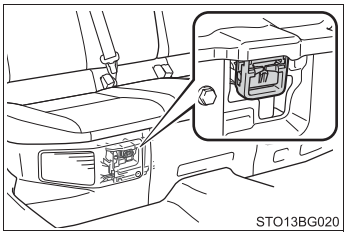
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 416）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●火気や高温のものを絶対に近づけない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

●吸入口が目づまりしないよう定期的に清掃してください。（→ P. 382）

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

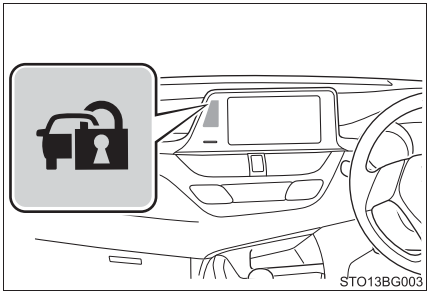
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

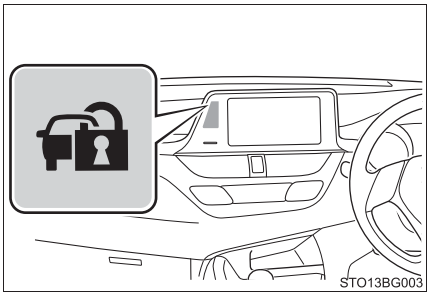
オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。



オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

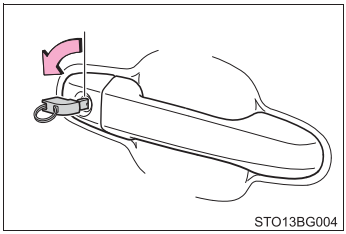
●ドアガラスが閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

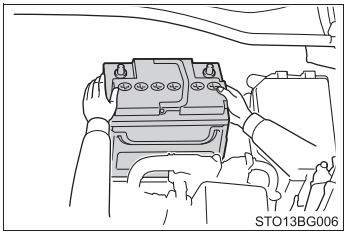
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき


STO13BG004

●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

STO13BGA02

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
（→ P. 466）


STO13BG006

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

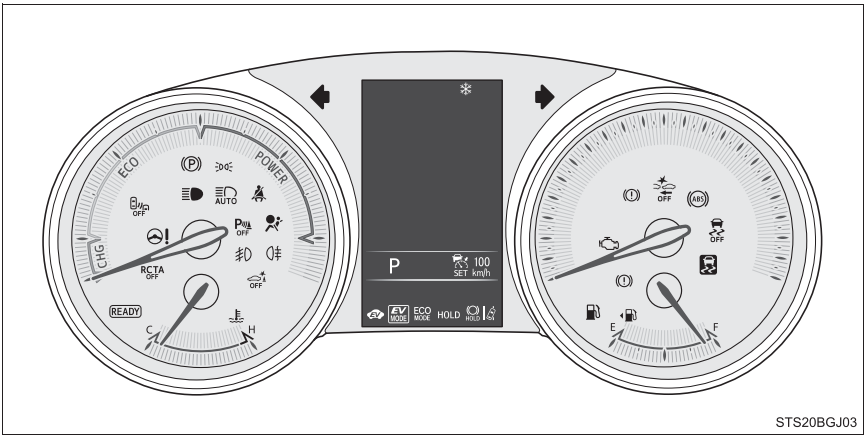
メーターの見方

2

2. メーターの見方
警告灯／表示灯.....80
計器類.....87
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....91
エネルギーモニター／
燃費画面.....99

警告灯／表示灯

メーター・インストルメントパネル・アウターミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



STS20BGJ03

警告灯

システム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯 (赤色)	P. 422
※1		エンジン警告灯	P. 422
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 422
※1		ABS ＆ブレーキアシスト警告灯	P. 423
※1		パワーステアリング警告灯（赤色）	P. 423
※1		パワーステアリング警告灯（黄色）	P. 423
※1, 2		クリアランスソナー OFF 表示灯★	P. 423
※1, 2		PKSB OFF 表示灯★	P. 423
※2		RCTA OFF 表示灯★	P. 423
※1, 3		スリップ表示灯	P. 423

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
※1		電子制御ブレーキ警告灯 (黄色)	P. 424
※1, 4	OFF	PCS 警告灯	P. 424
※ 2		パーキングブレーキ表示灯	P. 424
		燃料残量警告灯	P. 424
		運転席・助手席シートベルト非着用警告灯	P. 425
※ 5		後席シートベルト非着用警告灯	P. 425

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。

※3 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※4 点滅または点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※5 インストルメントパネルに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯			参照先
		方向指示表示灯	P. 168
		尾灯表示灯	P. 176
		ハイビーム表示灯	P. 177
	READY	READY インジケーター	P. 156
		フロントフォグランプ表示灯★	P. 185
		リヤフォグランプ表示灯★	P. 185
	AUTO	オートマチックハイビーム表示灯	P. 181
	P	パーキングブレーキ表示灯	P. 169
※1, 2	P OFF	クリアランスソナー OFF 表示灯★	P. 264
※1, 2	OFF	PKSB OFF 表示灯★	P. 282
※1, 2	OFF	BSM OFF 表示灯★	P. 257
※1, 3		BSM ドアミラーインジケーター★	P. 257, 274

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
※2	RCTA OFF	RCTA OFF 表示灯★	P. 274
※4		セキュリティ表示灯	P. 75, 76
※1, 5		スリップ表示灯	P. 297
※1, 2	OFF	VSC OFF 表示灯	P. 298
※1, 2	OFF	PCS 警告灯	P. 209

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のとき点灯します。

※3 ドアミラーに表示されます。

※4 インストルメントパネルに表示されます。

※5 点滅した場合はシステムが作動していることを示してます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ディスプレイ上に表示される表示灯・シンボル表示

表示灯			参照先
※1, 2, 3	HOLD	ブレーキホールド作動表示灯	P. 173, 424
※1	HOLD	ブレーキホールドスタンバイ表示灯	P. 173
※4		LTA 表示灯	P. 219, 424
		クルーズコントロール表示灯	P. 238
	SET	クルーズコントロールセット表示灯	P. 238
		レーダークルーズコントロール表示灯	P. 238
	SPORT	SPORT 表示灯	P. 255
	ECO MODE	エコドライブモード表示灯	P. 255
	EV	EV インジケーター	P. 66
	EV MODE	EV ドライブモード表示灯	P. 162
		低温表示灯	P. 87

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 点灯した場合はシステムが作動していることを示してます。

※3 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。

※4 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

シンボル表示			参照先
		充電警告灯	P. 422
		油圧警告灯	P. 422
		高水温警告灯	P. 425
		スマートエントリー＆スタートシステム	P. 156
		ハイブリッドシステム過熱警告灯	P. 425
		ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール	P. 425

警告

■**安全装置の警告灯が点灯しないとき**

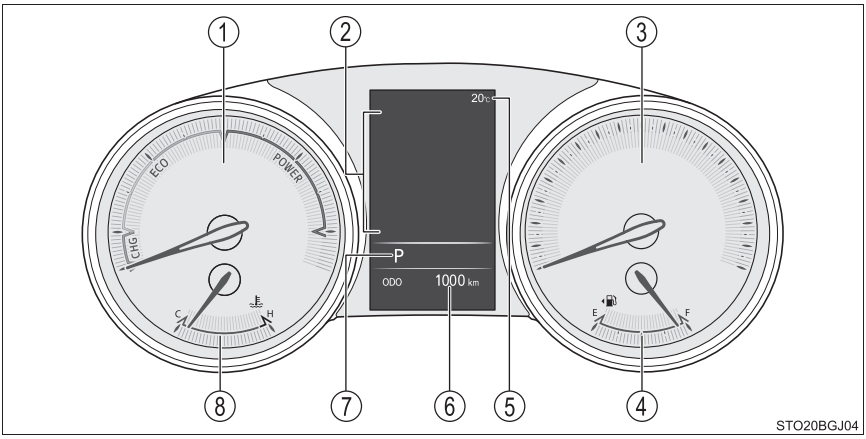
ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■**ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために**

高水温警告灯が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 469）

計器類



① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。（→ P. 91）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 427）

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

⑤ 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

⑥ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑦ シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。（→ P. 164）

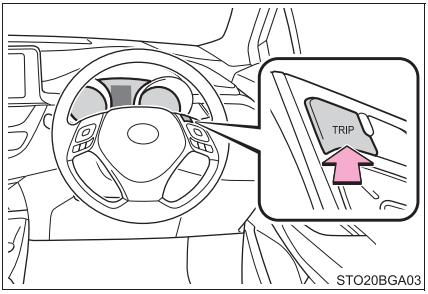
⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

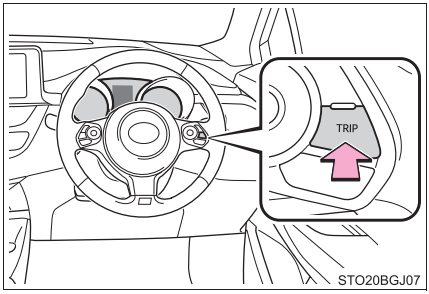
オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

▶ GR SPORT 除く



▶ GR SPORT

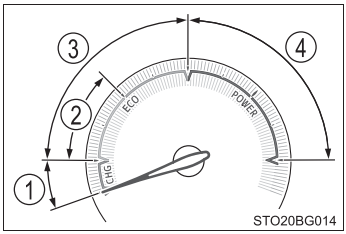


知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステムインジケーター



① チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。

●インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” が表示され続ける場合は、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 TRIP スイッチを押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる

3 パワースイッチを OFF にする

4 TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする

5 そのまま約 5 秒間、TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■メーター内の時計調整について（マルチメディア装着車）

マルチメディア画面で時間を調整することができます。
別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の針がレッドゾーン（“H”）に入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 469）

マルチインフォメーションディスプレイ

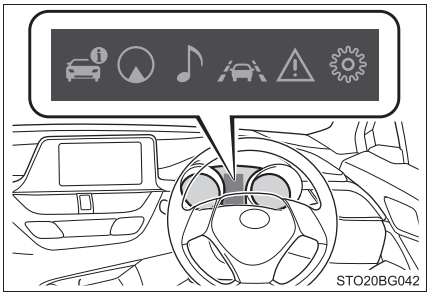
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。（→ P. 92）

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示できます。（→ P. 92）

オーディオシステム連携表示★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

走行支援システム連携画面

以下の走行支援システムの作動状況や、各種警報などの情報を表示できます。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 219）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 238）
・RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 233）

警告メッセージ表示画面

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 427）

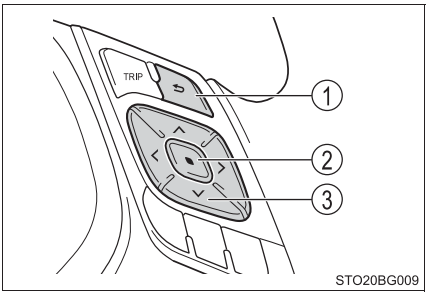
設定画面

走行支援機能の作動内容や、メーター表示に関する設定などを変更することができます。（→ P. 94）

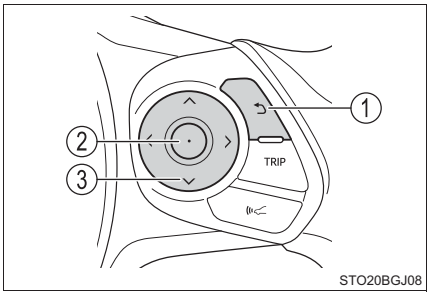
操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

▶ GR SPORT 除く



▶ GR SPORT



① ひとつ前の画面にもどる

② 決定／設定

③ 選択／ページ送り

ドライブインフォメーション

● 瞬間燃費（バー表示／数値表示）※ 1

現在の燃費を表示します

● 平均燃費（ リセット間 ※ 2 ／ 始動後／ 給油後）※ 1

リセット後、始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は参考として利用してください。

● 平均車速（ リセット間 ※ 2 ／ 始動後）※ 1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。

● 走行時間（ リセット間 ※ 2 ／ 始動後）※ 1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。

● 距離（ 航続可能距離／ 始動後）※1

燃料残量による走行可能な距離、ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

・運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

・燃料給油量が少量（約 5L 以下）のときは、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 90）

● エネルギーモニター

→ P. 99

● スピードメーター

現在の車速を表示します。

● G モニター

→ P. 97

● EV 走行時間の割合

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の総走行時間のうち、EV 走行時間の割合を表示します。（→ P. 96）

● 非表示

ドライブインフォメーションを非表示にします。

※1 ドライブインフォメーション1または2で登録できます。

※2 リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの ／ を長押しします。画面に表示されている項目がひとつ以上リセット可能な場合は、リセットする項目を選択する画面が表示されます。

設定画面

各装備の機能の ON ／ OFF や設定変更などができます。

変更可能な項目では、 ／ を押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 219）

LTA の設定を変更できます。

・車線維持支援機能（センタートレース）の ON ／ OFF
・車線逸脱警報感度
・ふらつき検知機能の ON ／ OFF
・ふらつき検知機能の感度

● PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 204）

PCS の設定を変更できます。

・PCS 機能の ON ／ OFF
・衝突警報感度

● BSM（ブラインドスポットモニター）★ （→ P. 257, 274）

BSM の設定を変更できます。

・BSM 機能の ON ／ OFF
・BSM の検知感度
・ドアミラーインジケーターの明るさ
・RCTA 機能の ON ／ OFF

● クリアランスソナー★ （→ P. 263）

クリアランスソナーの ON ／ OFF を変更できます。

● PKSB (パーキングサポートブレーキ)★ (→ P. 282)

PKSB の ON ／ OFF を変更できます。

● RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 233）

RSA の ON ／ OFF を変更できます。

● ドライブモード （→ P. 255）

● 照度調整 （→ P. 97）

メーターの照度を調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 車両設定

次の項目を設定することができます。

・後退速度抑制（→ P. 145）
後退速度の抑制制御を ON ／ OFF できます。

・ クリアランスソナー★（→ P. 263）
ブザー音量の調整ができます。

・ クリアランスソナー＆ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→ P. 263, 274）
ブザー音量の調整ができます。

・ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 488）
RSA の設定を変更できます。

● 表示設定

次の項目を設定することができます。

・言語
マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。

・単位
マルチインフォメーションディスプレイ内の燃費表示の単位を選択することができます。

・ EV インジケーター設定
EV インジケーターの表示／非表示を選択することができます。

・ドライブインフォメーション 1 ～ 2
ドライブインフォメーションに表示させる項目をそれぞれに 2 つまで選択することができます。

・割込み表示
割込み表示される項目の表示・非表示を項目ごとに変更することができます。

・表示設定初期化
メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■設定項目について

●「車両設定」と「表示設定」設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、そのまま使用しても問題ありません。

■補機バッテリを取り外したり、再接続したとき

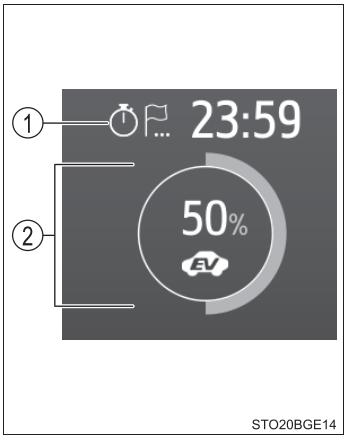
ドライブインフォメーションが初期化されます。

■EV 走行時間表示

総走行時間のうち、EV 走行時間の割合を表示します。

① 総走行時間

② EV 走行時間の割合

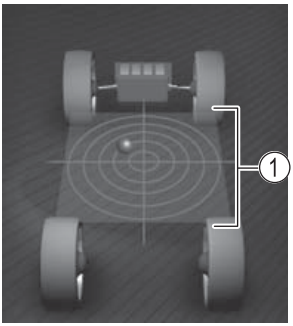


■G モニター

システム作動による走行状況を表示します。

① G 表示

車両にかかる G の大きさをボールの位置で表示します。



STS20BL005

■メーターの照度調整について

車幅灯点灯時に照度調整できます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）は照度調整できない場合があります。

■エンディング画面

パワースイッチを OFF にしたとき、約３０秒間マルチインフォメーションディスプレイに以下の情報が表示されます。

●走行時間／ EV 走行時間の割合

●走行距離

●平均燃費

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

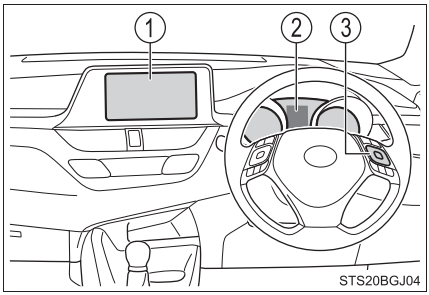
■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面（マルチメディア装着車）に表示します。

① マルチメディア画面（マルチメディア装着車）
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ メーター操作スイッチ



エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの “<” または “>” を押して を選択し、“∧” または “∨” を押してエネルギーモニターを表示させる

▶ マルチメディア画面（マルチメディア装着車）

1 「MENU」スイッチを押す

2 「情報」を選択する

エネルギーモニター画面以外が表示されたときは、「エネルギー」を選択してください。

■ 表示について

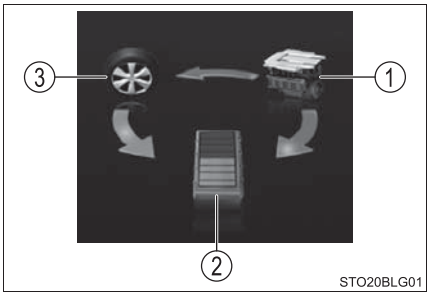
エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。
緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき
黄：電気エネルギーを使用しているとき
赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

① エンジン
② 駆動用電池
③ タイヤ

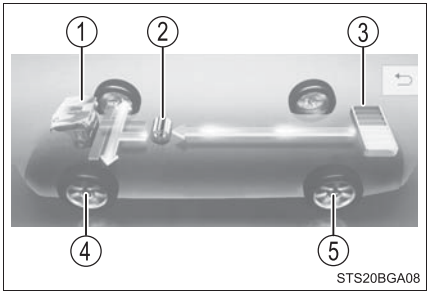
図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



▶ マルチメディア画面（マルチメディア装着車）

① エンジン
② 電気モーター
③ 駆動用電池
④ フロントタイヤ
⑤ リヤタイヤ

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



知識

■マルチメディア画面上の駆動用電池の表示について（マルチメディア装着車）

駆動用電池に充電しているときは緑色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色がかわります。

■駆動用電池の残量警告について

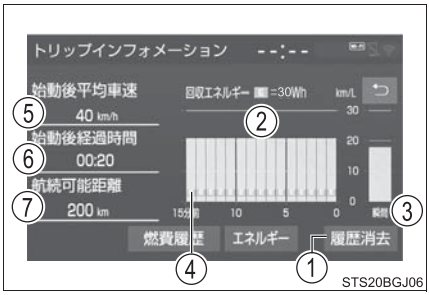
- シフトレバーが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。
- マルチインフォメーションのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

燃費画面の見方（マルチメディア装着車）

■ トリップインフォメーションの見方

「MENU」スイッチを押して、「情報」画面を表示させる

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択する



① 履歴消去

② 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

③ 瞬間燃費

④ 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク I つが 30Wh です。

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後経過時間

⑦ 航続可能距離（→ P. 102）

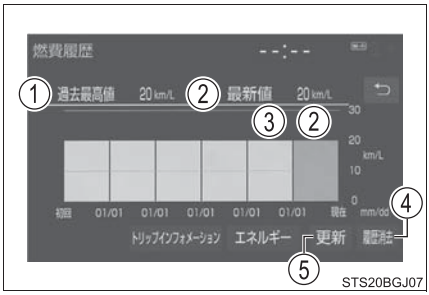
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。
表示される平均燃費は、参考として利用してください。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

「MENU」スイッチを押して、「情報」画面を表示させる

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択する

① 過去最高値表示
② 最新値表示
③ 過去平均燃費表示
④ 履歴消去
⑤ 最新値更新



平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。
表示される平均燃費は、参考として利用してください。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 90）

各部の操作 3

3-1. キーの取り扱い

キー.....104

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）.....108

バックドア.....114

スマートエントリー&スタートシステム.....119

3-3. シートの調整

フロントシート.....126

リヤシート.....127

ヘッドレスト.....129

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....132

インナーミラー.....134

ドアミラー.....136

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ.....138

キー

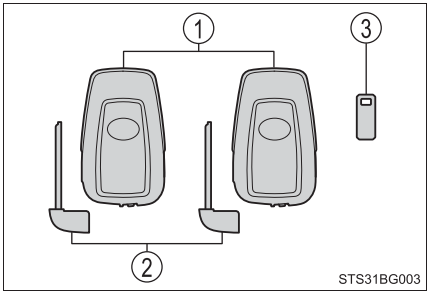
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 119）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

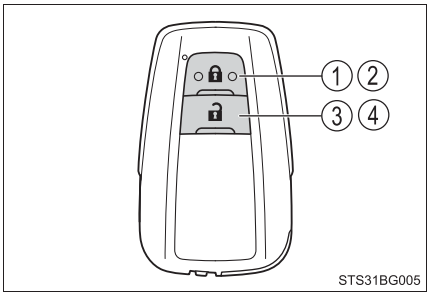
① 全ドアを施錠する（→ P. 108）

② ドアガラスを閉める ※（→ P. 108）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 108）

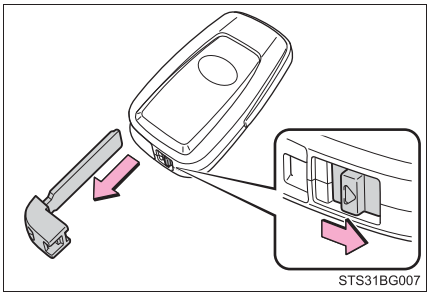
④ ドアガラスを開く ※（→ P. 108）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。



メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 460）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。(→ P. 121)

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない
・電池はお客様自身で交換することができます。(→ P. 392)
ただし、交換の際にキーが破損するおそれがあるためトヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 392

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■電子キー取り扱いの注意

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号はケースを取り外した際、確認が可能です。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

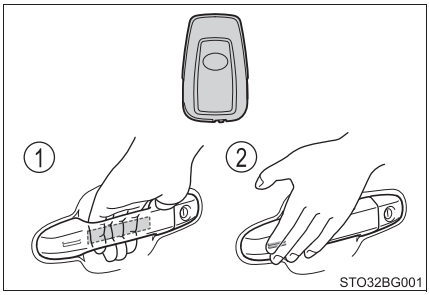
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

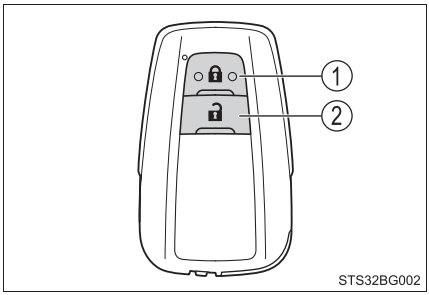
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■作動の合図

- ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）
- ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

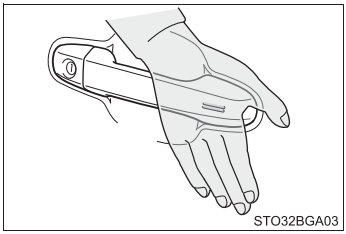
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

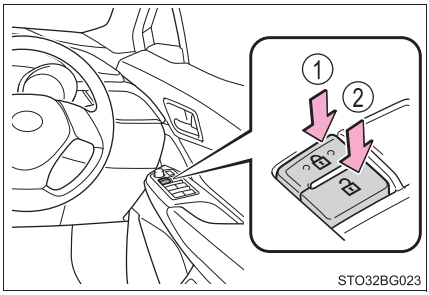
- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 460）
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 392）

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

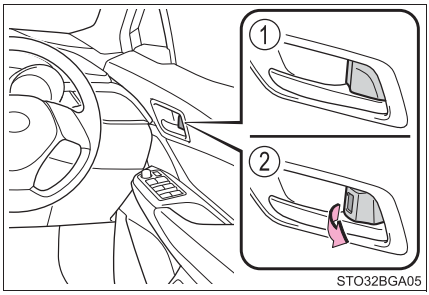


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 460）

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 を約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと５秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。🔓 ボタンを押して30秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 76）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 122

■カスタマイズ機能

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 484）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

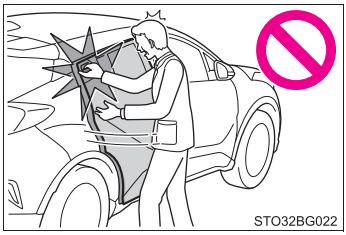
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■リヤドアを閉めるときは

指などを挟まないよう十分注意してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

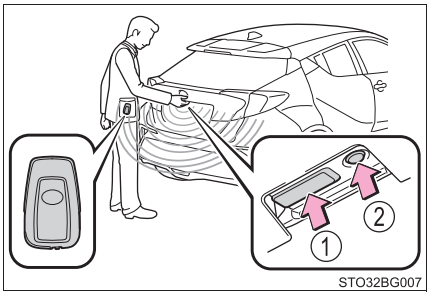
電子キーを携帯して操作します。

① バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 108

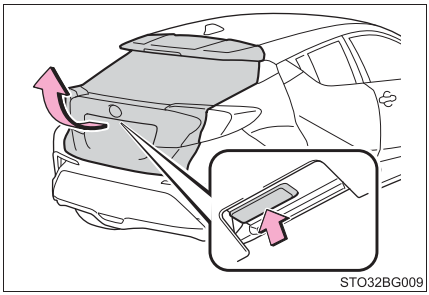
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 110

バックドアを開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる。

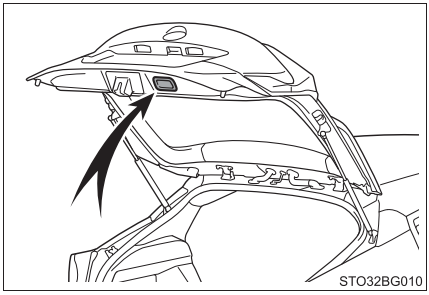
バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができない場合があります。



バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。
開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ラゲージルームランプ

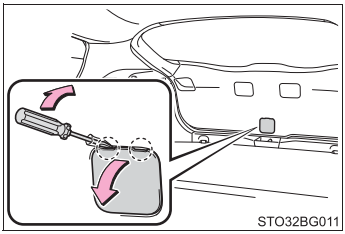
バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

■バックドアが開かないときは

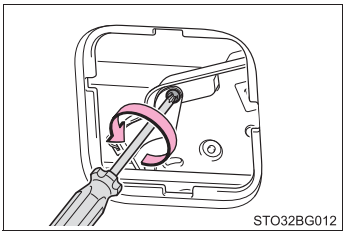
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

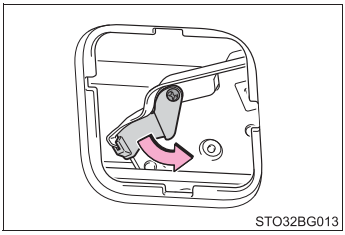
傷がつくのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



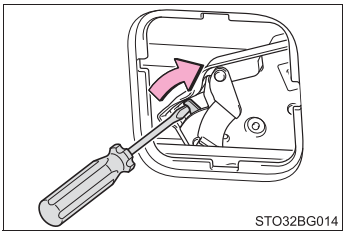
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

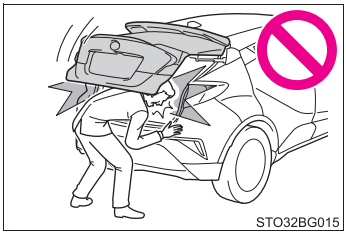
●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

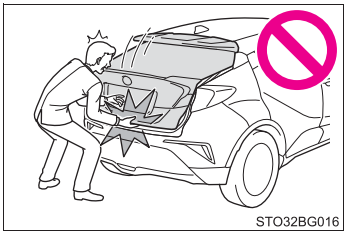
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

警告


STO32BG015

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

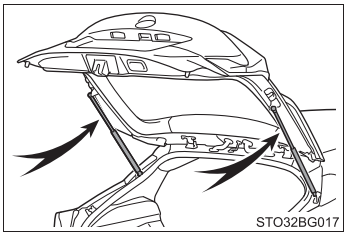

STO32BG016

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。


STO32BG017

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
必ず運転者が携帯してください。

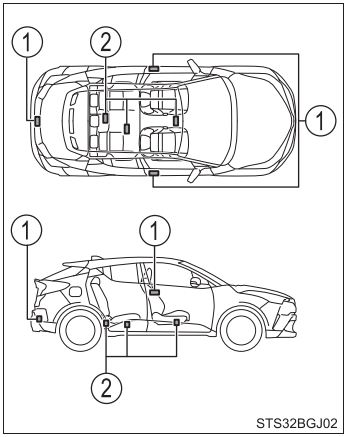
- ドアを解錠・施錠する（→ P. 108）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 114）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 156）

知識

■アンテナの位置

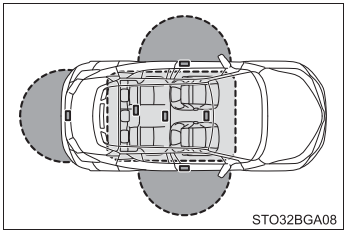
① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時
フロント席ドアハンドル／バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

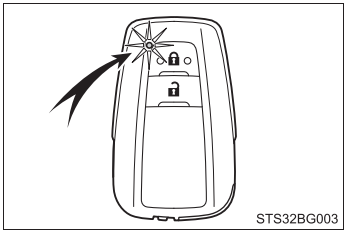
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。



節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

長時間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 460）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠・施錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると解錠・施錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 121）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 486）

●長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。(→ P. 121）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→ P. 460

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 461

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 486）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 108, 460）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 461

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 157

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P. 119）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

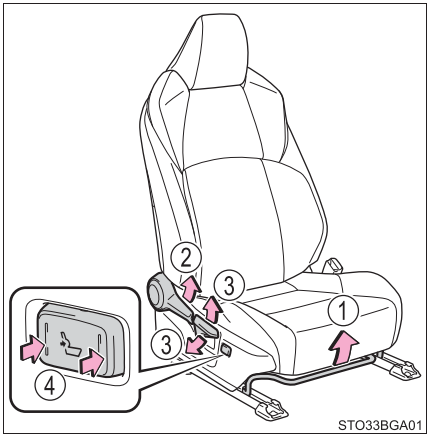
調整のしかた

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ クッション全体の上下調整（運転席のみ）

④ 腰部硬さ調整★



⚠ 警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを倒す前に

1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。
(→ P. 164)

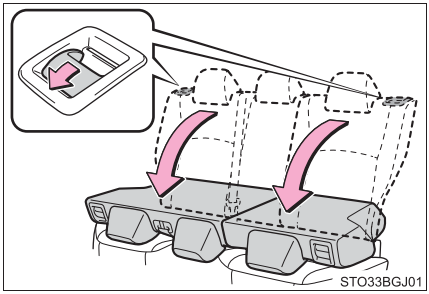
2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→ P. 126）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

3 リヤシートのヘッドレストを下げる（→ P. 129）

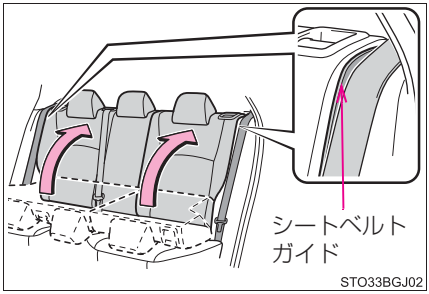
背もたれを倒す

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイドにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



警告

■背もたれを前倒しするとき

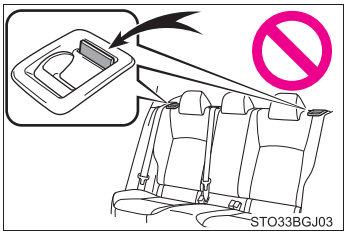
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

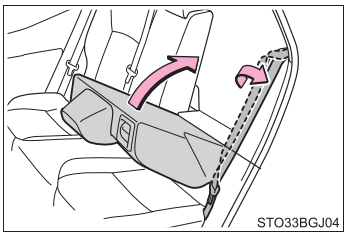
■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。
  シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



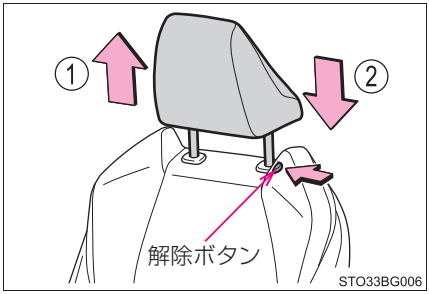
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

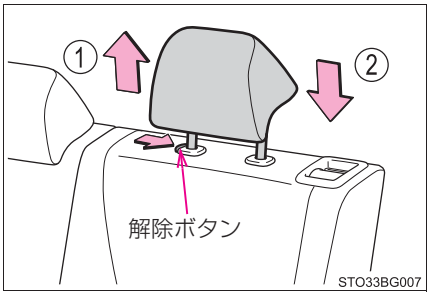


リヤシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

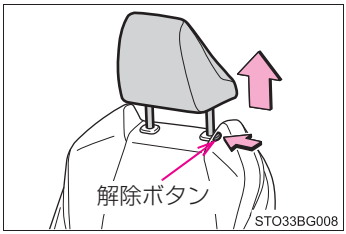


知識

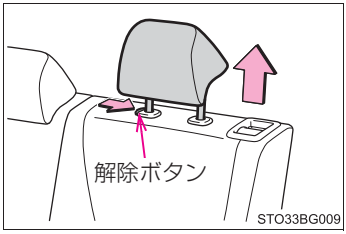
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。

▶フロントシート



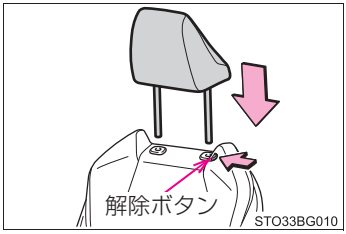
▶リヤシート



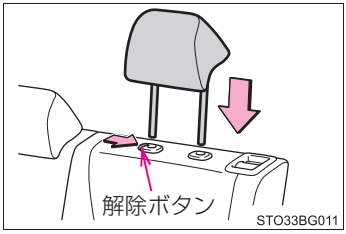
■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

▶フロントシート

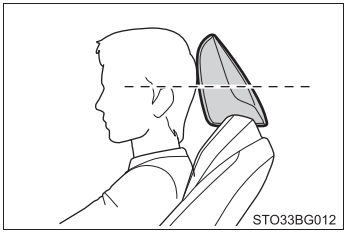


▶リヤシート



■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストについて

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

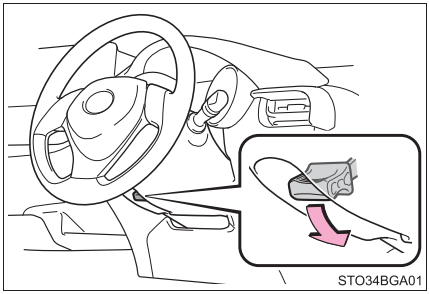
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

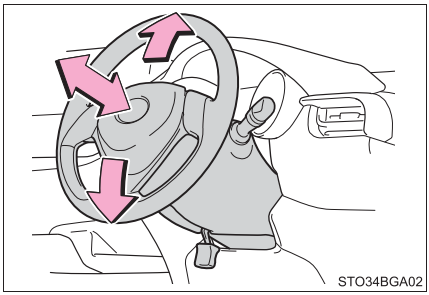
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



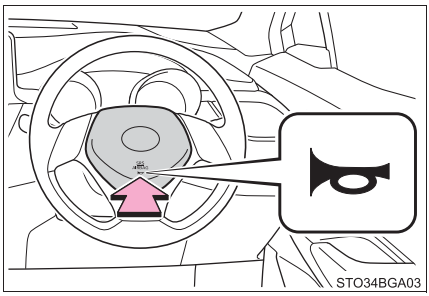
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

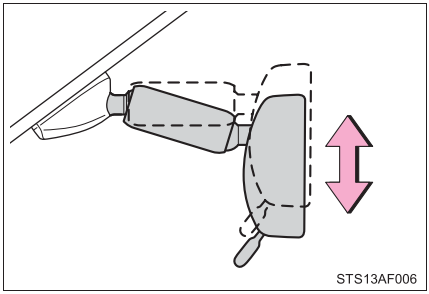
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



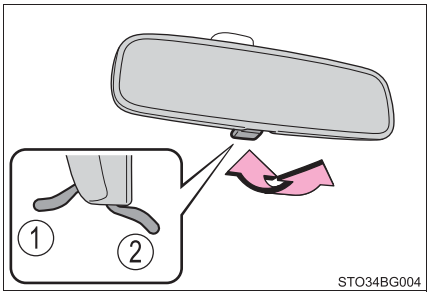
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

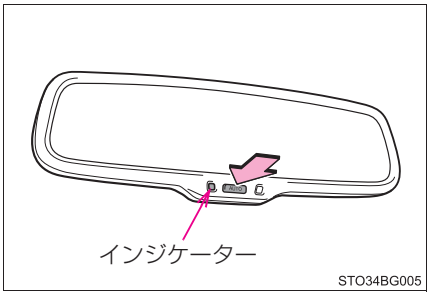
自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

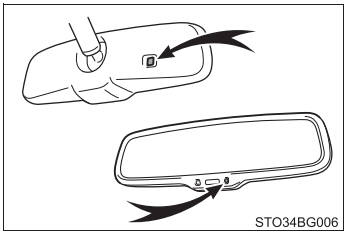
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

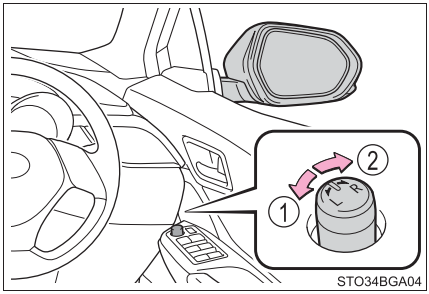
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



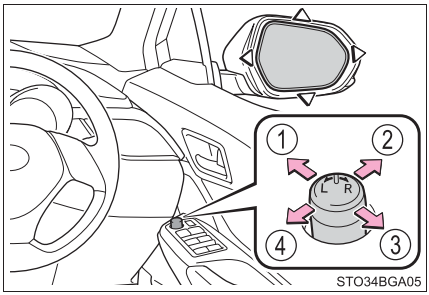
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

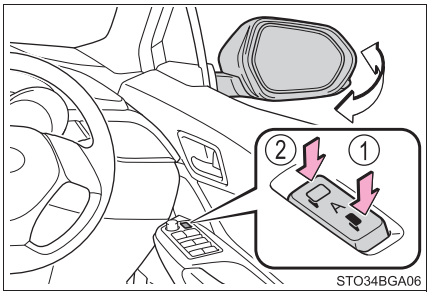


ドアミラーを格納・復帰する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、ドアの施錠・解錠に連動して作動します。



知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 313）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 487）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

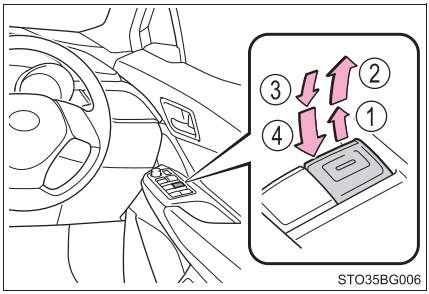
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

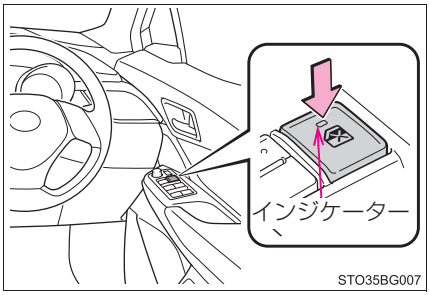
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すとインジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける、または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1. パワースイッチを ON モードにする
2. パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3. いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
4. パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5. いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
6. 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **ドアロック連動ドアガラス開閉機能**

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 460）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 108）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ **窓開警告機能**

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ **カスタマイズ機能**

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 487）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ドアガラスを開閉するとき**

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 138）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

警告

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 144
荷物を積むときの注意..... 154

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 156
EV ドライブモード..... 162
トランスミッション..... 164
方向指示レバー 168
電動パーキングブレーキ..... 169
ブレーキホールド 173

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 176
オートマチックハイビーム... 181
フォグランプスイッチ..... 185
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 187
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 191

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 193

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....198
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....204
LTA（レーントレーシングアシスト）.....219
RSA（ロードサインアシスト）.....233
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....238
先行車発進告知機能.....252
ドライブモードセレクト.....255
BSM（ブラインドスポットモニター）.....257
クリアランスソナー.....263
RCTA (リヤクロストラフィックアラート).....274
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....282
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....289
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....293
運転を補助する装置.....296

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....303
寒冷時の運転.....305

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 156

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 164）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 170）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 169）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 164）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 170）、シフトレバーを P にする（→ P. 164）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

3 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 170）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除し発進する（→ P. 170）

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを切りかえた（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は B ポジションを含む）のような通常と異なる操作が行われると、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステムの出力を抑制※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 296）

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 303）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→ P. 297）すると、急発進の抑制制御も停止※ します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。

※ TRC の作動を停止しても、後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、所定の速度をこえなくても後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／ OFF（非作動）を切りかえることができます。（→ P. 486）

・パワースイッチを ON モードにしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。後退時にアクセルペダルを踏みすぎたときなどに、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 414を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 164）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れて、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故ににつながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**仮眠するとき**

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ブレーキをかけるとき**

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 434, 448 をご覧ください。

■車体の損傷を防ぐために（GR SPORT）

大きな段差や輪止めなどがある場所、踏切、悪路では、十分に注意して走行してください。
標準モデルよりも最低地上高が低くなっているため、路面の状況によっては、バンパーや車両の下まわりなどを損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・ラゲージカバー
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 170）、シフトレバーを P の位置にする（→ P. 164）

3 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止します。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

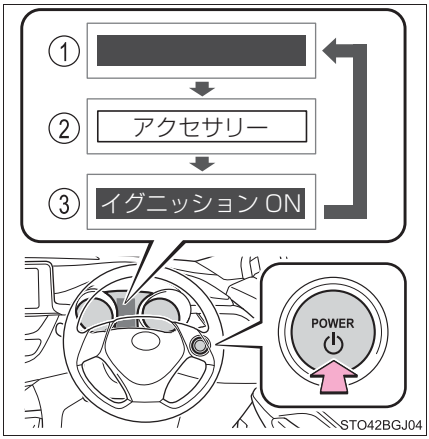
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。



※ シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFFになりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」と「電源を OFF してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」と「電源を OFF してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ **自動電源 OFF 機能**

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ **ハイブリッド車特有の音と振動について**

→ P. 67

■ **電子キーの電池の消耗について**

→ P. 106

■ **外気温が低いとき**

- ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ −30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 122

■ご留意いただきたいこと

→ P. 123

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 75）トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P. 461 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合はハイブリッドシステムを始動することができます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 427

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 392

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 460

警告

■**ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のハイブリッドシステム停止方法**

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P. 414)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。停車後にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを P にし、パワースイッチを押してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

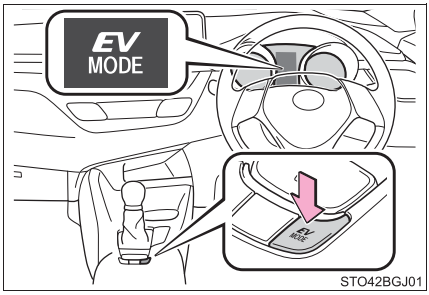
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON／OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



STO42BGJ01

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 99）
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 99）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■走行モード（→ P. 255）の切りかえについて

EV ドライブモードとエコモード／スポーツモードは併用することができます。ただし、スポーツモードとの併用時は EV ドライブモードが自動解除されやすくなることがあります。

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

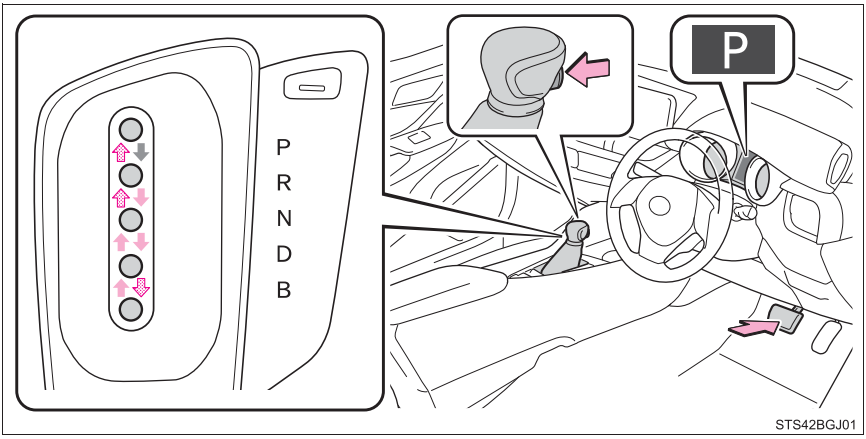
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

走行モードの選択

→ P. 255

知識

■ レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→ P. 255)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ 急発進の抑制について(ドライブスタートコントロール)

→ P. 145

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

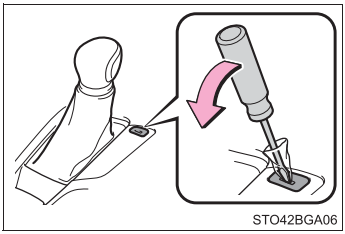
シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

2 パワースイッチを OFF にする

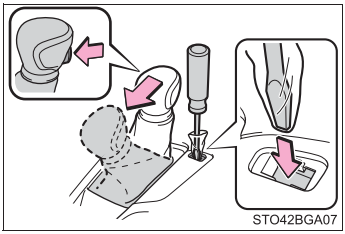
3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


STO42BGA06

5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


STO42BGA07

■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

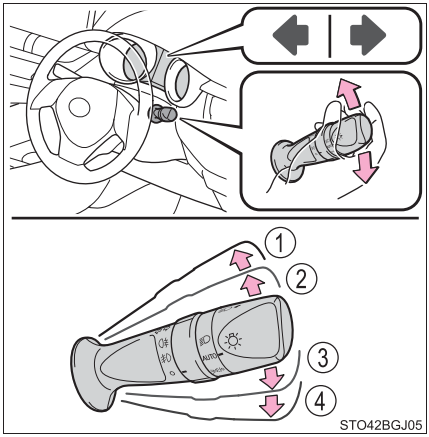
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

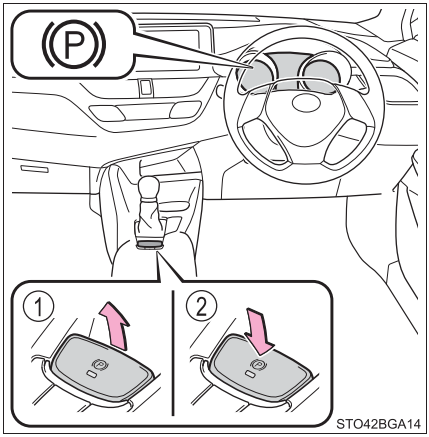
オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 170）

① オートモードを ON にする（停車中に「EPB シフト連動機能 ON」が マルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける）

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



② オートモードを OFF にする（停車中に「EPB シフト連動機能 OFF」が マルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける）

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

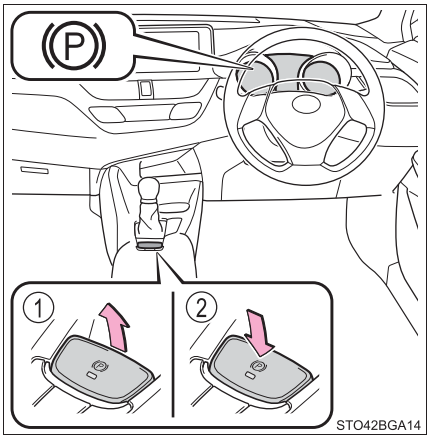
パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 424）

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチがONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■自動解除機能

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

●運転席ドアが閉じている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されました　しばらくお待ちください」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または 「EPB 現在使用できません 」が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■モードの切りかえについて

オートモードのON／OFFを切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■駐車するとき

→ P. 144

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P. 422

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 306

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。
ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

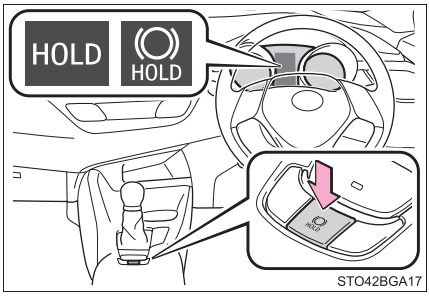
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーが D・B または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または B のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 169）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「Brake Hold 故障　ブレーキを踏み解除してください　販売店で点検」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 424

警告

■**急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■**すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■**駐車するとき**

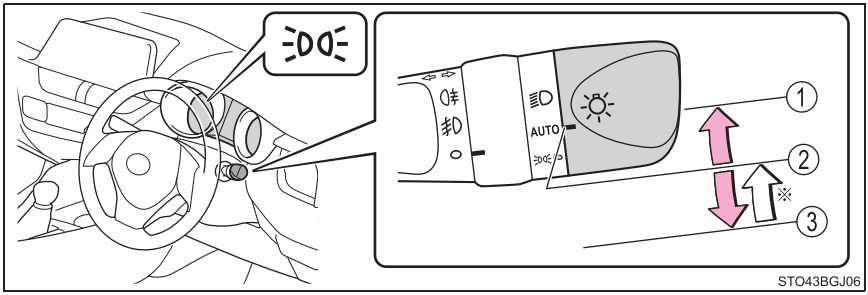
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように　スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを ③ /○ の位置へ操作し手を離すと、自動的に ② **AUTO** の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
①	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② **AUTO** ※1	LED デイライト★（→ P. 179）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③ /○ ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 操作するたびに、② **AUTO** による点灯状態と ③ /○ による点灯状態が切りかわります。

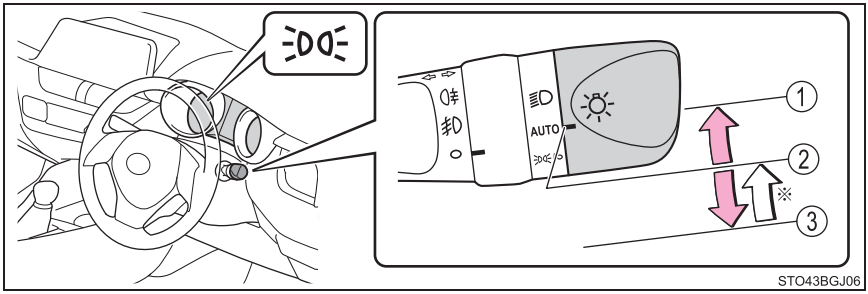
※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると ② **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

消灯のしかた

スイッチを ③ の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に ① か ③ の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを ③ の位置へ操作し手を離すと、自動的に ② **AUTO** の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★（→ P. 179）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

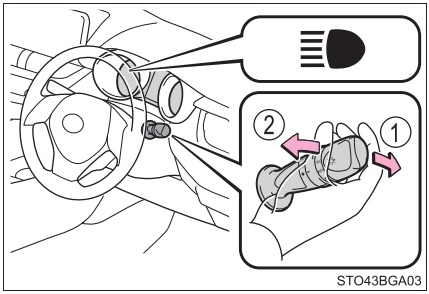
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

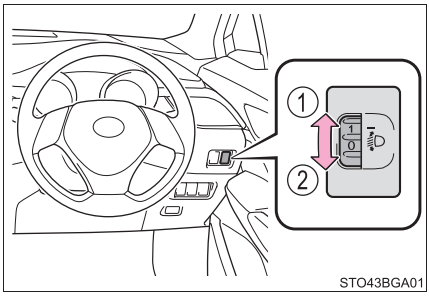


手動光軸調整ダイヤル★

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と 助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2.0
運転者	ラゲージルーム 満載時	3.0

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED デイライト★

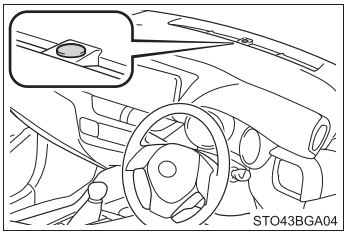
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
また、エアコン作動のさまたげとなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから ≣D/O または ≣D の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム （手動光軸調整ダイヤル非装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 487）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラスに設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

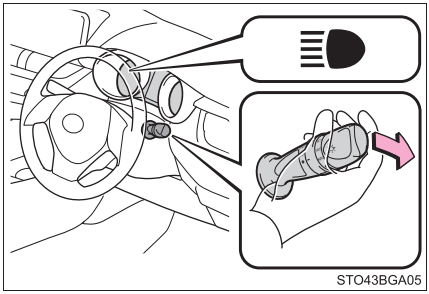
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

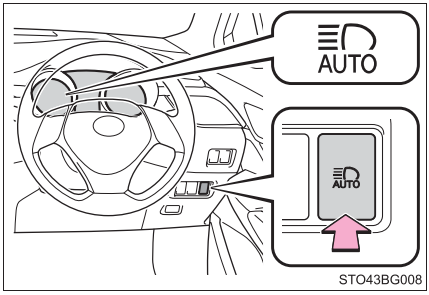
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを ≣D または AUTO にし、レバーを前方へ押す


STO43BGA05

2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



STO43BG008

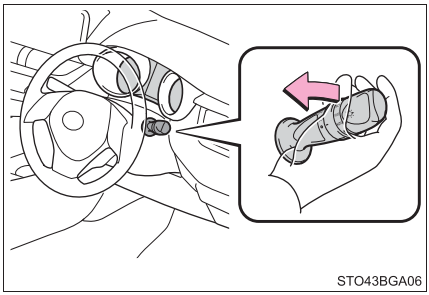
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

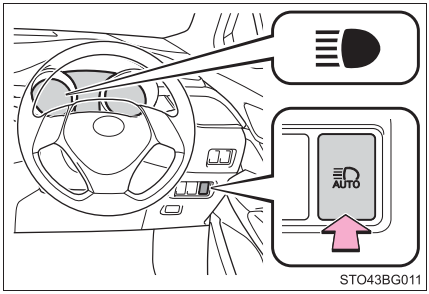

STO43BGA06

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



STO43BG011

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されているとき

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ★

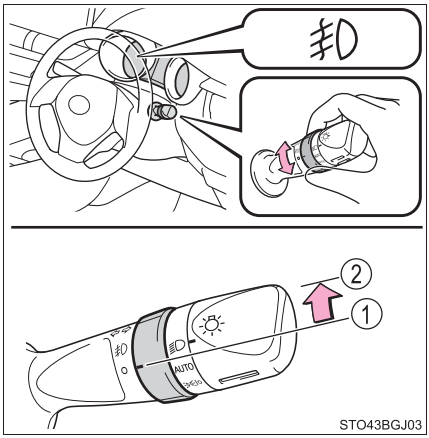
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する



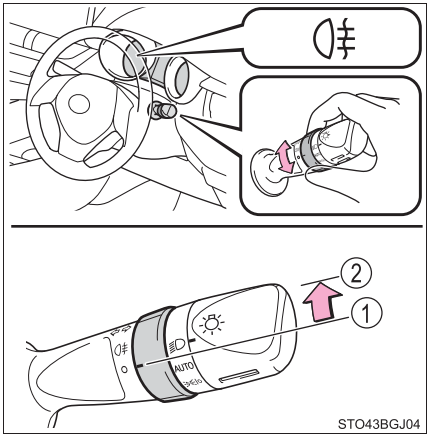
▶ リヤフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

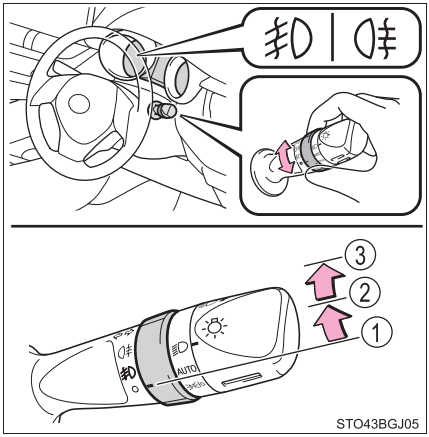
① 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：ヘッドランプまたはフロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨・霧・雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠作動調整式ワイパー装着車

① 停止

② 間欠作動

③ 低速作動

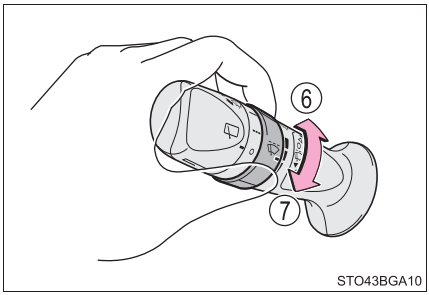
④ 高速作動

⑤ 一時作動

間欠作動（ ）を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

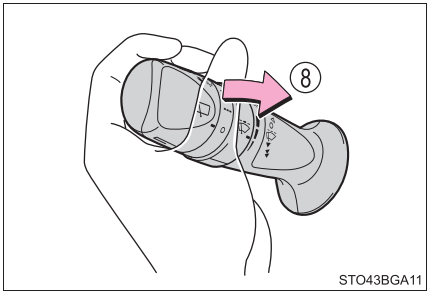
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー装着車

① ○ 停止

② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

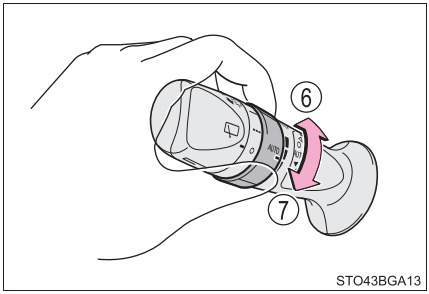
④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

AUTO モード（ AUTO ）が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

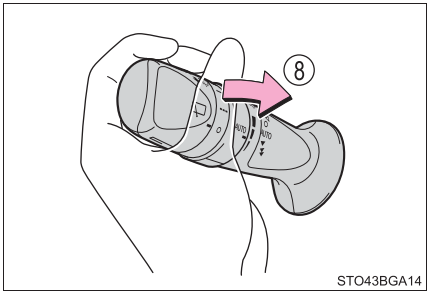
⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

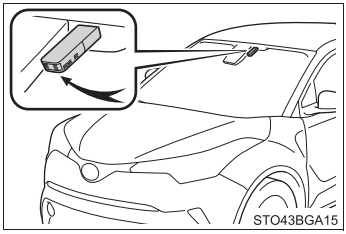
■液だれ防止作動（雨滴感知式ワイパー装着車）

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

●フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、AUTO モードが正常に作動しないことがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

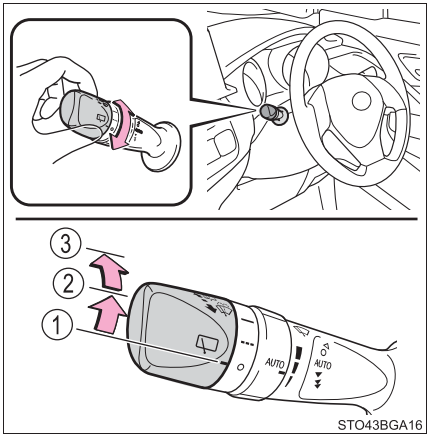
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① 停止

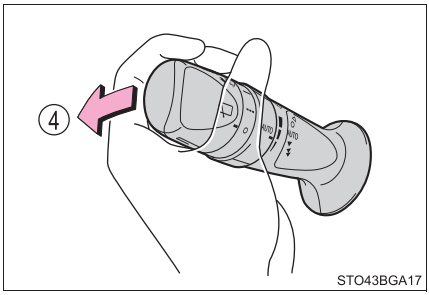
② 間欠作動

③ 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■**リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

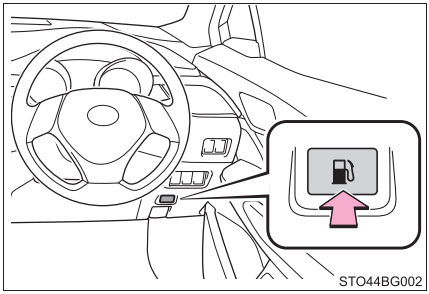
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

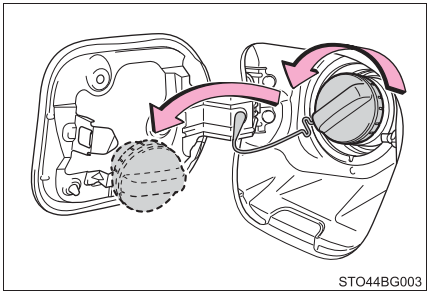
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを押して、給油扉を開く


STO44BG002

2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

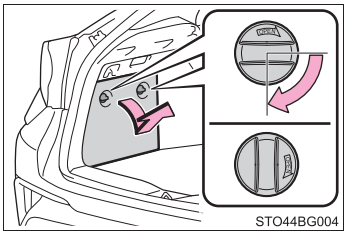

STO44BG003

知識

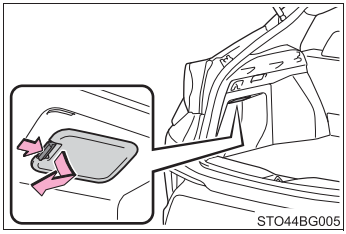
■車内のスイッチで給油扉が開かないとき

給油扉が開かないときは、次の方法で開けることができます。

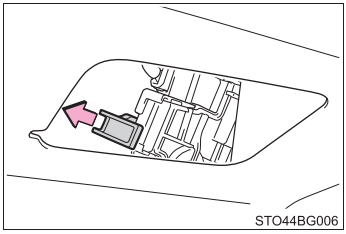
1 バックドアを開け、左側のフタをはずす★



2 ラゲージルームランプ下部にあるカバーを取りはずす



3 レバーを手前に引き、給油扉が開いたことを確認する

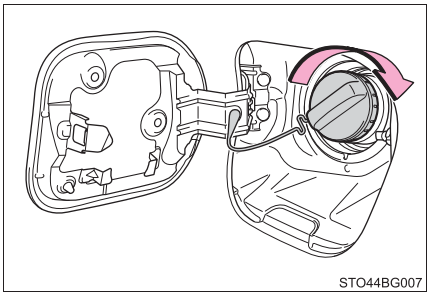


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 204

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 219

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→ P. 181

■ RSA（ロードサインアシスト）

→ P. 233

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 238

■ 先行車発進告知機能

→ P. 252

警告

■ Toyota Safety Sense について

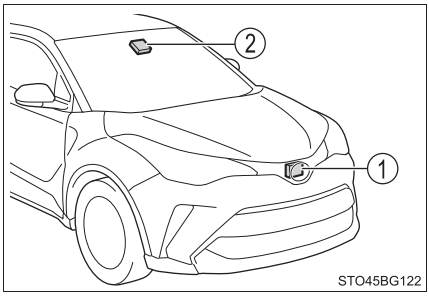
Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



警告

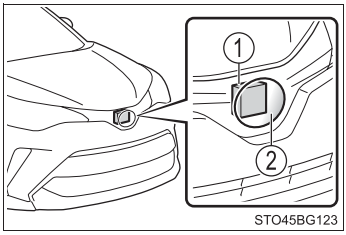
■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー



レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
  - ・フロントバンパーを交換したとき

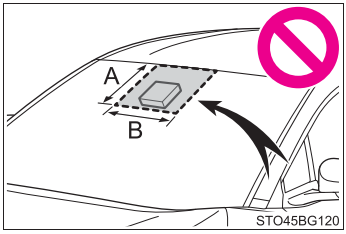
■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
  - ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - ・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラス前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

  A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

  B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 313）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

警告

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります）

R 202-LSG051

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 313）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中取扱書確認ください”が表示されたとき	レーダーおよびレーダーカバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “プリクラッシュセーフティ現在使用できません取扱書確認ください” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 204）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 209）

システムの作動対象

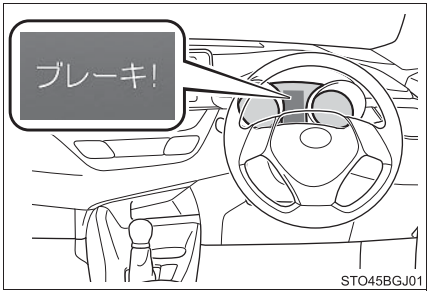
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

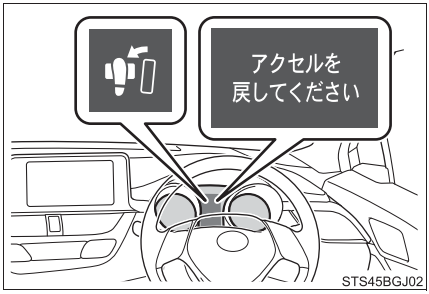
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



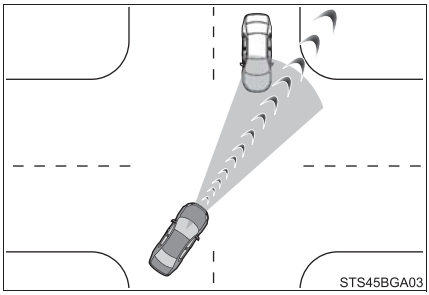
■ 緊急時操舵支援

歩行者と衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。

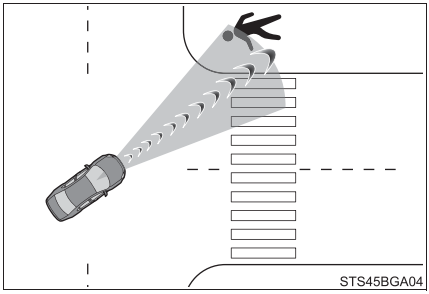
■ 交差点右左折支援

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 213
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 215

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約２秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**低速時加速抑制について**

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■**緊急時操舵支援について**

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤ★やタイヤパンク応急修理キット★を使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

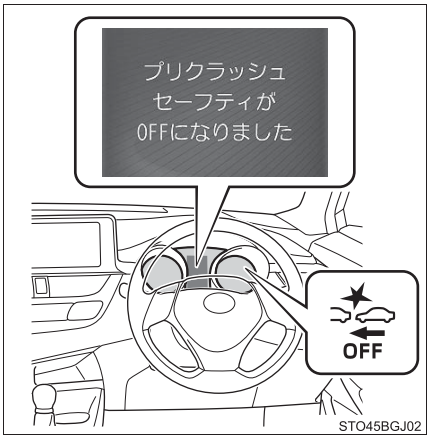
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの （→ P. 487）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 487）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

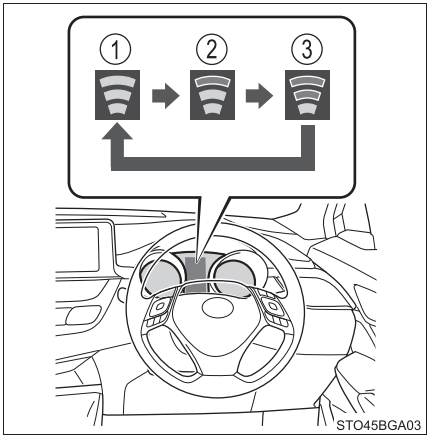
「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
・シフトレバーが R のとき
・VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む
・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・アクセルペダルを離す
・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む
・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
・ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	―	約 10 ～ 25km/h

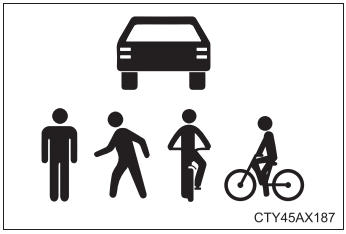
●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	―	約 10 ～ 25km/h

■作動対象の検出

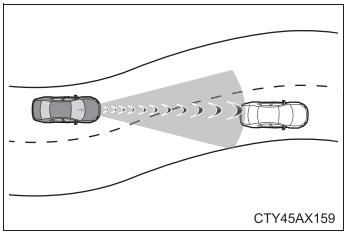
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 215）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



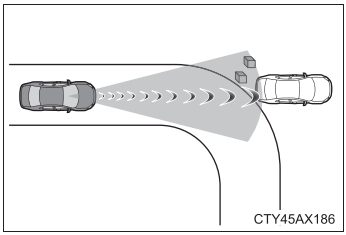
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

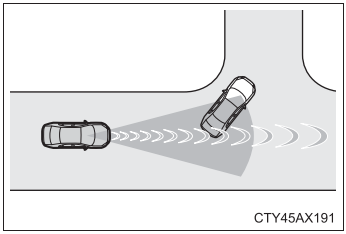


・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

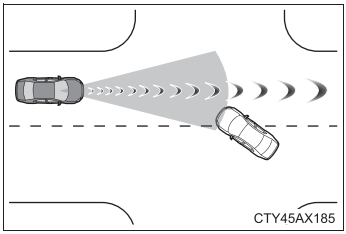


・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

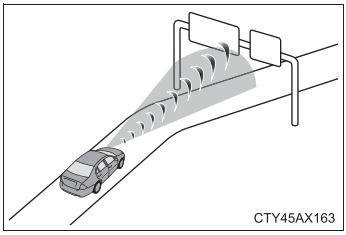
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



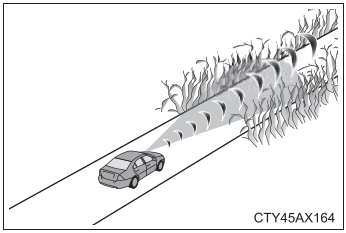
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

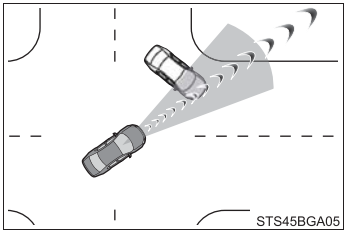


・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

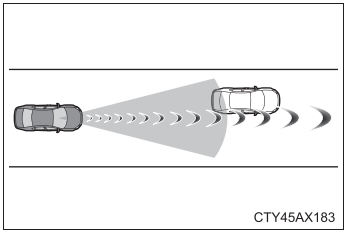


・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

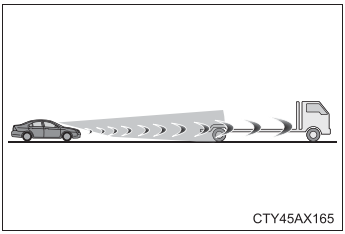
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき

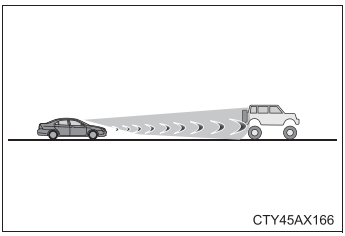


・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



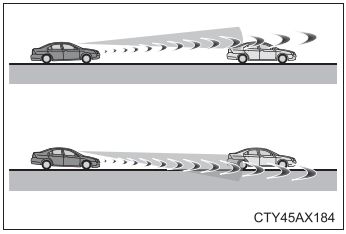
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間

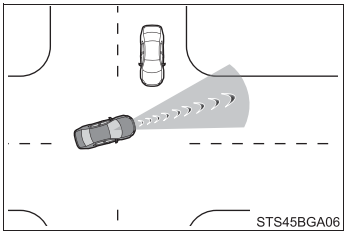
・自車が横すべりしているとき

・車両姿勢が変化しているとき

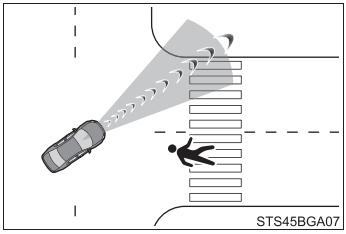


・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき

・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

・車線を区切る白 (黄) 線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど) とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・自車の前方中央付近にいる歩行者と衝突するとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 298）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

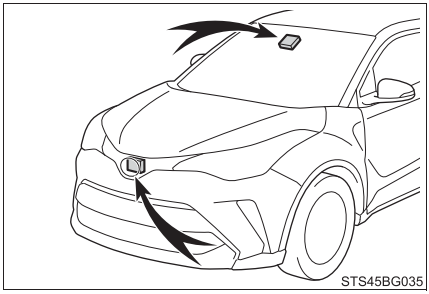
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路 ※ からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路 ※ からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路 ※ を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。



※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

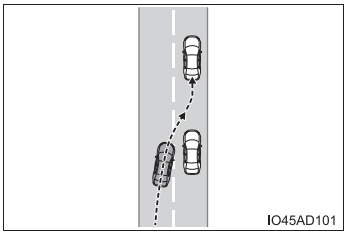
●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→ P. 228）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



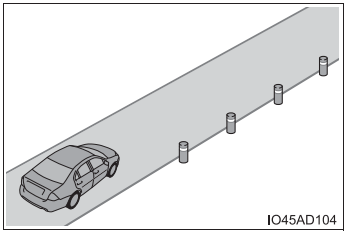
●先行車追従表示中（→ P. 228）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車追従表示中（→ P. 228）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

●先行車追従表示中（→ P. 228）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

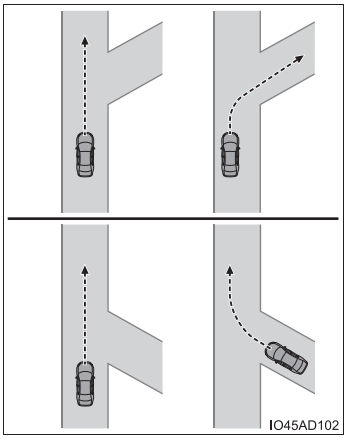
●急カーブを走行しているとき

●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

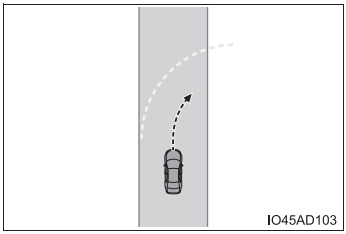


警告

●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき

警告

- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

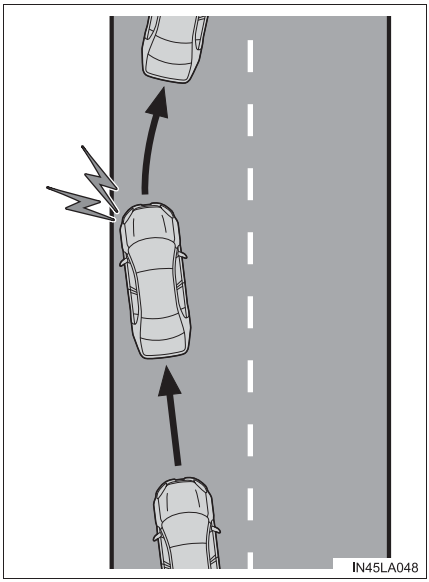
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

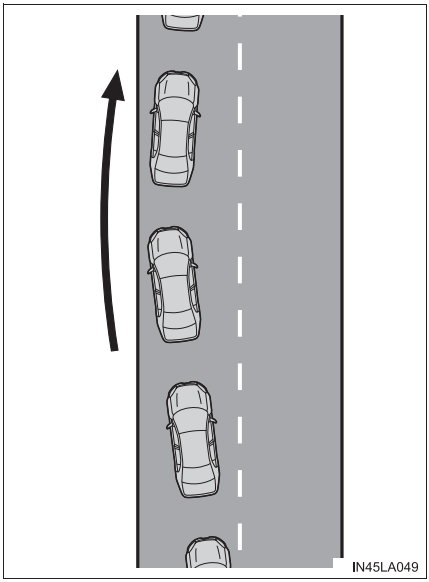


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

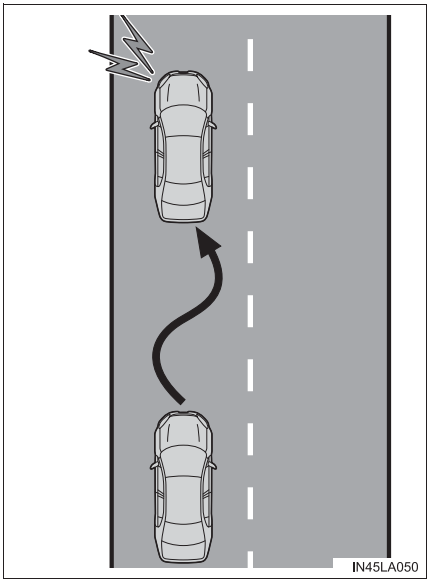
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

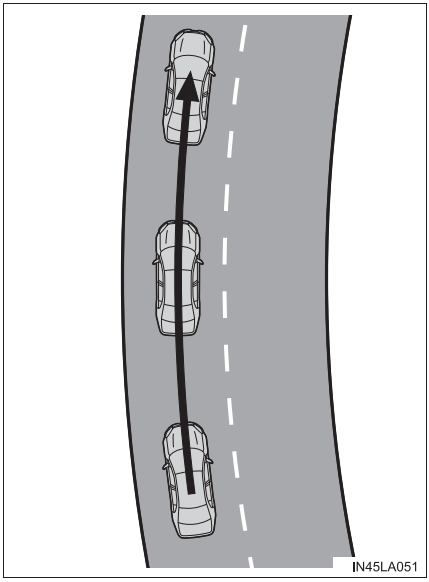


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



設定のしかた

■ 車線維持支援機能の ON ／ OFF を変更するには

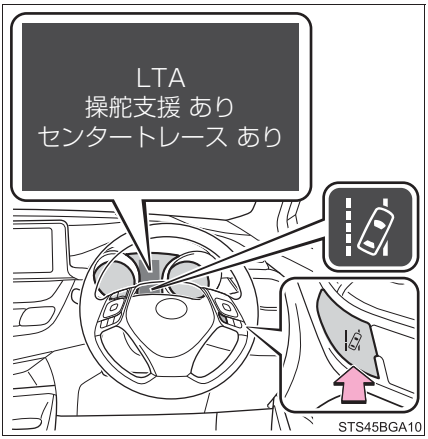
LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON ／ OFF が切りかわります。

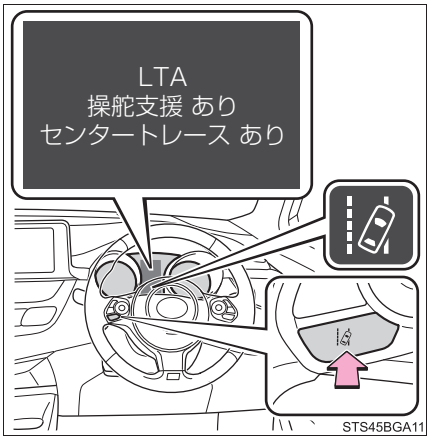
現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

● 車線維持支援機能 ON

▶ GR SPORT 除く

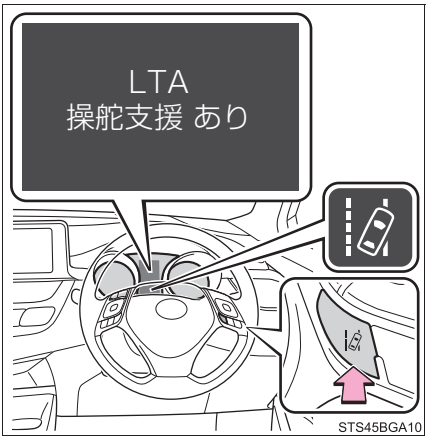


▶ GR SPORT

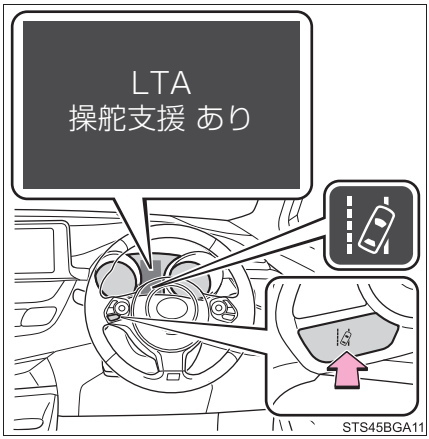


● 車線維持支援機能 OFF

▶ GR SPORT 除く



▶ GR SPORT

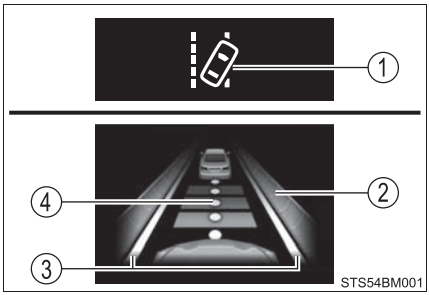


■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。
ON にするには、再度スイッチを押します。
パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

② ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。
車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連携画面に切りかえると表示されます。
車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。
先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白 [黄] 線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 232）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 231）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの で「 ふらつき検知」を ON に設定しているとき（→ P. 488）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 232）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの で「センタートレース制御」を ON に設定しているとき（→ P. 488）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 232）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 231）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 229）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 230）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき
さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき
車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき
さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

STS45BG011

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止して います。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

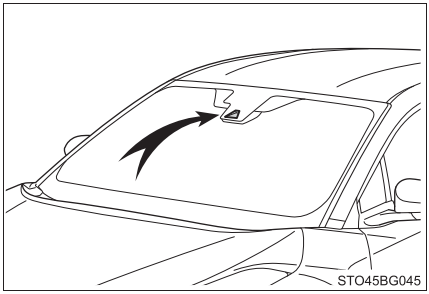
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 488）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

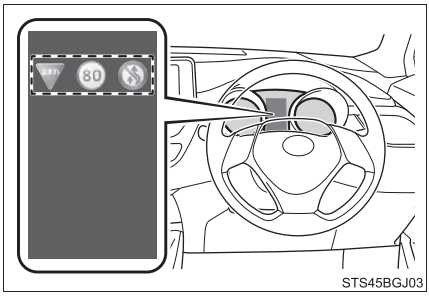
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

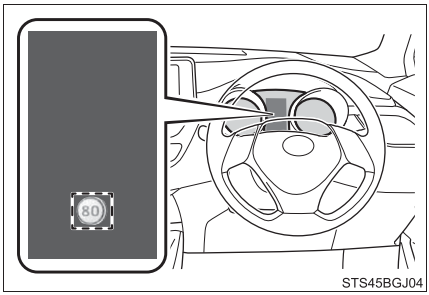
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 走行支援システム連携画面を選択したときは、最大３つの標識を表示できます。（→ P. 91）



● 走行支援システム連携画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。
・最高速度標識
・車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

終わり ※

一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して を選択する（→P. 92）

2 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して 選択し、／ を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

●標識を通過したとシステムが判定したとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき

●悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）

●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 488）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

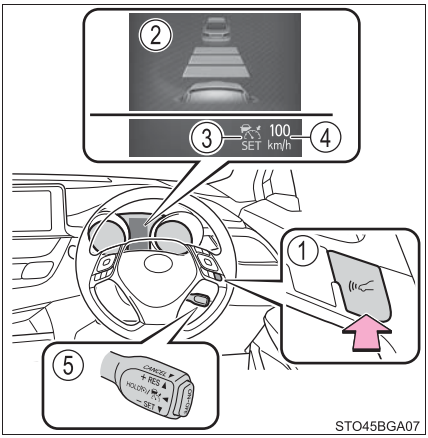
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

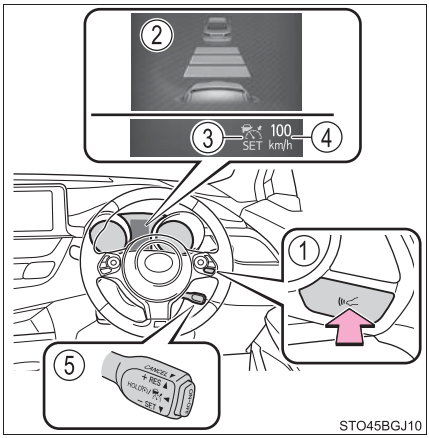
- 車間制御モード（→ P. 241）
- 定速制御モード（→ P. 247）

システムの構成部品

▶ GR SPORT 除く



▶ GR SPORT



① 車間距離切りかえスイッチ

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 表示灯

④ 設定速度

⑤ クルーズコントロールスイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P. 250
・車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P. 251

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

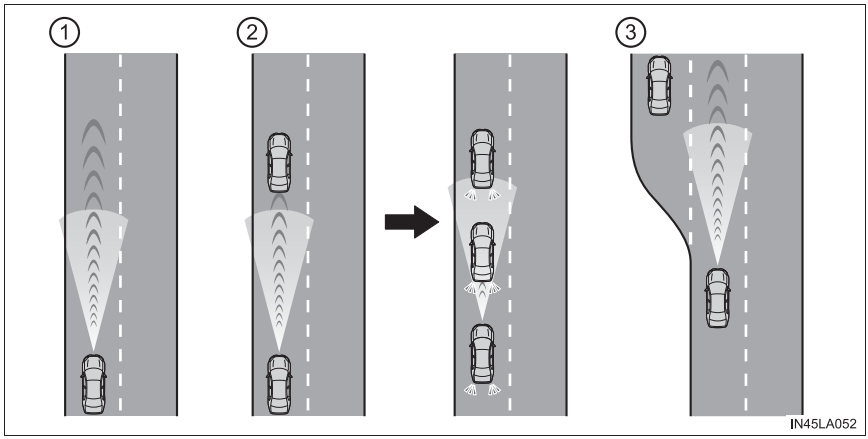
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行 ― 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

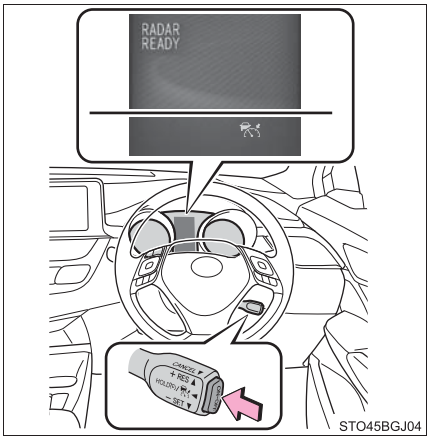
速度を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

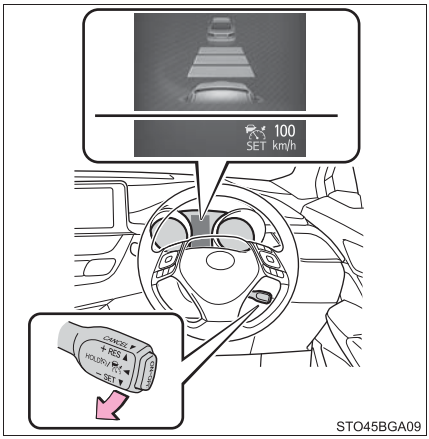
ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 247）



2 希望の車速(約30km/h以上)までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● レバーで設定速度をかえる

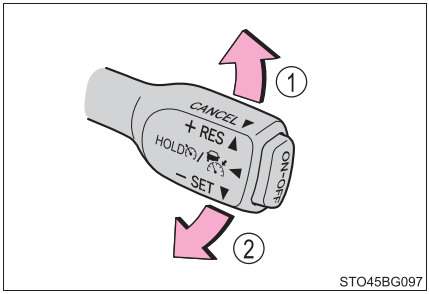
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 247）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

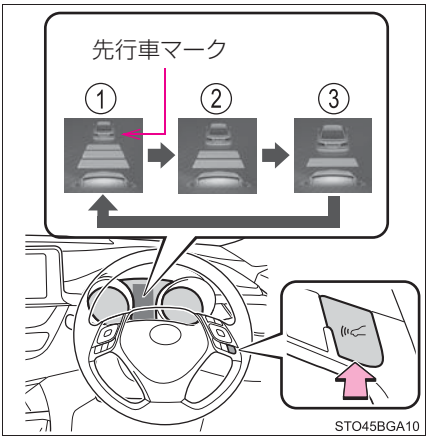
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 レバーを下げる

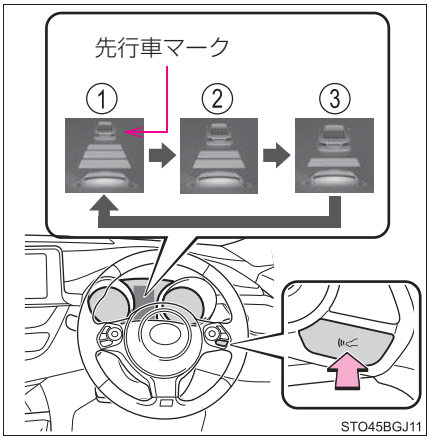
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

▶ GR SPORT 除く



▶ GR SPORT



① 長い

② 中間

③ 短い

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

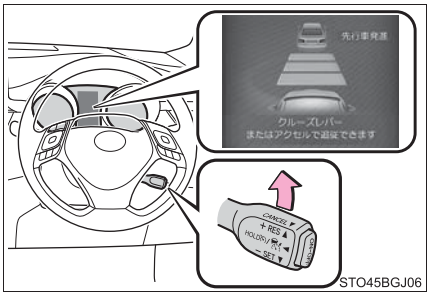
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



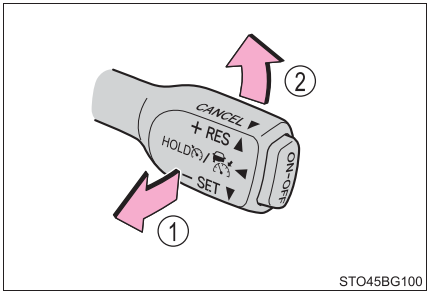
STO45BGJ06

制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

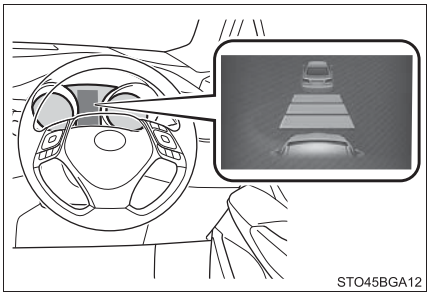
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



STO45BG100

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

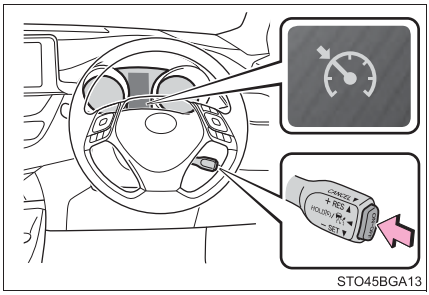
車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

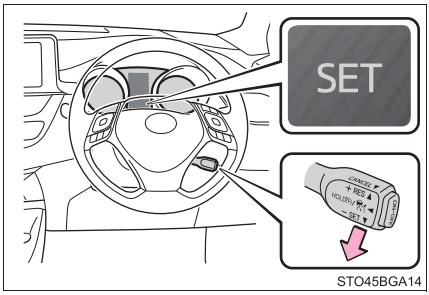


STO45BGA13

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



STO45BGA14

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 243）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 245）

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 202, 427）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

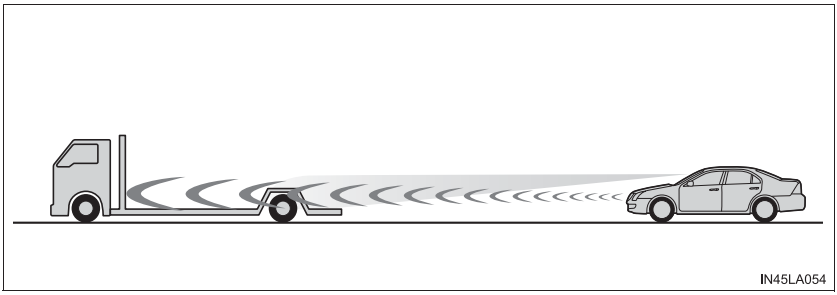
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 246）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

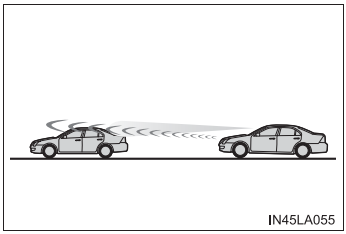
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



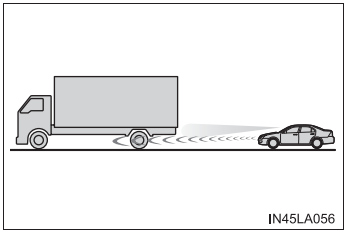
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



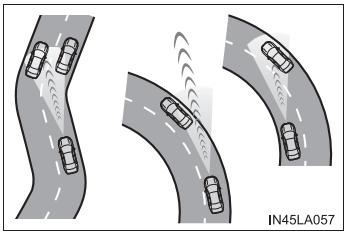
●先行車の車高が極端に高いとき



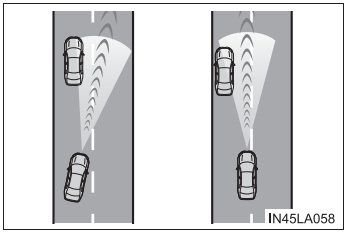
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

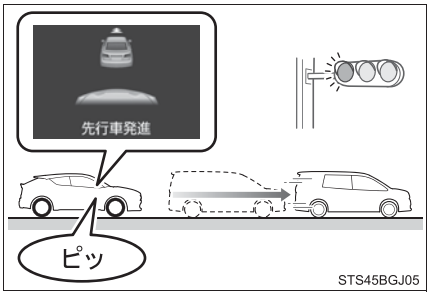
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

●先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

●先行車がオートバイ・自転車などのとき

●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

●悪天候（雨･霧･雪･砂嵐など）･煙･水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

●前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF
システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 489）

1 メーター操作スイッチの “<” または “>” を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「車両設定」選択し、 ／ を押す

3 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「先行車発進告知」選択し、 ／ を押す

4 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「先行車発進告知」選択し、 ／ を押す

●先行車発進告知機能の告知距離
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 489）

1 メーター操作スイッチの “<” または “>” を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「車両設定」選択し、 ／ を押す

3 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「先行車発進告知」選択し、 ／ を押す

4 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「告知距離」選択し、 ／ を押す

ドライブモードセレクト

走行状況に応じて、3 種類から走行モードを選択することができます。

走行モードについて

■ 走行モードの切りかえ

1 メーター操作スイッチの “<” または “>” を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの “∧” または “∨” を押して “ドライブモード” を選択する

3 メーター操作スイッチの “∧” または “∨” を押して走行モードを選択する

● NORMAL（ノーマルモード）
燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

● SPORT（スポーツモード）
トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

SPORT 選択中は、SPORT 表示灯が点灯します。

● ECO（エコモード）
スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

ECO 選択中は、エコドライブモード表示灯が点灯します。
エアコンの使用時は、エコ空調モード（→ P. 315）に自動的に切りかわり、より燃費のよい走行につながります。

知識

■走行モードの解除について

●スポーツモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。

●ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

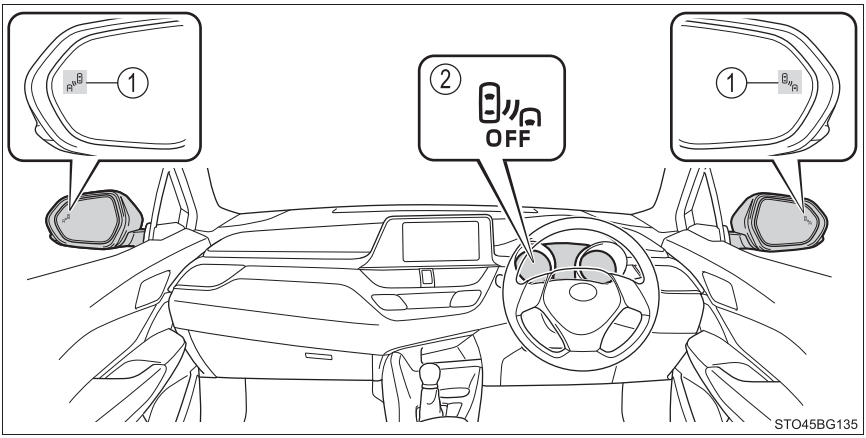
■EV ドライブモード時の走行モードの切りかえについて

→ P. 163

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。



① ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

② BSM OFF 表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して BSM を選択する

3 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して BSM を選択する

BSM 機能が OFF の時は、BSM OFF 表示灯（→ P. 83）が点灯します。

パワースイッチが ON モードになるたび、BSM 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 259）。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM　故障販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 489）

■ 後側方レーダーセンサーについて

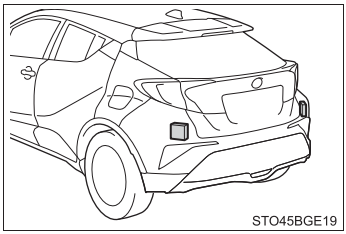
本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示 (→ P. 258) とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件 (→ P. 261) でしばらく走行してください (目安 : 約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

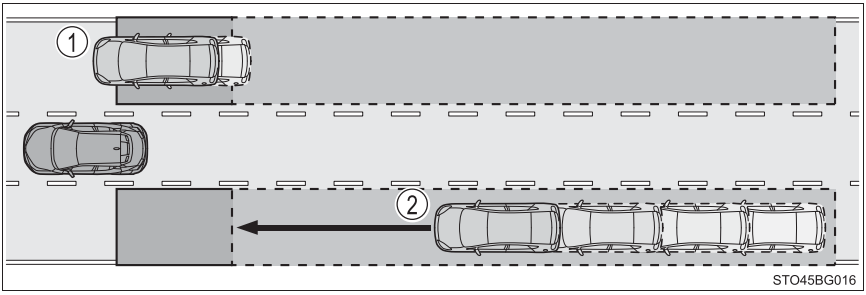
●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能で検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

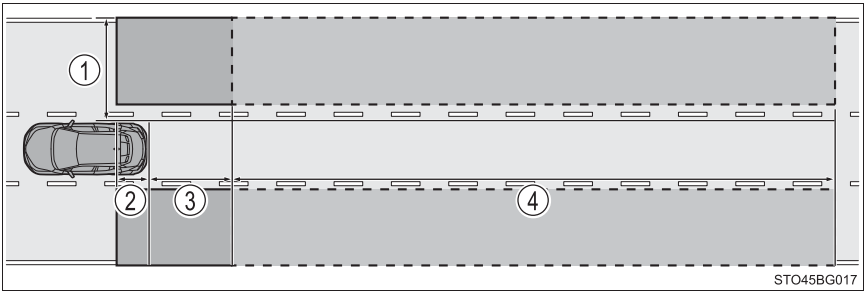


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※

※ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※

※ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後

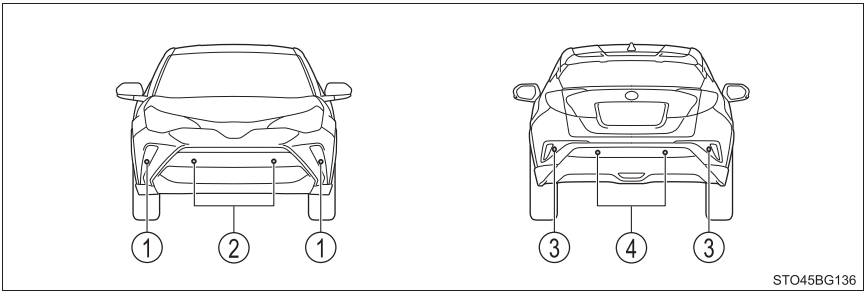
●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類



① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイでクリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

1 メーター操作スイッチの “<” または “>” を押して を選択する。

2 メーター操作スイッチの “∧” または “∨” を押して を選択し、 ／ を押す。

3 メーター操作スイッチの ／ を押して ON（作動）／ OFF（非作動）を変更する。

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 83）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた

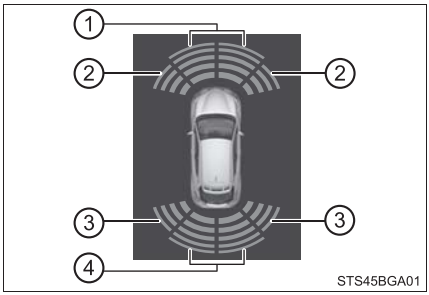
壁などの静止物を感知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

① フロントセンターセンサー作動表示

② フロントコーナーセンサー作動表示

③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ リヤセンターセンサー作動表示



距離表示の見方

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイの作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

■ フロント・リヤコーナーセンサー

静止物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ	ブザー
約 60cm ～ 45cm		断続音
約 45cm ～ 30cm		早い断続音
約 30cm ～ 15cm		連続音
約 15cm 以内		連続音

■ フロント・リヤセンターセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ	ブザー
フロント：約 100cm ～ 60cm リヤ：約 150cm ～ 60cm		遅い断続音
約 60cm ～ 45cm		断続音
約 45cm ～ 30cm		早い断続音
約 30cm ～ 15cm		連続音
約 15cm 以内		連続音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。
メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→ P. 92）

1 “<” または “>” を押して を選択する

2 “∧” または “∨” を押して「車両設定」を選択し、／ を押す

3 P もしくは P/RCTA を選択し、／ を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

／ を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

静止物を感知できる範囲

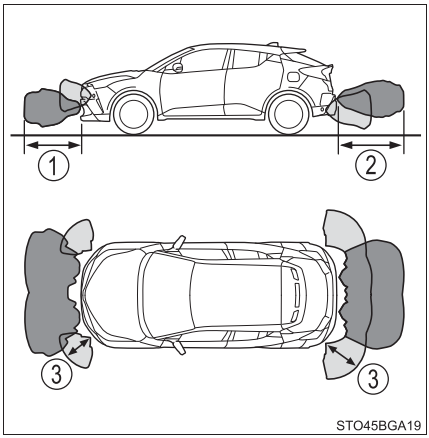
① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

・検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

・静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



知識

■作動条件

●パワースイッチが ON モードのとき

●クリアランスソナー機能が ON のとき

●車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●シフトポジションが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

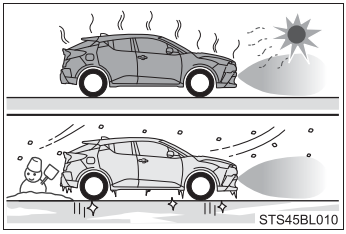
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

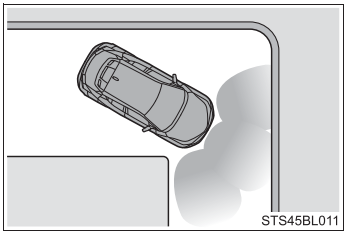
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

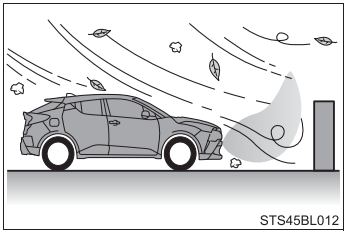
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴･氷･雪･泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

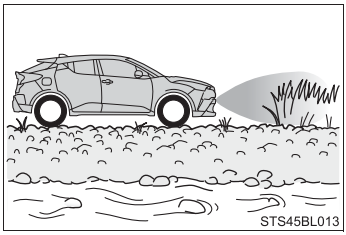
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

警告

■**安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■**システムを正しく作動させるために**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■**クリアランスソナーを OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

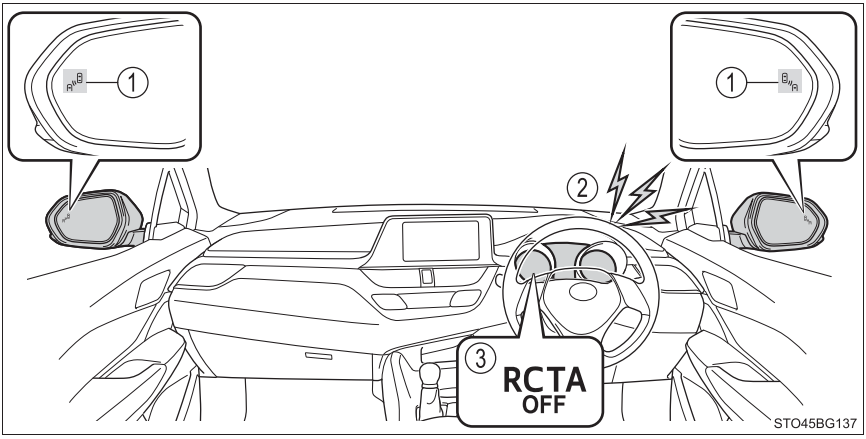
■**洗車時の注意**

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

リヤクロストラフィックアラートの概要

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。



① ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

② RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

③ RCTA OFF 表示灯

リヤクロストラフィックアラートが OFF のときに点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定のしかた

1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して を選択する。

2 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して を選択する。

3 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して「RCTA」を選択する

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→ P. 83）が点灯します。
パワースイッチが ON モードになるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RCTA 故障　販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

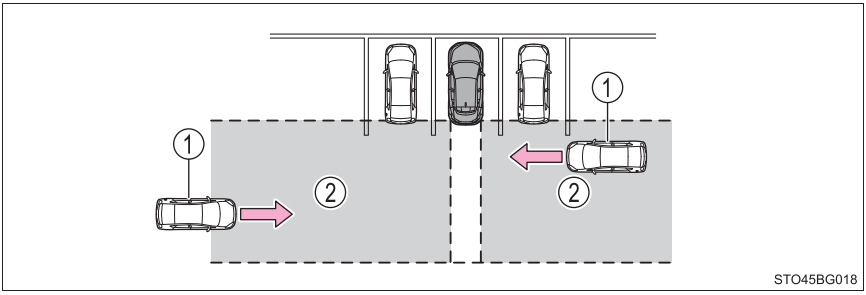
機能の一部は、設定を変更することができます。（→ P. 490）

■後側方レーダーセンサーについて

→ P. 259

RCTA 機能で検知できる車両で検知できる車両

リヤクロストラフィックアラートは後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

警告

■ **安全にお使いいただくために**

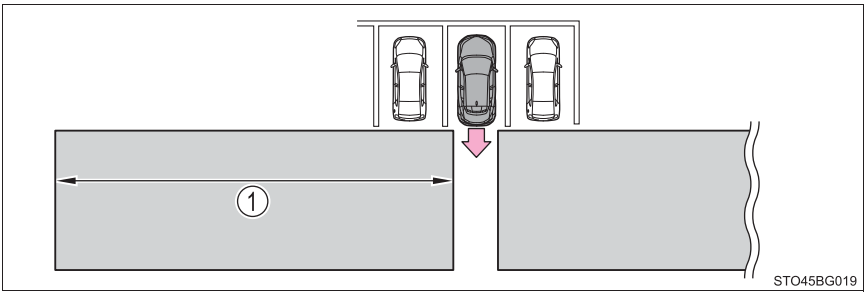
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→ P. 261）

■ **システムを正しく作動させるために**

→ P. 259

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
速い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h の間のとき

■ブザー音量調整

→ P. 267

■ブザー音の一時ミュート（消音）

→ P. 267

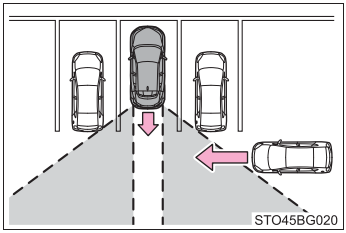
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

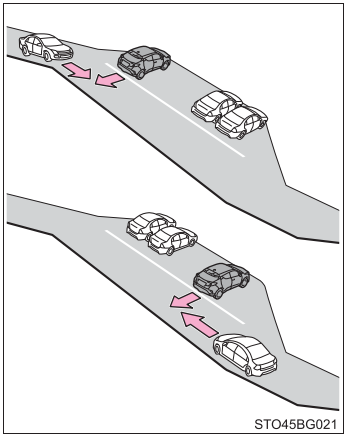
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

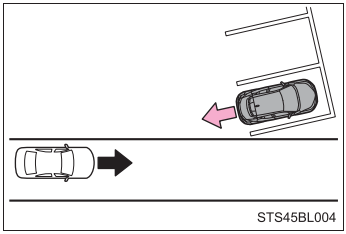
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき


STO45BG021

●斜めの駐車場から出庫するとき


STS45BL004

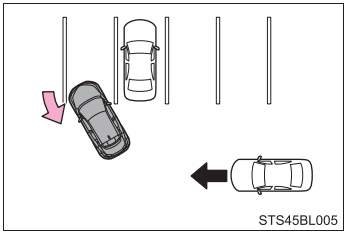
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

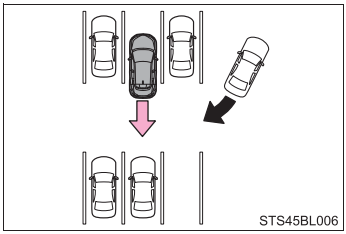
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



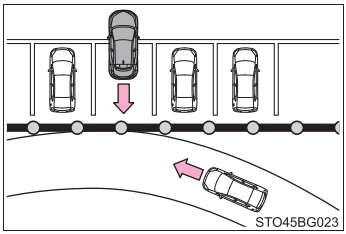
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



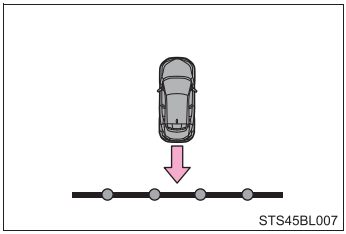
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

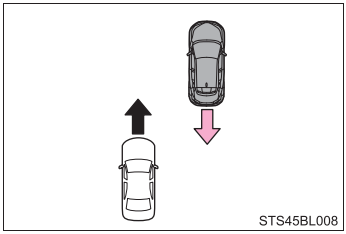


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

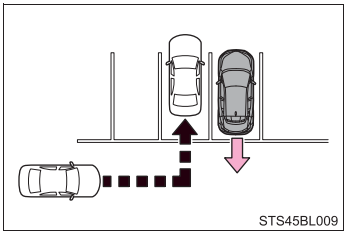


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）★**

→ P. 289

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★**

→ P. 293

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON ／ OFF します。
メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→ P. 92）

1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの“∧”または“∨”を押して を選択する

3 メーター操作スイッチの ／ を押して ON（作動）／ OFF（非作動）を変更する

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→ P. 83）が点灯します。OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの からを ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御･ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ 加速抑制中です ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ アクセルが踏まれています　ブレーキを踏みなおしてください ”

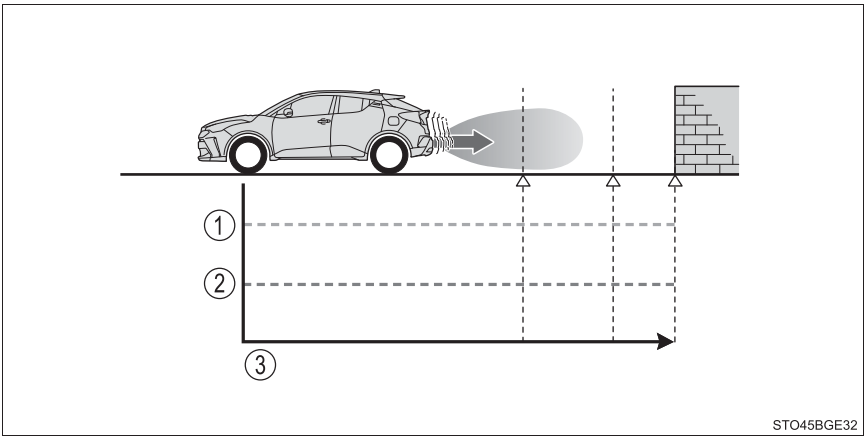
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB [パーキングサポートブレーキ] 非作動時）

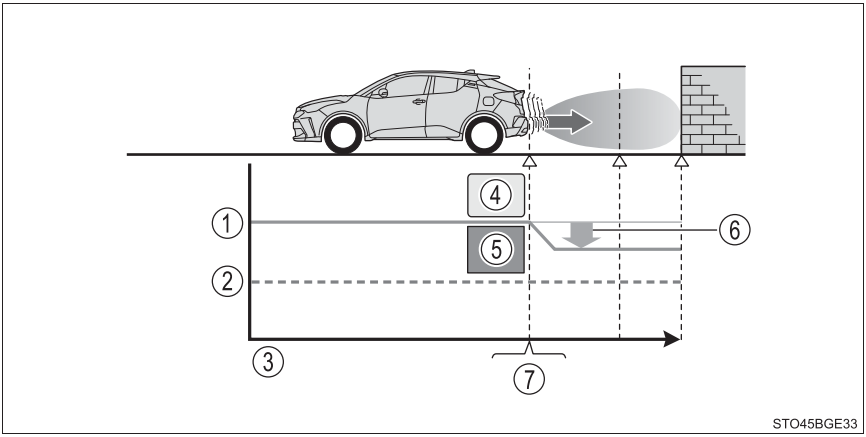


① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

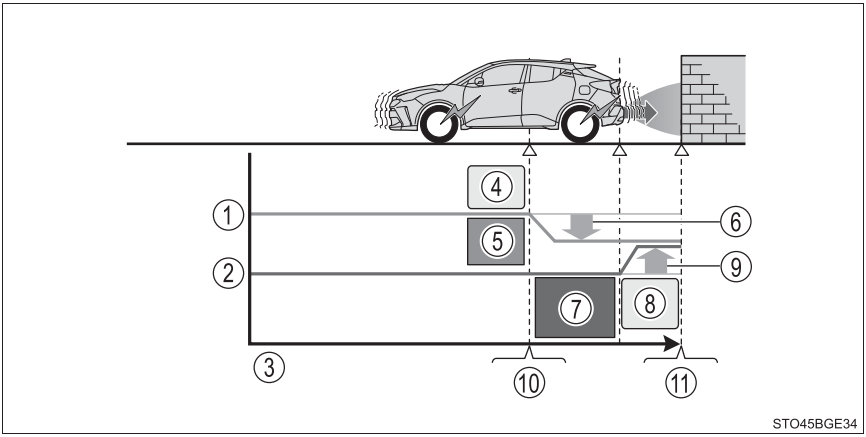
③ 時間

● 図２（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



① ハイブリッドシステム出力
② 制動力
③ 時間
④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき
⑥ ハイブリッドシステム出力を抑える
⑦ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ブレーキ！”

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



① ハイブリッドシステム出力

② 制動力

③ 時間

④ ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

⑤ 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

⑥ ハイブリッドシステム出力を抑える

⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき

⑧ ブレーキ制御開始

⑨ ブレーキ制御を上げる

⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ ブレーキ！ ”

⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示　“ アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください ”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON に（→ P. 282）するか、パワースイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。
また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。

- シフトポジションを P にした
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた
- 車両の進行方向が切りかわった

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」と「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
  その場合は氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
  センサーの汚れを取り除いても表示が出るときは、センサーが汚れていなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。
  氷が解ければ正常に復帰します。
- センサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。
  システムが正常と判断した場合に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱいに回してください。

警告

■**安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■**パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両けん引時

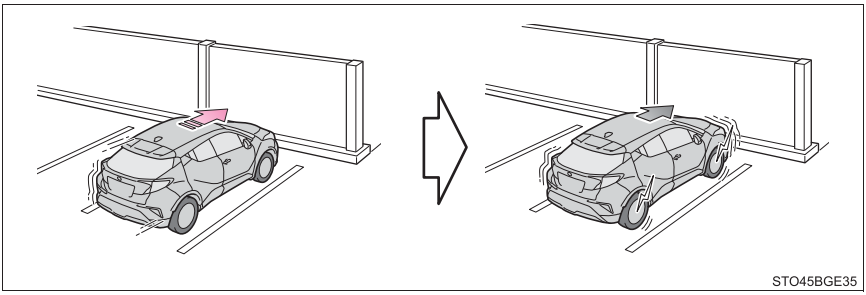
パーキングサポートブレーキ（静止物）★

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

システム作動例

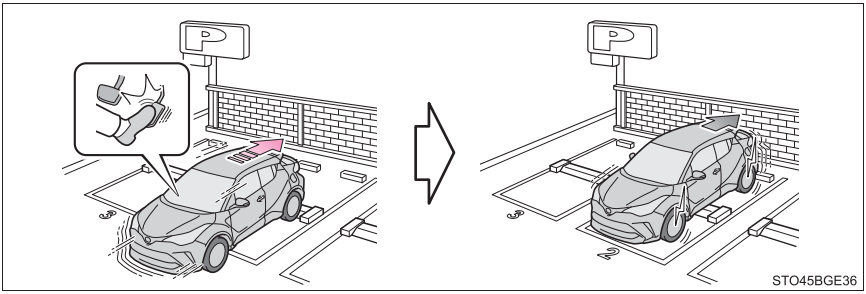
次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき

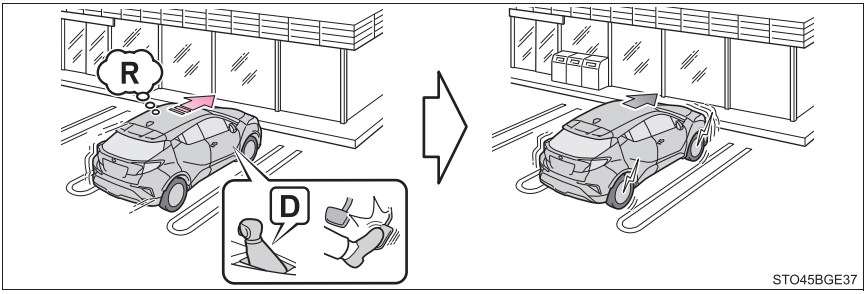


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 263

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 81, 83）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約２～4m 先まで）

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約２～4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 268）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 270

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 271

警告

■システムを正しく作動させるために

→P. 273

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P. 287

■洗車時の注意

→P. 273

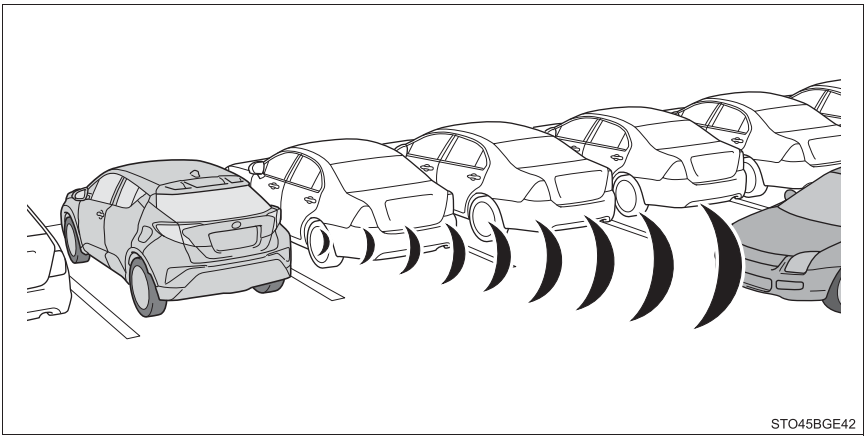
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→ P. 259

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 81, 83）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御

・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（作動）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→ P. 277）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 279

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 280

警告

■システムを正しく作動させるために

→P. 259

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

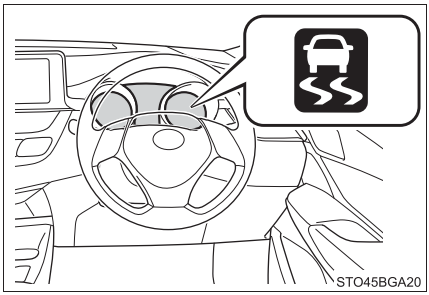
上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

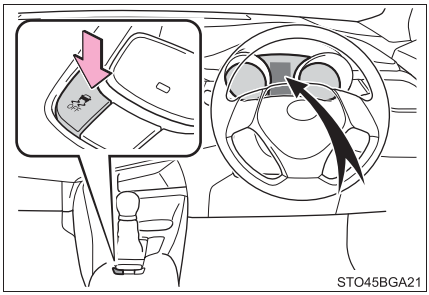
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）の各機能の作動も停止します。（衝突警報のみ作動可能状態になります。）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 218）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→ P. 426

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置がＰまたはＮ以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーをＰまたはＮの位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大２秒経過した

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**スリップ表示灯が点滅しているとき**

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 482）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコモードの利用

エコモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 255）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 89）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）※ を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 372）

※ 17 インチタイヤ装着車

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P. 170)
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

▶17インチタイヤ装着車

●取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

・安全に作業できる場所で行う
・前2輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
・取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

▶17インチタイヤ非装着車

●タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレード★について

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（17 インチタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

注意

■タイヤチェーンの使用について（17 インチタイヤ装着車）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 310
シートヒーター 318

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 320
・インテリアランプ 321
・パーソナルランプ 321

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧 323
・グローブボックス 324
・コンソールボックス 324
・ボトルホルダー 325
・カップホルダー 326
ラゲージルーム内装備 327

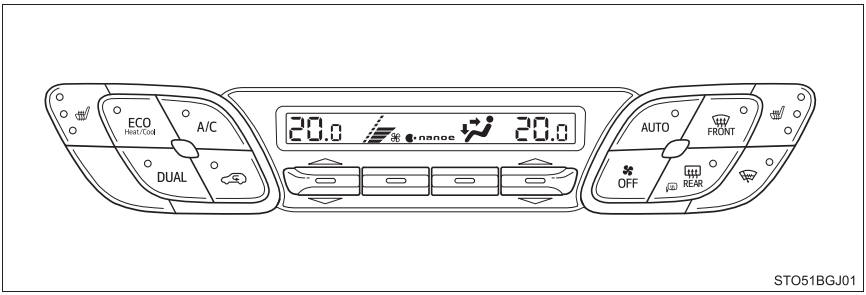
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 334
・サンバイザー 334
・バニティミラー 334
・時計 335
・アクセサリーソケット 336
・アシストグリップ 337
・ステアリングスイッチ 337
アクセサリーコンセント 338
非常時給電システム 345

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて

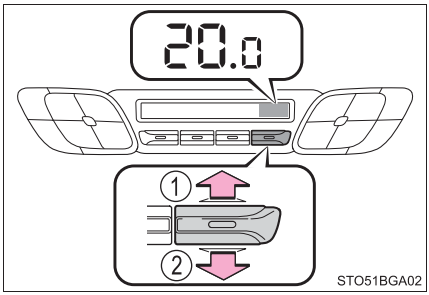


■ 温度を調整する

① 温度を上げる

② 温度を下げる

のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

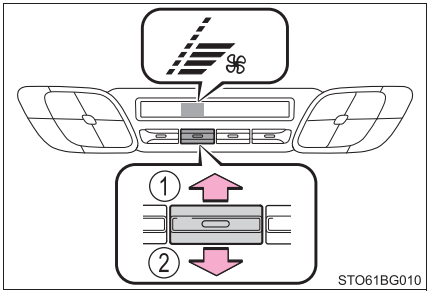


■ 風量を切りかえる

① 風量を増やす

② 風量を減らす

ファンを止めるときは を押す



■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえノブを上げる、または下げる

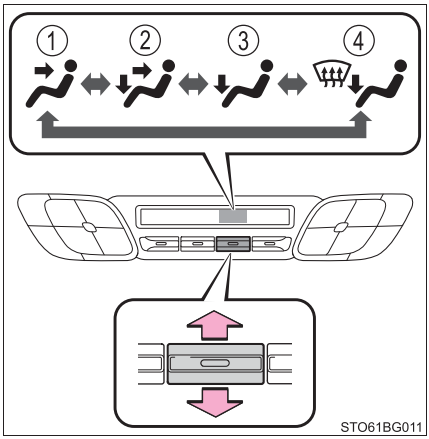
操作するたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を設定する

3 A/C を押す

押すたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

4 ファンをとめたいときは、OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

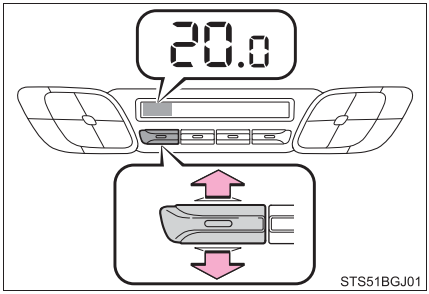
風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL を押す
- 助手席の設定温度を変更する

  左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。



その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

を押すごとに外気導入・内気循環が切りかわり、外気導入の場合は表示灯が消灯し、内気循環の場合は表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

を押す

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ エコ空調モードを使用する

を押す

燃費性能を優先した作動に切りかわります。（→ P. 315）

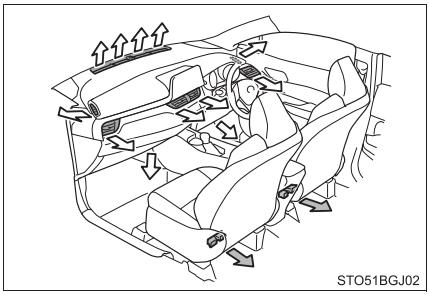
再度 を押すと、エコ空調モードは解除されます。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。（→ P. 311）

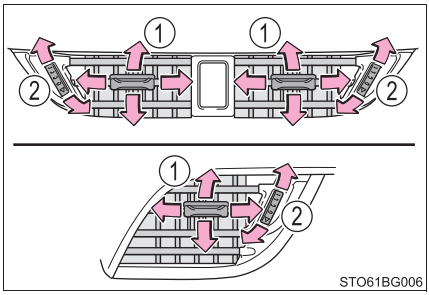
⇦ ：仕様により設定の有無あり



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコ空調モードを解除する

●走行モードがエコモードのときでも ECO を押すと、エコ空調モードを解除することができます。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が作動しない場合があります。

■「ナノイー」※1 について★

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は助手席側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます ※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき

・助手席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
・「ナノイー」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は自動的に外気導入になります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→ P. 379

■カスタマイズ機能

エアコンの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 490）

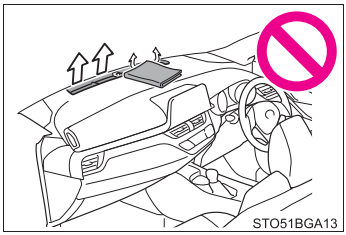
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

助手席側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

フロントシートをあたためることができます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリットシステムが停止した状態で使用しないでください。

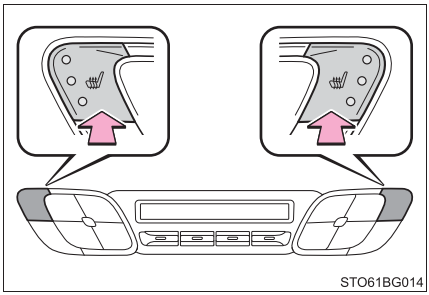
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（３個点灯）→中（２個点灯）→弱（１個点灯）→ OFF

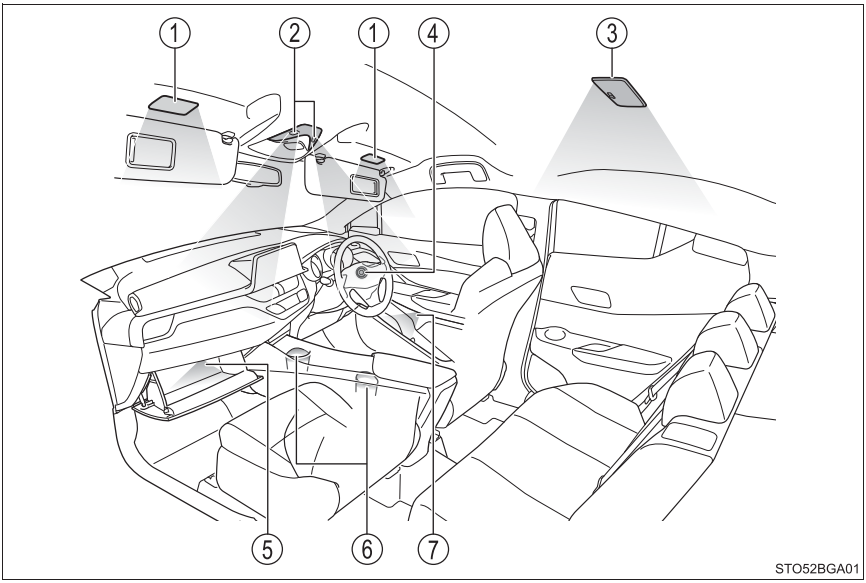
作動中は、レベルインジケーター（橙色）が点灯します。



知識

パワースイッチが ON モードのときに使用できます。

室内灯一覧



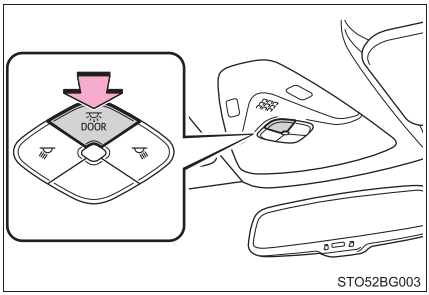
① バニティミラーランプ★（→ P. 334）
② フロントインテリアランプ／パーソナルランプ（→ P. 321）
③ リヤインテリアランプ（→ P. 321）
④ パワースイッチ照明
⑤ グローブボックスランプ（→ P. 324）
⑥ カップホルダー照明★
⑦ ドアトリム照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプ

■ フロント

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



STO52BG003

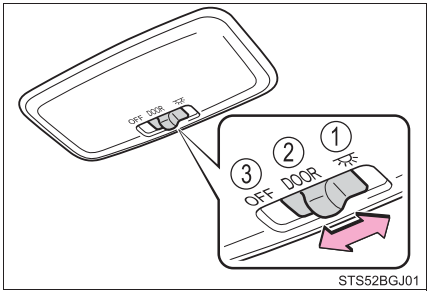
■ リヤ

① ランプを点灯する

② ドアポジション（ドア連動）※

※ フロントインテリアランプメインスイッチに連動して作動し、スイッチ状態が OFF のときはランプが点灯しません。

③ ランプを消灯する

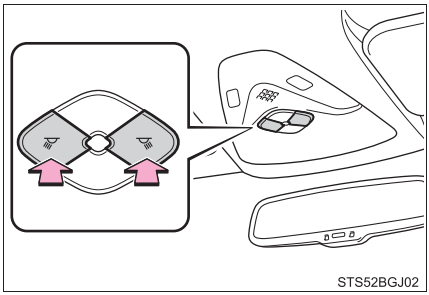


STS52BGJ01

パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

ドア連動スイッチによって点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。


STS52BGJ02

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

インテリアランプスイッチのドアポジションが ON のとき、電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、パワースイッチのモードにより、インテリアランプとパワースイッチ照明が自動的に点灯、消灯します。

■ドアミラーイルミネーション★

電子キーの検知やドアの解錠により、ドアミラーイルミネーションが自動的に点灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

以下のランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

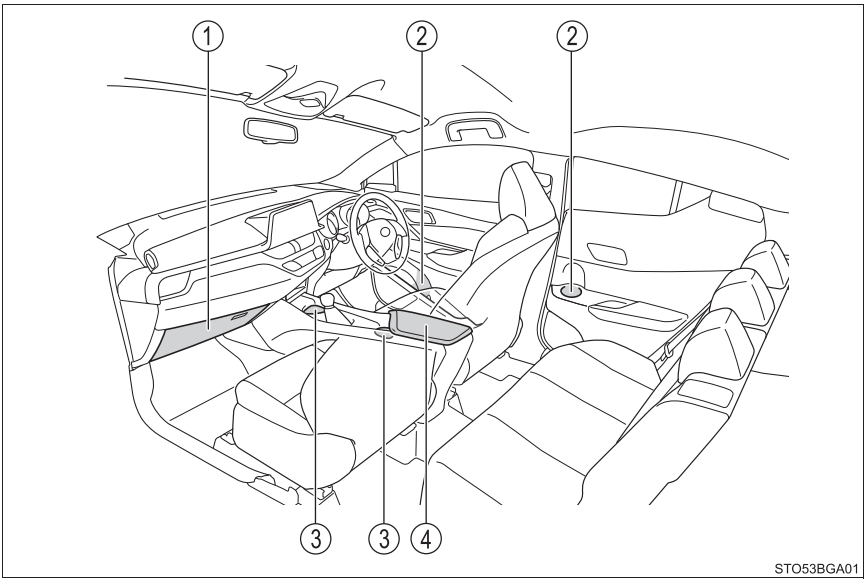
- フロントインテリアランプ／パーソナルランプ
- リヤインテリアランプ
- ラゲージルームランプ
- バニティミラーランプ★

■カスタマイズ機能

- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
  （カスタマイズ一覧：→ P. 490）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



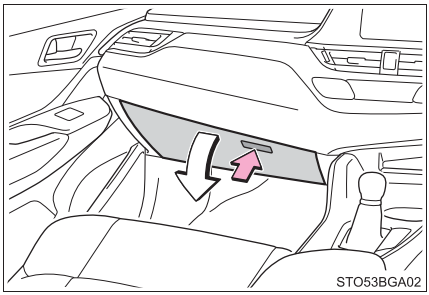
① グローブボックス（→ P. 324）
② ボトルホルダー （→ P. 325）
③ カップホルダー （→ P. 326）
④ コンソールボックス（→ P. 324）

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 運転中や収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。また、トレイに転がりやすいものを置かないでください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

ボタンを押して開ける

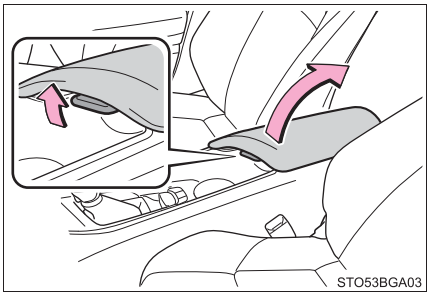


知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックス

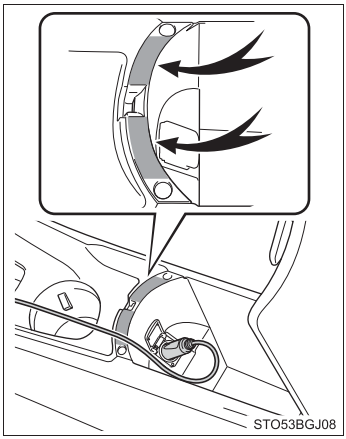
レバーを引いてフタを持ち上げる



知識

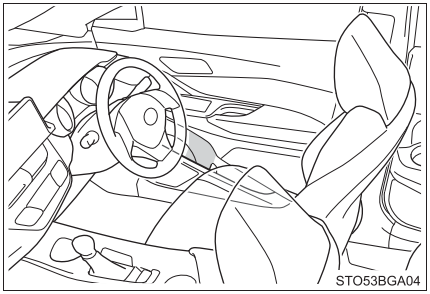
フタを閉めるときは、電気製品の配線を図に示した位置を通してください。

フタを閉めたあとは、フタと電気製品の配線が干渉していないか確認してください。

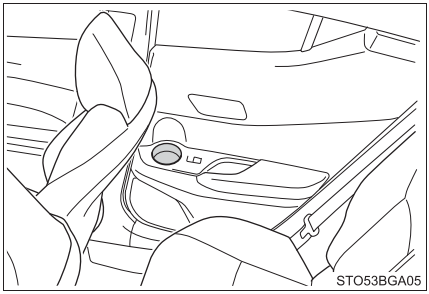


ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

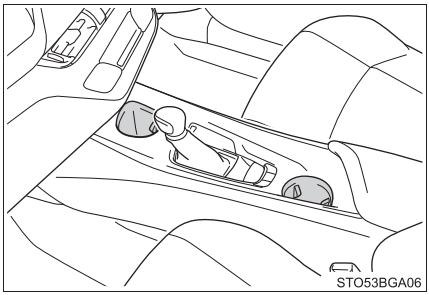
●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

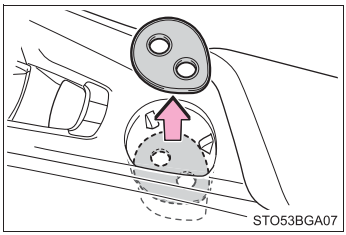
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー



知識

うしろ側のカップホルダーは、仕切りをひっくり返したり、取りはずして深さを変えることができます。



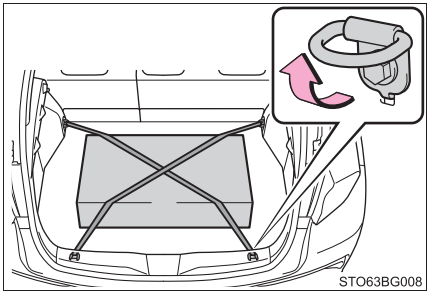
警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- 次のことを必ずお守りください。
  お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - 温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
  - 使用するときは内部のサポートに支えられていることを確認してください。
  - カップの高さがアームレストの高さを超えないようにしてください。
  - 仕切りはうしろ側のカップホルダー専用のため、前側のカップホルダーで使用しないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

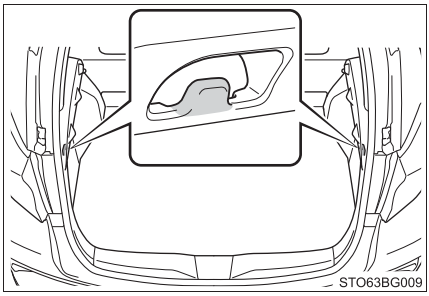
フックを使って荷物を固定することができます。



警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしてください。

買い物フック

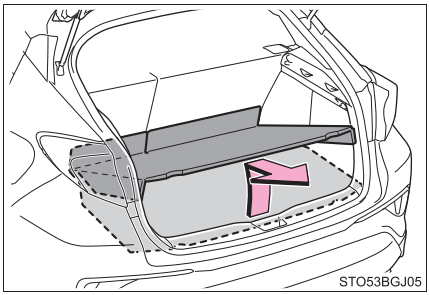


注意

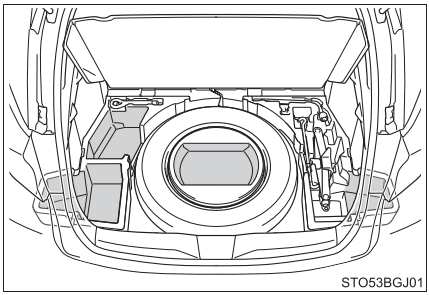
2kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

ラゲージアンダートレイ

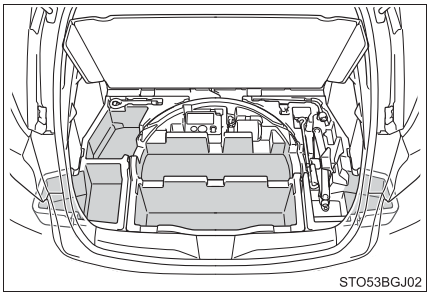
デッキボードを持ち上げて取りはずす



▶ A タイプ



▶ B タイプ

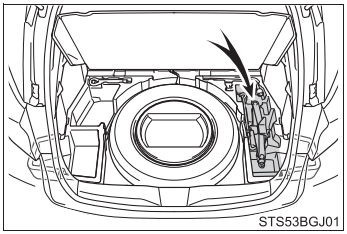


知識

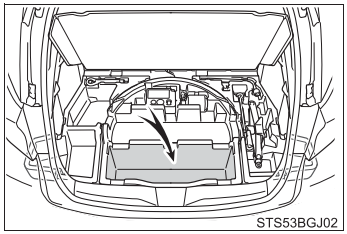
■停止表示板収納について

ラゲージアンダートレイに、停止表示板を収納することができます。ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ A タイプ

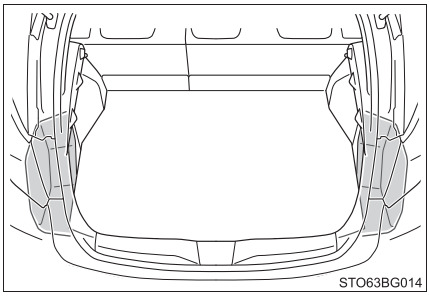


▶ B タイプ



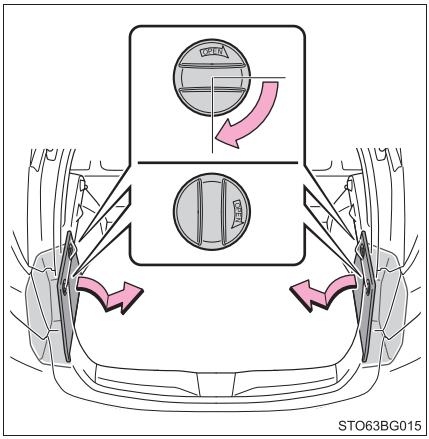
ラゲージサイドトレイ

▶ フタなしタイプ


STO63BG014

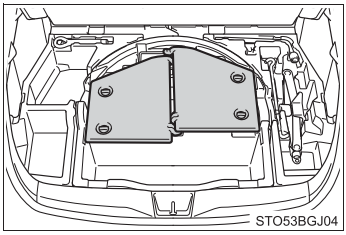
▶ フタありタイプ

ノブを回してフタを開ける


STO63BG015

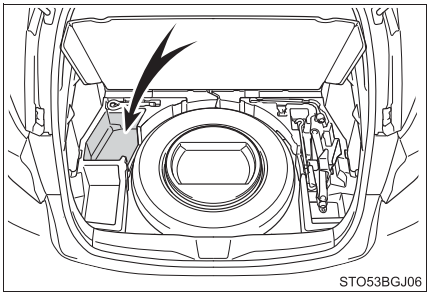
知識

タイヤパンク応急修理キット装着車：
フタを収納することができます

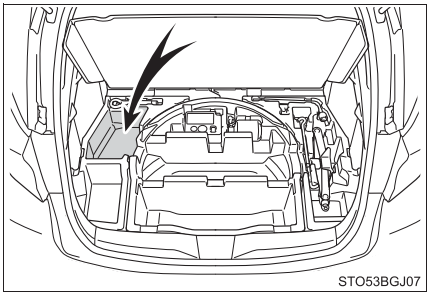

STO53BGJ04

救急箱収納スペース

▶ A タイプ


STO53BGJ06

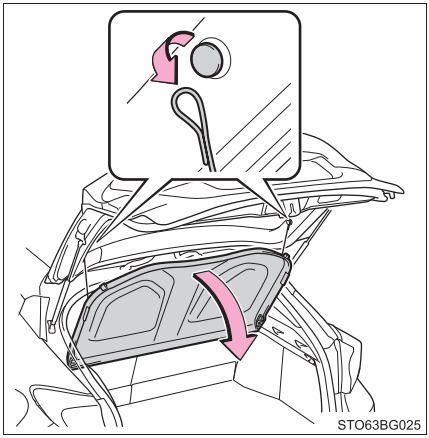
▶ B タイプ


STO53BGJ07

ラゲージカバーの取りはずし／取り付け

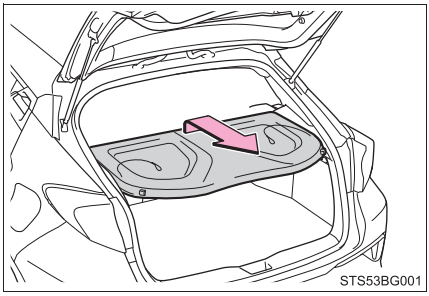
▶ 標準タイプ

1 止めヒモをはずしてカバーを水平にする


STO63BG025

2 カバーを上に持ち上げてから手前に引いて取りはずす

取り付けるときは、しっかり固定されていることを確認してください。

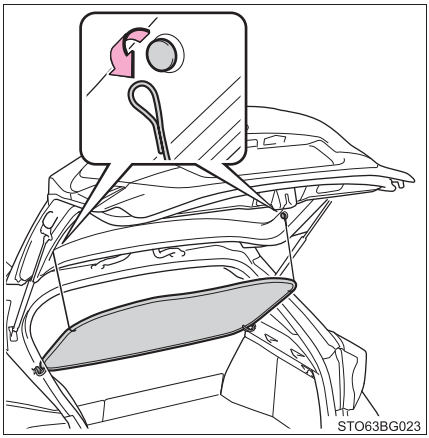

STS53BG001

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

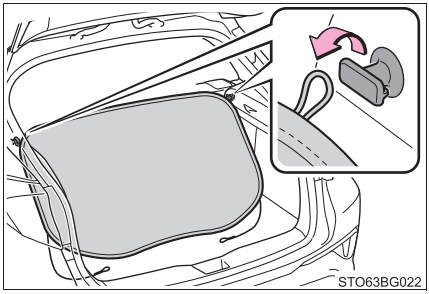
▶ 軽量タイプ

■ **取りはずし方法**

1 手前側の止めヒモをはずす

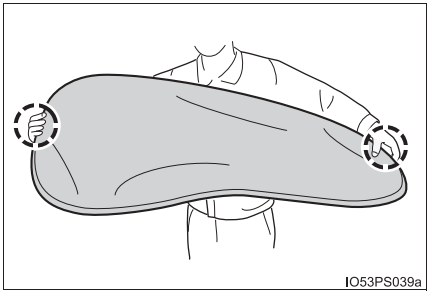


2 奥側の止めヒモをはずす

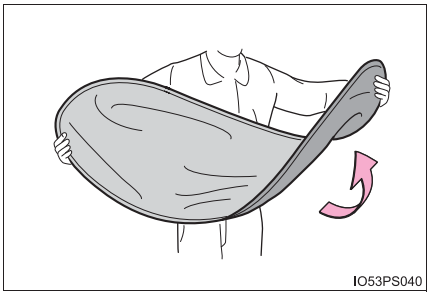


■ **収納方法**

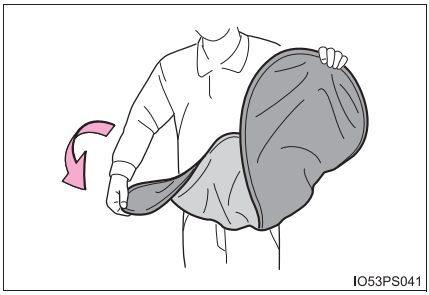
1 ラゲージカバーを両手で持つ。持つときにそれぞれの親指を反対方向に向ける。



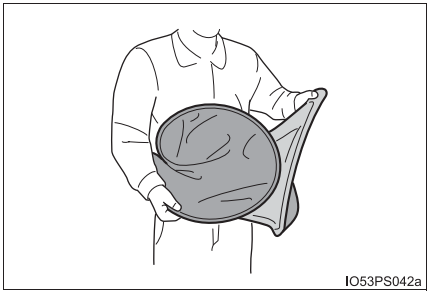
2 カバーの片方を手前に曲げる



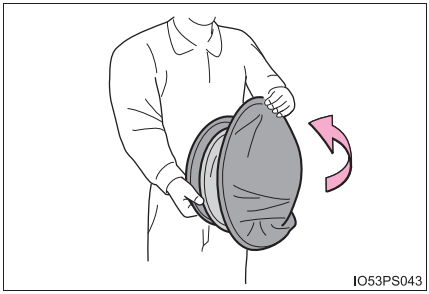
3 図のようにもう一方を反対側にねじる



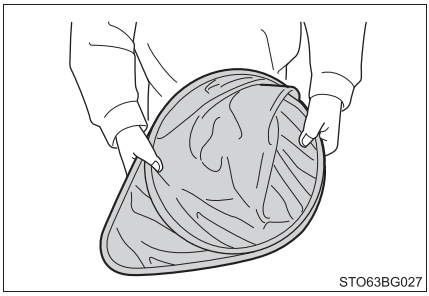
4 円を作るようにしてねじりながら内側に折りたたむ



5 円が 3 つ並ぶように折りたたんでいく



6 正しく折りたたまれていることを確認する



警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- カバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないようにしてください。カバーが破損し、荷物が損傷するおそれがあります。
- カバーを操作するときは、カバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟むおそれがあります。
- 軽量タイプ装着車：正しく止めヒモを付けてください。カバーがはずれて飛んでくるおそれがあります。
- 軽量タイプ装着車：カバーは正しく折りたたんでください。急に広がるおそれがあります。

注意

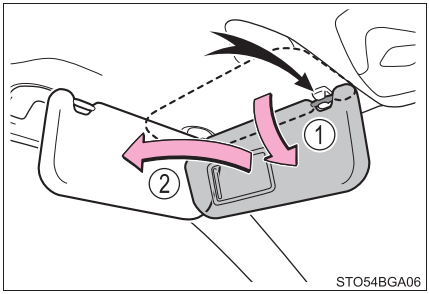
軽量タイプ装着車：カバーを折りたたむときには過度な力を加えないようにしてください。カバーが損傷する可能性があります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

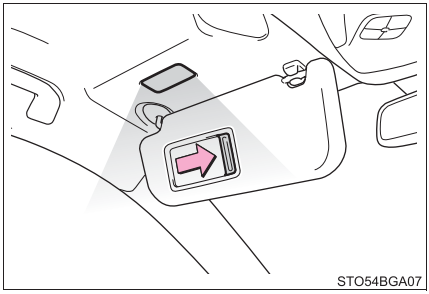
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

バニティランプ装着車：カバーを開けるとランプが点灯します。



時計

▶ マルチメディア非装着車

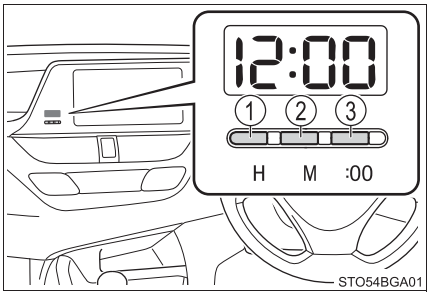
スイッチを押して時刻を調整することができます。

① “時” を調整する

② “分” を調整する

③ “分” を 00 にする ※

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00



▶ マルチメディア装着車

マルチメディア画面で時間を調整することができます。
別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

知識

■時刻が表示されるとき

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

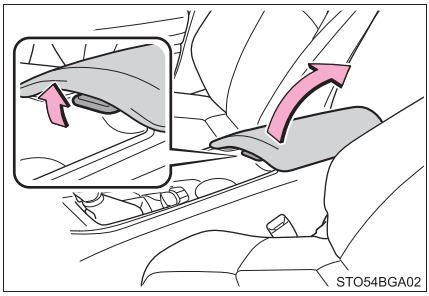
■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計は自動的に 1:00 にセットされます。

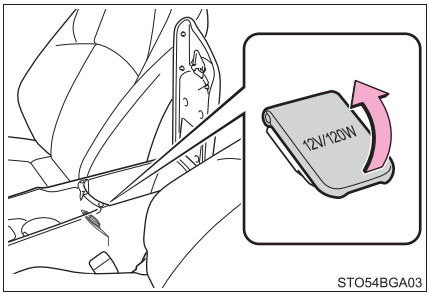
アクセサリーソケット

DC12V ／ 10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

1 レバーを引いてフタを持ち上げる



2 フタを開ける



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときに、使用することができます。

■ハイブリッドシステムを停止するとき

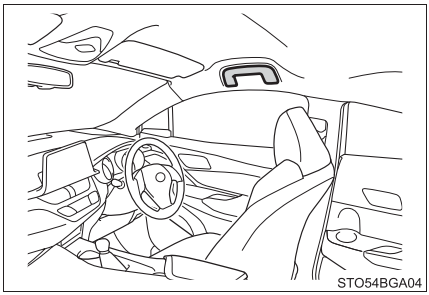
モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

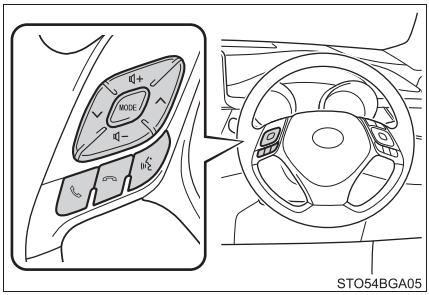
注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

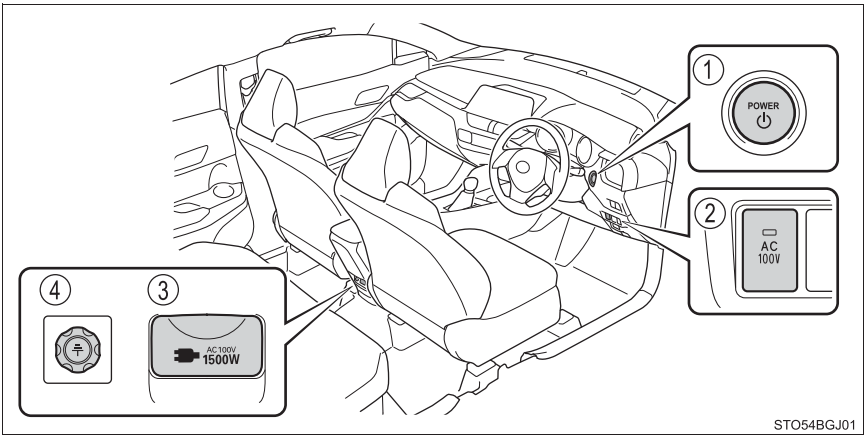
モードの切りかえや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。詳しくは各取扱書をご覧ください。



アクセサリーコンセント★

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

◆ 各部の名称



① パワースイッチ ※（→ P. 156）

② AC100V スイッチ

③ 室内コンセント（コンソールボックス後方）

④ アース端子

※ GR SPORT はパワースイッチの意匠が異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

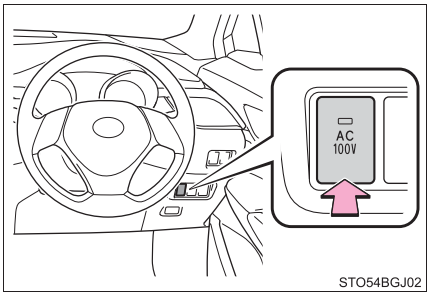
コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→ P. 156）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

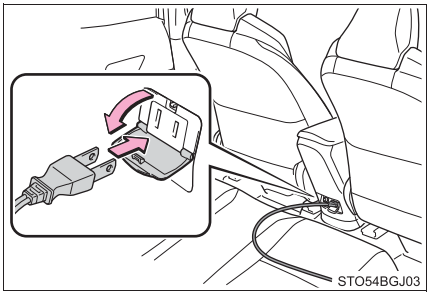
AC100V スイッチを押すたびにコンセントのON／OFFが切りかわります。



電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。電気製品を使用するときは、すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計を 1500W 以下にしてください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
  この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 99）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して、駆動用電池を温めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPにしていることを確認してください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。

●給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 42）

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→ P. 345）

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

●医療機器
車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

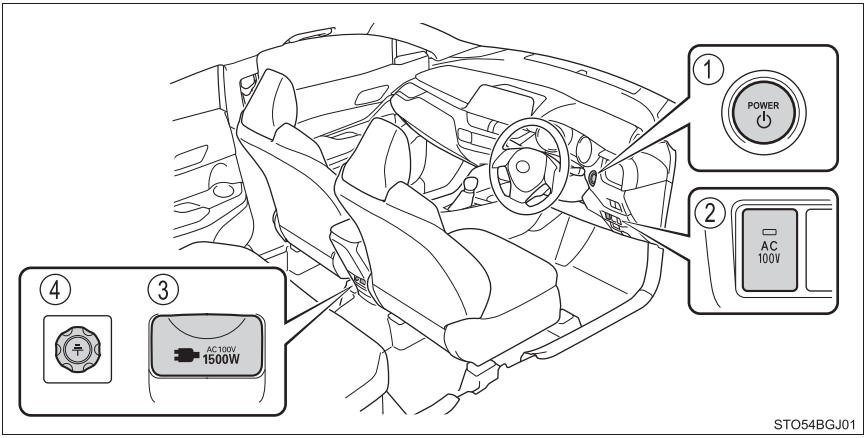
■特に外気温が低いとき

特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して、駆動用電池をあたためてから使用してください。

非常時給電システム★

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

◆ 各部の名称



① パワースイッチ※（→ P. 156）

② AC100V スイッチ

③ 室内コンセント（コンソールボックス後方）

④ アース端子

※ GR SPORT はパワースイッチの意匠が異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

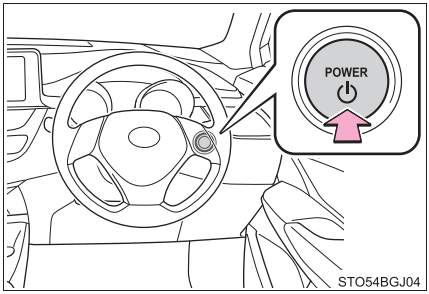
- パーキングブレーキがかかっていること
- ヘッドランプなどが OFF になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- 給電中はオートアラームを設定することができないので、盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON モードにする

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押すと、非常時給電システムは使用できません。



2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

READY インジケーター、AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。
この場合は、はじめから操作をやり直してください。

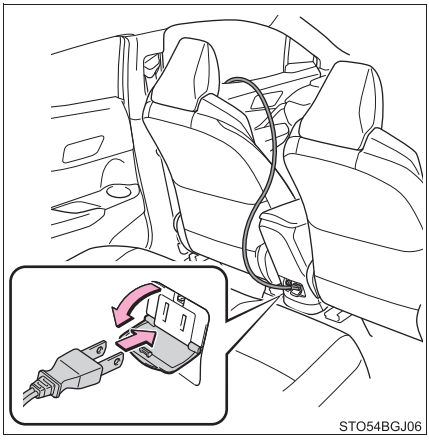
3 非常時給電システムを起動後、エアコンを ON にする（→ P. 310）

電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電気製品の接続されていることがわかるように助手席の窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

ただし、アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。



窓ガラスを上昇させるときはパワーウインドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないように隙間を確保してください。
（→ P. 138）

非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1. 使用している電気製品の電源を OFF にする
2. AC100V スイッチを押して OFF にする
3. コンセントから電源プラグを取りはずす
4. コンセントのフタを閉める
5. パワースイッチを OFF にする

知識

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■非常時給電システムについて

●AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

●長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

・電気製品の電源プラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
・駆動用電池の残量を確認してください。(→ P. 99) 残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
・車内が高温になると、給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。
その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。
・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため数十分間、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

●READYインジケーターが点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき

・「燃料の残量低下により給電停止しました」
燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。

・「シフトポジション切りかえにより給電停止しました」
シフトレバーを P 以外にしたため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

●車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキーのみでドアの施錠・解錠ができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません　キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをＰから切りかえないでください。

●非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。
コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
  過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 42）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器
  車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

⚠注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
  コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障や、ショートのおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線はしないでください。

■非常時給電システムの使用中

- エアコンを使用してください。
- 長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■特に外気温が高いとき

- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
- 給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。
  その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。

⚠ 注意

■特に外気温が低いとき

●駆動用電池を保護するため数十分間、コンセントを使用できないことがあります。
その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

●排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して15分から30分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....358
内装の手入れ.....364

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 367
ガレージジャッキ.....369
ウォッシャー液の補充.....370
タイヤについて.....372
タイヤ空気圧について 377
エアコンフィルターの
交換 379
駆動用電池冷却用吸入口の
清掃 382
ワイパーゴムの交換.....387
電子キーの電池交換.....392
ヒューズの点検、交換.....395
電球（バルブ）の交換.....398

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 121）

■ホイール・ホイールキャップ（マット塗装ホイール非装着車）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装ホイールは通常のアルミホイールとお手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

●洗車の際は、水洗いで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジ又は柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。

●マット塗装の損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・コーティング剤や研磨剤入りの洗剤は使用しない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて（寒冷地仕様車）

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

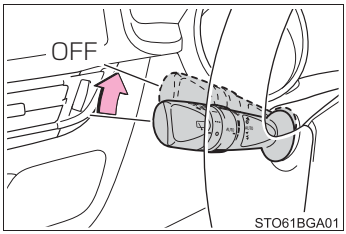
■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

⚠注意

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●バックカメラ装着車：洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV・IR カット機能付きフロントドアガラスについて（雨滴感知式ワイパー装着車もしくは寒冷地仕様車）

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車の故障や車両火災を防ぐために

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 70）
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です
- 車内で可燃性のスプレー（洗浄剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 34）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 199）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV・IR カット機能付きフロントドアガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車もしくは寒冷地仕様車）

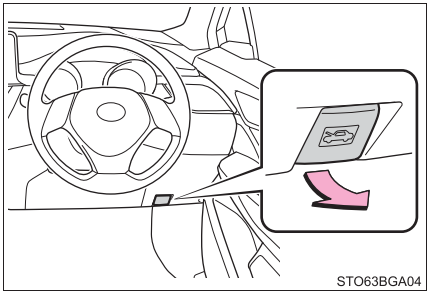
ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

ボンネット

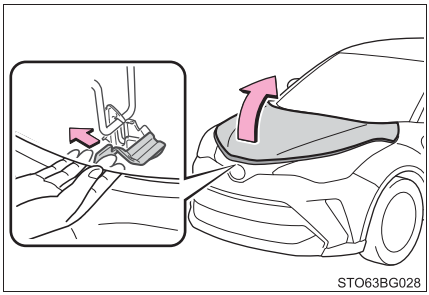
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

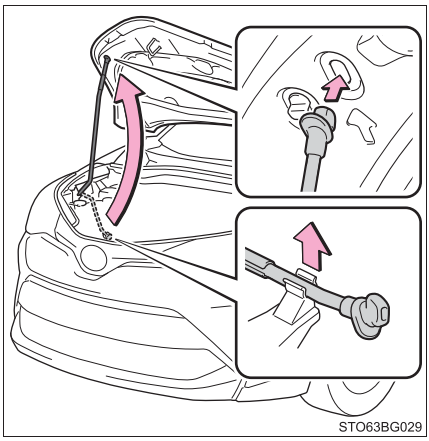
ボンネットが少し浮き上がります。


STO63BGA04

2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける


STO63BG028

3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む


STO63BG029

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ボンネットを開けるとき**

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■**エンジンルーム点検後の確認**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

注意

■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■**ボンネットを閉めるとき**

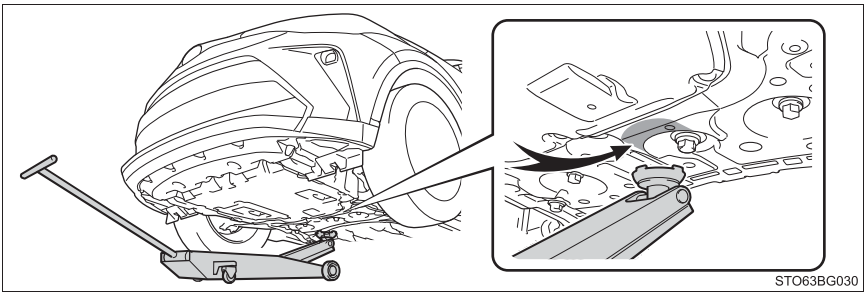
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

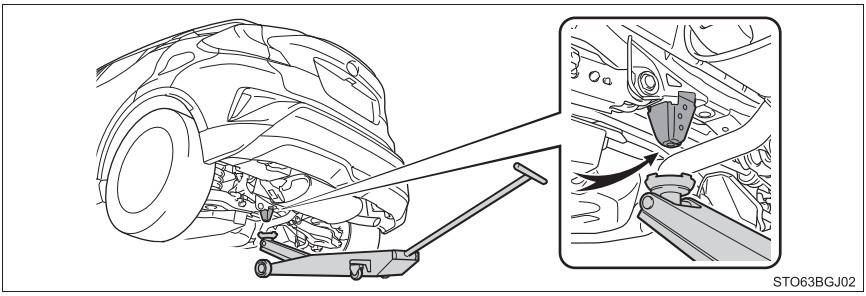
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側

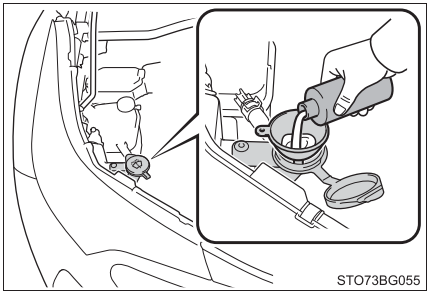


ウォッシャー液の補充

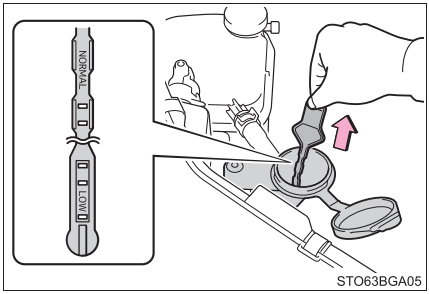
補充のしかた

次のような場合、ウォッシャー液を補給してください。

- ワイパースイッチを操作してもウォッシャー液が出ないとき
- マルチインフォメーションに警告メッセージが表示されたとき（寒冷地仕様車のみ）


STO73BG055

- ゲージでの点検の際、液面がLOWの位置に近付いていたとき（ゲージ装着車）

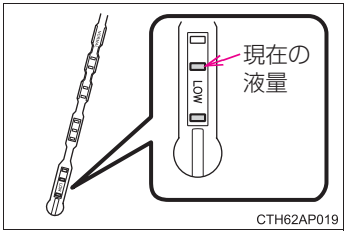


STO63BGA05

知識

■ゲージの使い方（ゲージ装着車）

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



CTH62AP019

警告

■ **ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

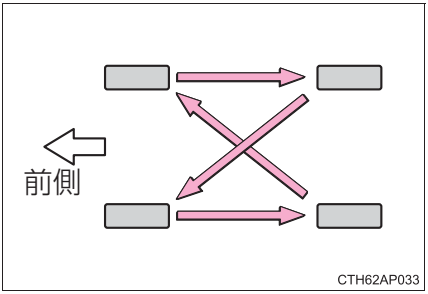
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

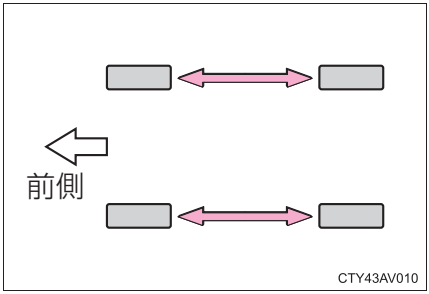
図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ 19 インチタイヤ装着車以外

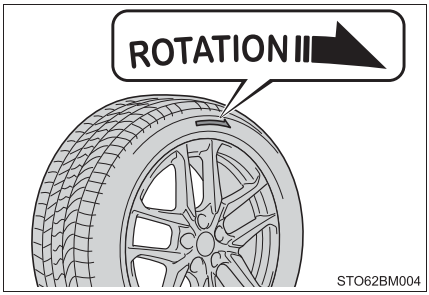


▶ 19 インチタイヤ装着車



回転に方向性があるタイヤ（19 インチタイヤ装着車）

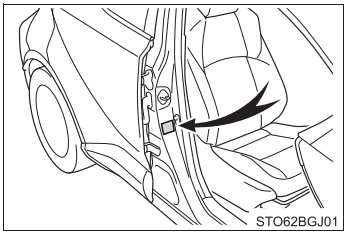
タイヤの側壁に、回転方向が表示されています。表示に従って装着してください。



知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	前輪	後輪
17 インチ	230kPa (2.3 kg/cm^2)※	230kPa (2.3 kg/cm^2)※
18 インチ	230kPa (2.3 kg/cm^2)※	230kPa (2.3 kg/cm^2)※
19 インチ	230kPa (2.3 kg/cm^2)※	230kPa (2.3 kg/cm^2)※
応急用タイヤ★	420kPa (4.2 kg/cm^2)※	

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤ空気圧の点検（19 インチタイヤ装着車）

- 1ヶ月に1回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。
- 低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または、長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■低偏平タイヤについて（19 インチタイヤ装着車）

装着されているタイヤは、一般道でのグリップ性能を重視してつくられています。雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ性能がより低下します。必ず冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■**タイヤ交換時の注意**

ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■**異常があるホイールの使用禁止**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■低偏平タイヤについて（19 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける

タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 482）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

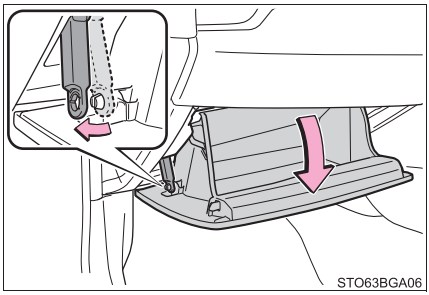
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

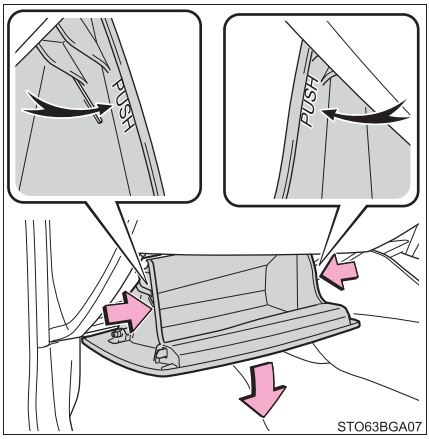
交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

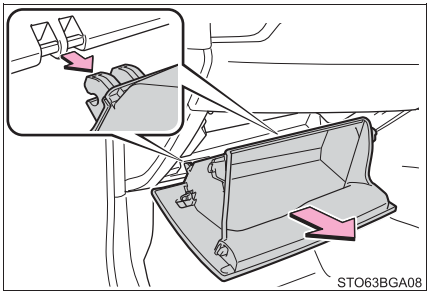


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

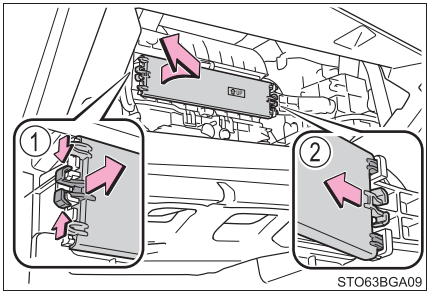
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



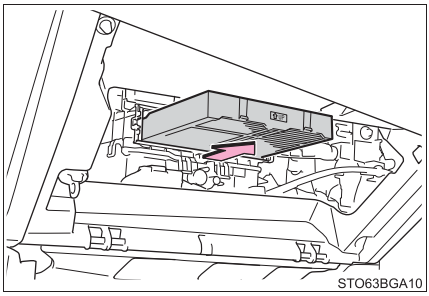
5 フィルターカバーを取りはずす

① つまみを押してフィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

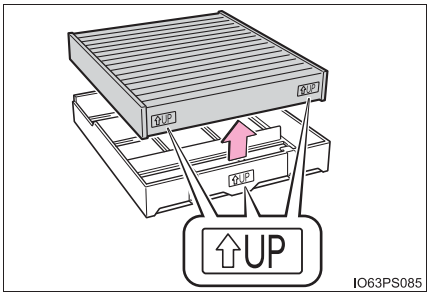


6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。
15000km［7500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

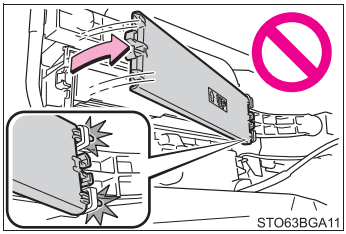
●フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 379）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。
ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の仕様頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

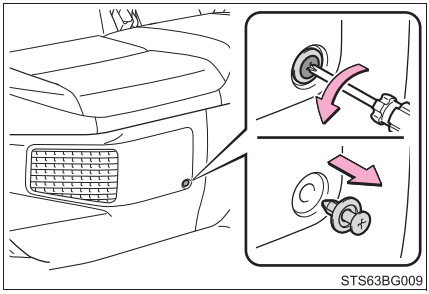
■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

すみやかに清掃してください。
警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

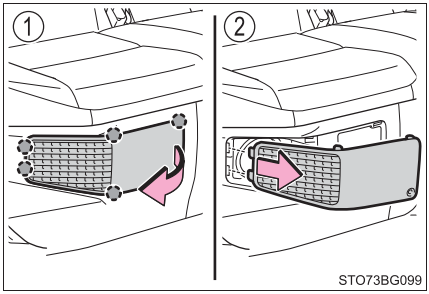
2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす



3 吸入口カバーを取りはずす

① 吸入口カバーを手前に引いて、図で示す５ヶ所のツメを右端からはずす

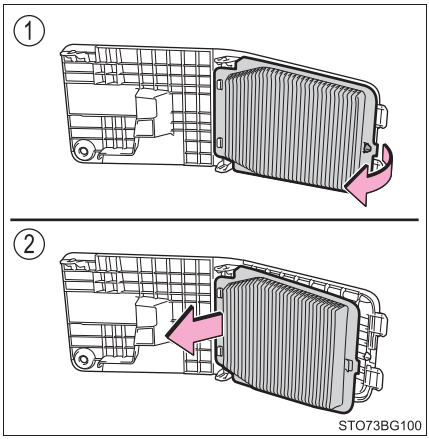
② 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす



4 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

① 図で示す１ヶ所のツメからフィルターをはずす

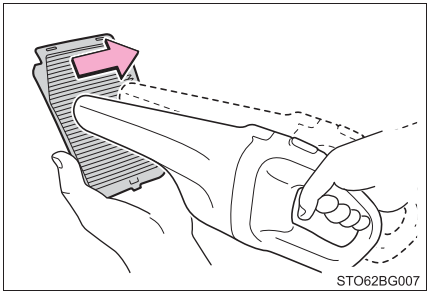
② 吸入口カバーから残り２ヵ所のツメを外してフィルターを取りはずす



5 フィルターからほこりや砂などを取り除く

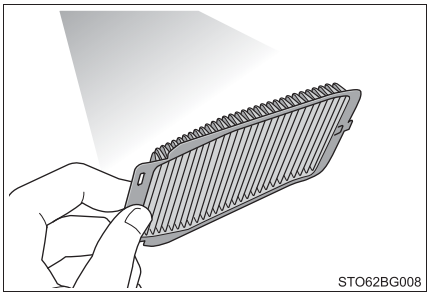
掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



6 フィルターに光をかざし、目詰まりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

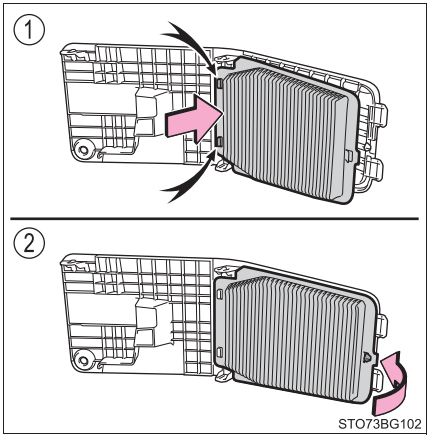


7 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

① 図で示す２ヵ所のツメにフィルターを引っかける

② 残り１ヵ所のツメにフィルターを取り付ける

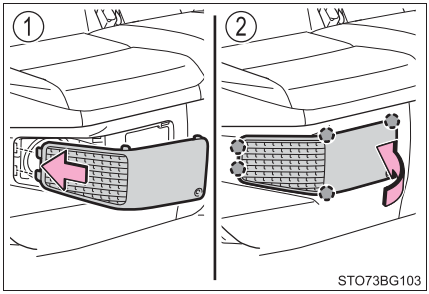
フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。



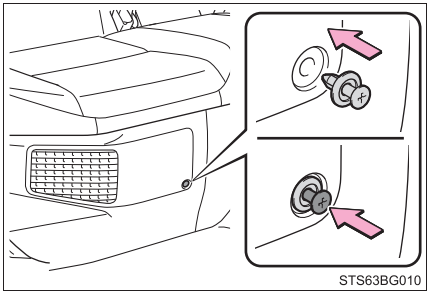
8 吸入口カバーを取り付ける

① 吸入口カバー左端のツメを差し込む

② 図で示す５ヶ所のツメを取り付け



9 クリップを取り付ける



▶ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」と表示されていたとき

10 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。
しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機の使用をおすすめします

警告

■吸入口の清掃をするときは

- 水やその他の液体で清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチをOFFにしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■吸入口カバーを取りはずすときは

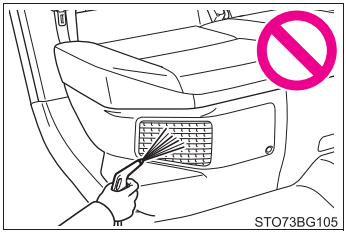
吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→ P. 72）

注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

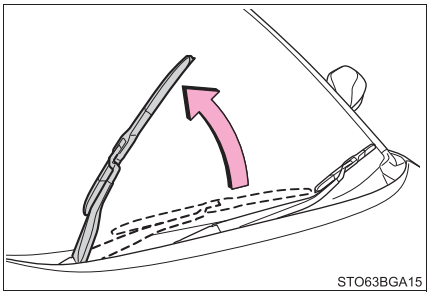
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパー

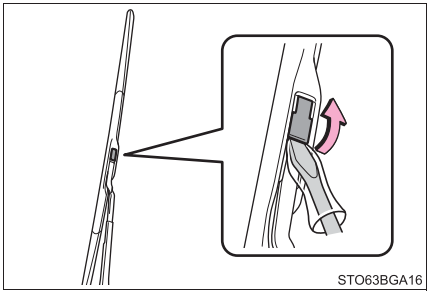
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす


STO63BGA15

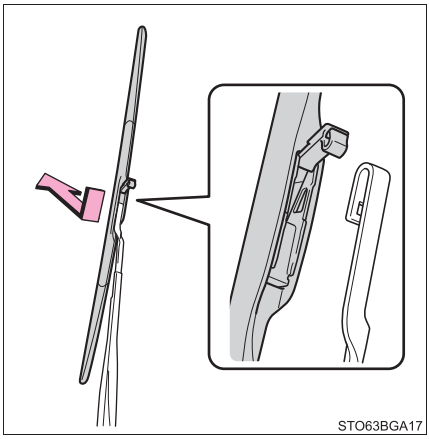
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


STO63BGA16

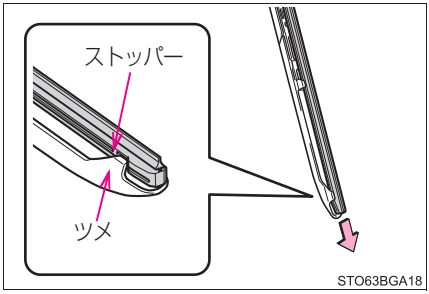
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。


STO63BGA17

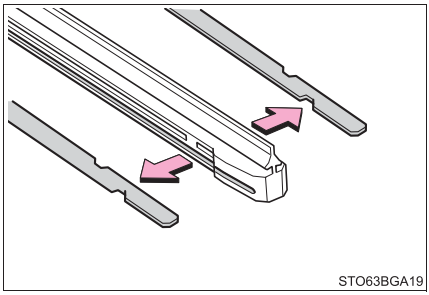
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください

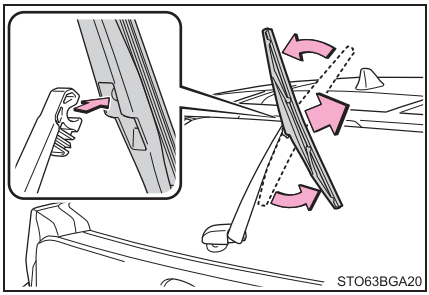


3 ストッパーがない側からワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

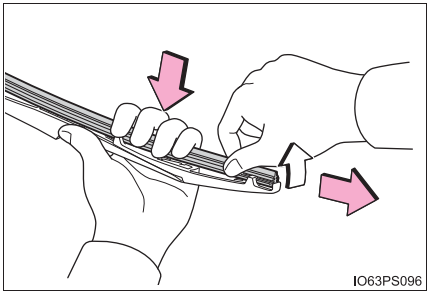
リヤワイパー

1 「カチッ」と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

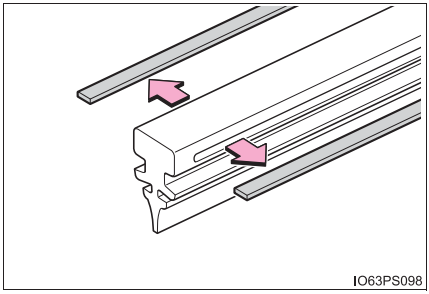


2 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

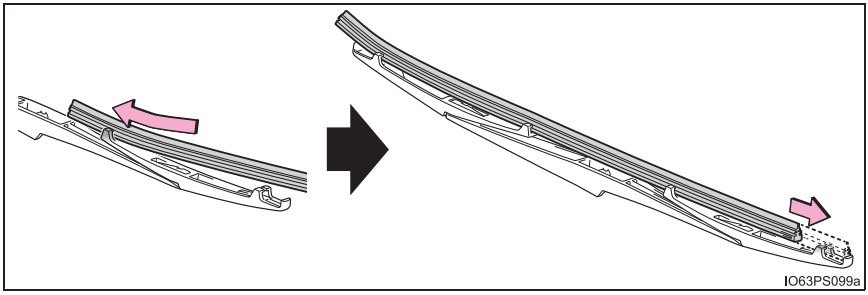


3 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



4 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3 つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った 1 つのツメに通す

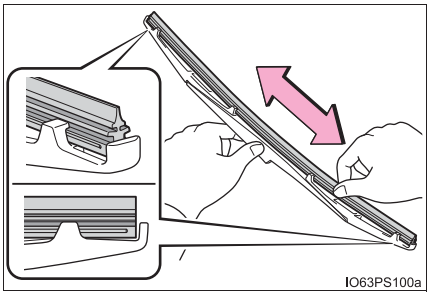
ワイパーゴムにウォッシャ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



5 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



6 ワイパーブレードを取り付けるときは、**1** と逆の手順で取り付ける

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■損傷を防ぐために

- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

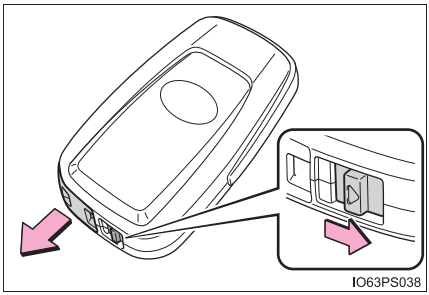
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

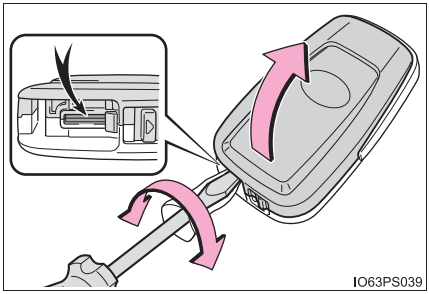
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

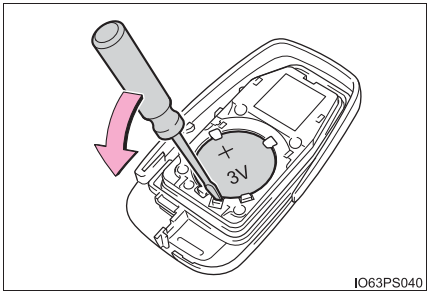
適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。
電池をはずす際は、適切なマイナスドライバーをご使用ください。
新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■**電子キーの電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■**電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

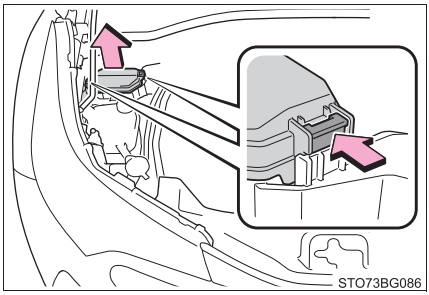
1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）

2ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

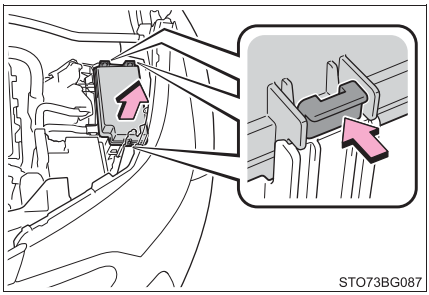
閉めるときは、2ヶ所のツメを確実に閉めてください。



▶ エンジンルーム（助手席側）

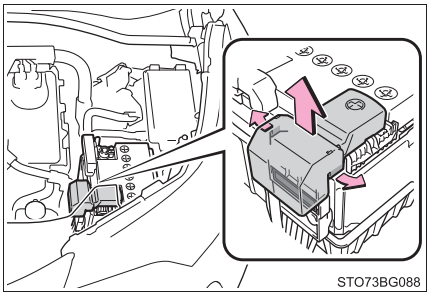
3ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

閉めるときは、3ヶ所のツメを確実に閉めてください。



▶ エンジンルーム（バッテリー上部）

カバーを取り外す

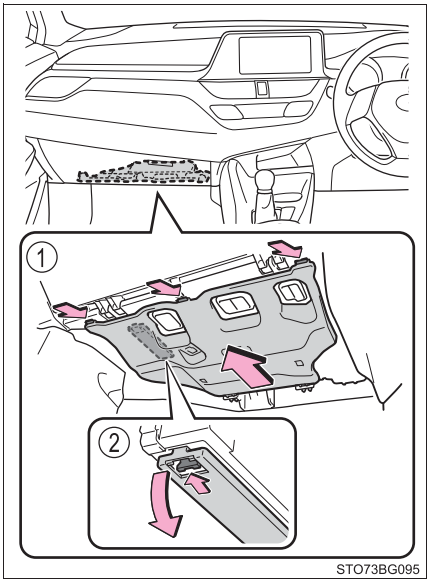


▶ 助手席足元

① ツメを押してロックをはずし、アンダーカバーを取りはずす

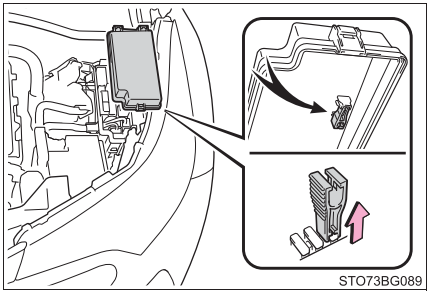
② ヒューズボックスカバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

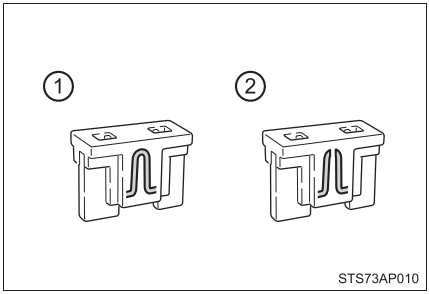


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
（→ P. 398）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

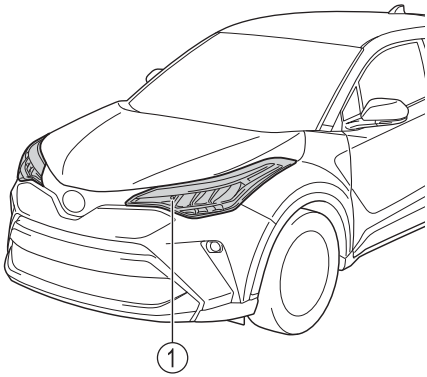
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 483）

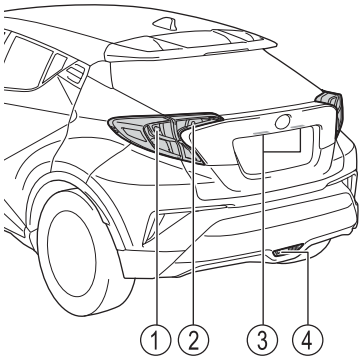
バルブ位置

■ フロント



① フロント方向指示灯／非常点滅灯 （バルブタイプ）

■ リヤ



STO73BG003

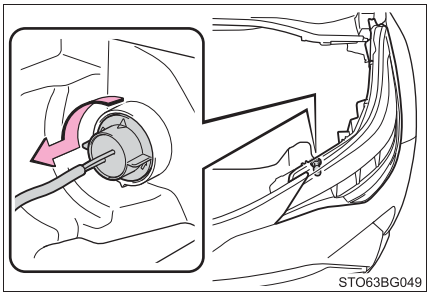
① リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）
② 後退灯（バルブタイプ）
③ 番号灯
④ リヤフォグランプ（バルブタイプ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

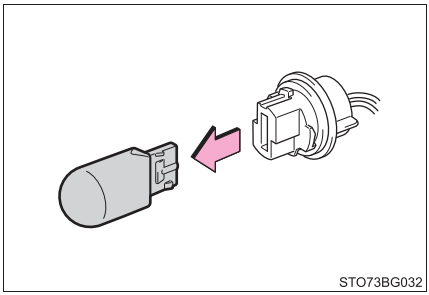
電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす


STO63BG049

2 電球を取りはずす

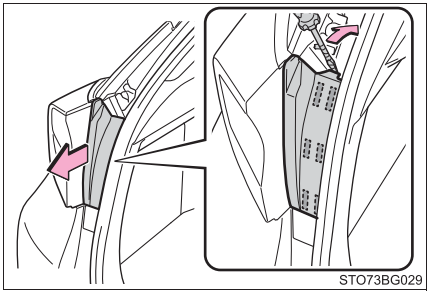

STO73BG032

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

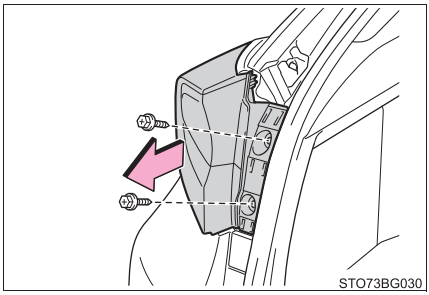
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 バックドアを開け、カバーをはずす

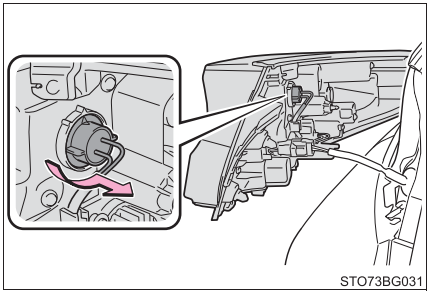
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。


STO73BG029

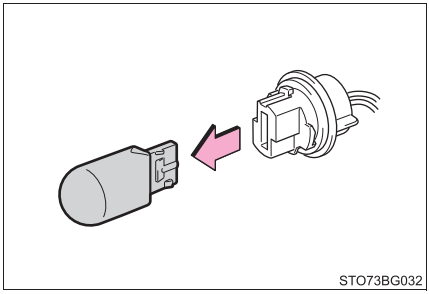
2 スクリュー（2本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす


STO73BG030

3 ソケットをまわして取りはずす


STO73BG031

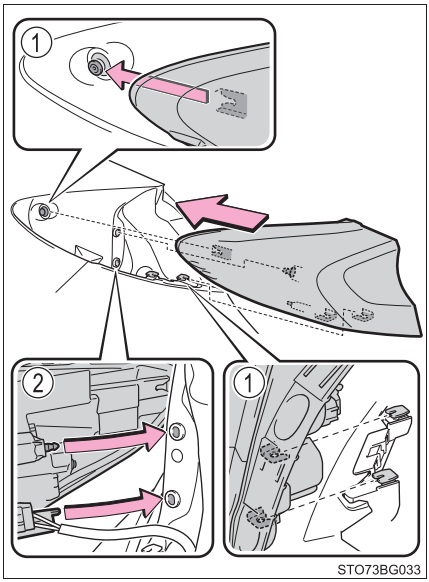
4 電球を取りはずす


STO73BG032

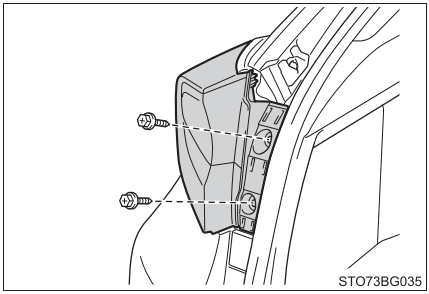
5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

6 ランプ本体を取り付ける

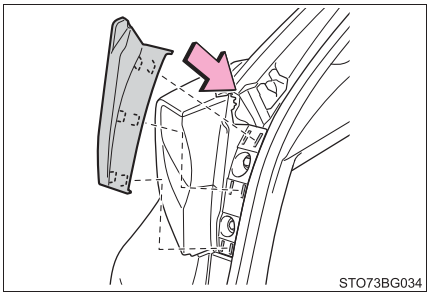
外側と下側のツメ（①）とクリップを合わせてからピン（②）を合わせて取り付けてください。



7 スクリュー（2 本）を取り付ける



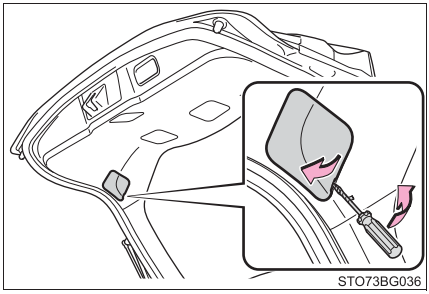
8 カバーを取り付ける



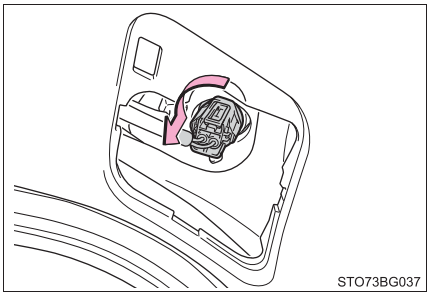
■ 後退灯（バルブタイプ）

1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

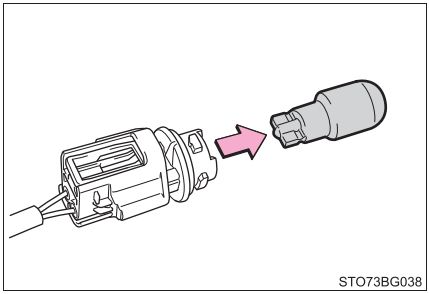
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。


STO73BG036

2 ソケットをまわして取りはずす


STO73BG037

3 電球を取りはずす

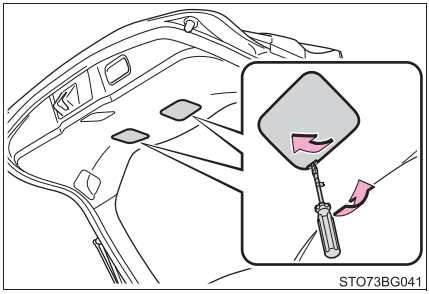

STO73BG038

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

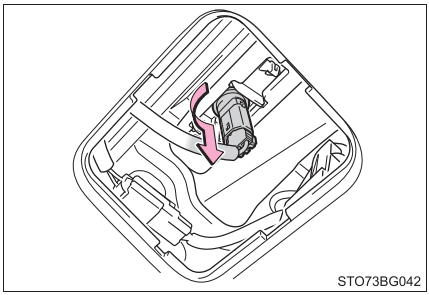
■ 番号灯

1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

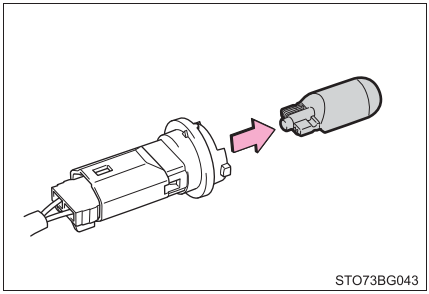
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。


STO73BG041

2 ソケットをまわして取りはずす


STO73BG042

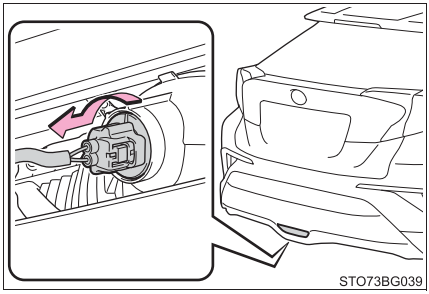
3 電球を取りはずす


STO73BG043

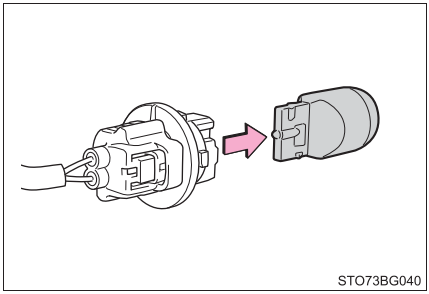
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグランプ（バルブタイプ）★

1 ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- LED デイライト★
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- 後退灯（LED タイプ）
- リヤフォグランプ（LED タイプ）★
- ハイマウントストップランプ
- ドアミラーイルミネーション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

次のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

●ヘッドランプ

●車幅灯

●フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）

●LED デイライト★

●フロントフォグランプ★

●サイド方向指示灯／非常点滅灯

●制動灯／尾灯

●リヤ方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）

●後退灯（LED タイプ）

●リヤフォグランプ（LED タイプ）★

●ハイマウントストップランプ

●ドアミラーイルミネーション★

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 397

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電球を交換するとき

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....410
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....411
発炎筒.....412
車両を緊急停止するには.....414
水没・冠水したときは.....415

7-2. 緊急時の対処法

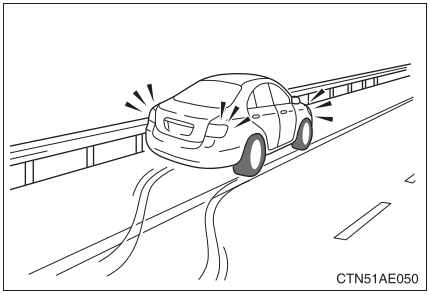
けん引について.....416
警告灯がついたときは.....422
警告メッセージが
表示されたときは.....427
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....434
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....448
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....458
電子キーが
正常に働かないときは.....460
補機バッテリーが
あがったときは.....463
オーバーヒートしたときは...469
スタックしたときは.....474

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

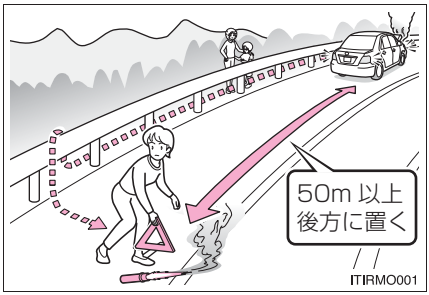
非常点滅灯（→ P. 411）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

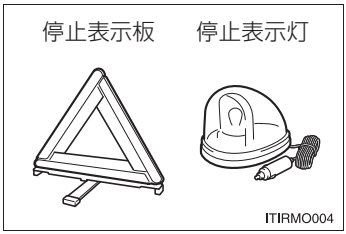
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 412）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

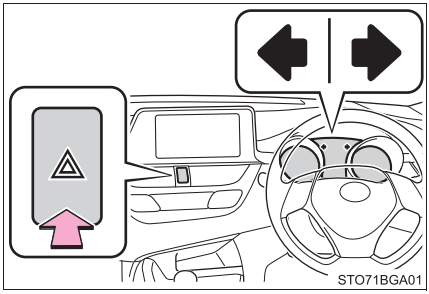


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

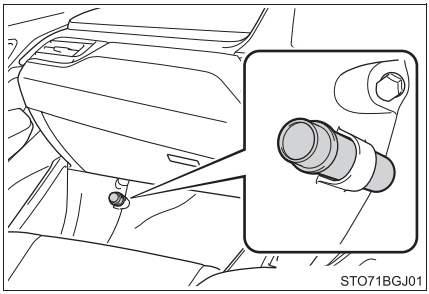
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

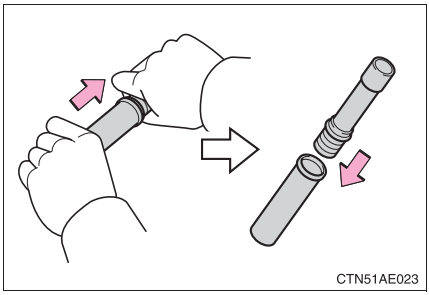
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

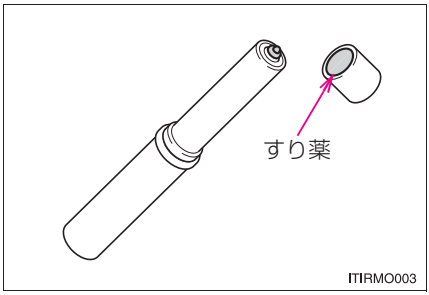


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

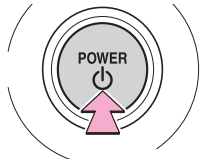
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD214

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

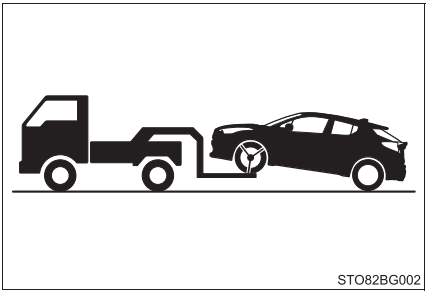
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示すメッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

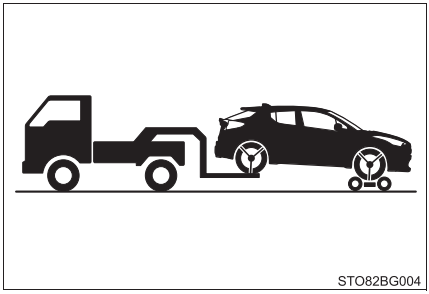
▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→ P. 169）

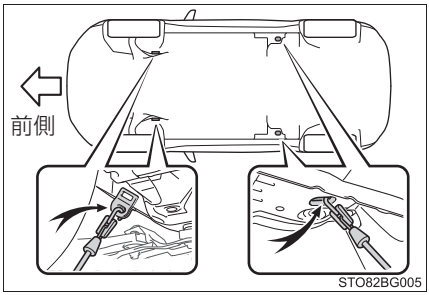
▶ うしろ向きにけん引するときは



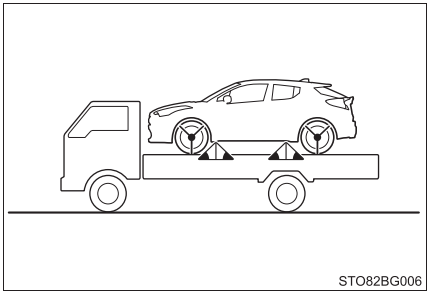
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°　になるように固縛する



他車にけん引してもらうとき

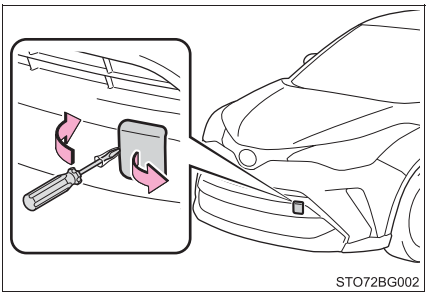
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す（→ P. 436, 449 ）

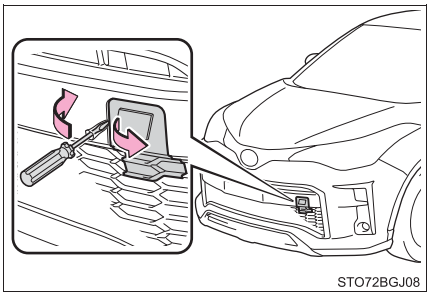
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ GR SPORT 除く

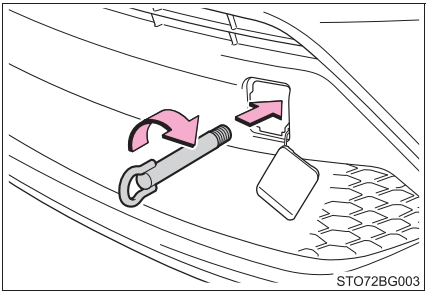

STO72BG002

▶ GR SPORT

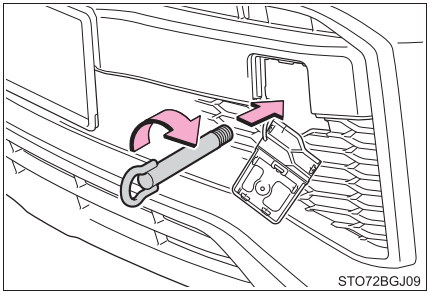

STO72BGJ08

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

▶ GR SPORT 除く

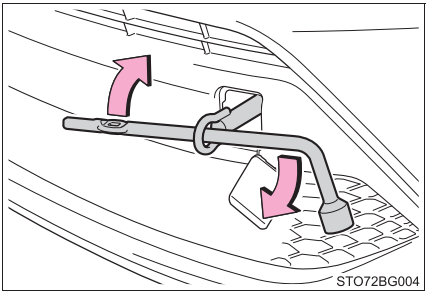

STO72BG003

▶ GR SPORT

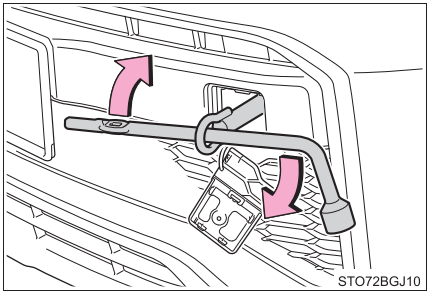

STO72BGJ09

4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

▶ GR SPORT 除く



▶ GR SPORT

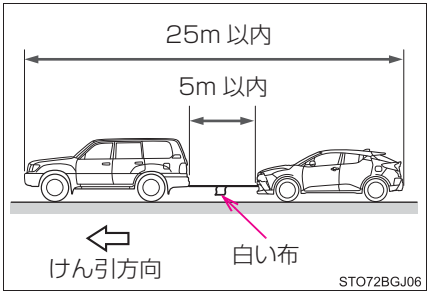


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→ P. 169）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 166

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

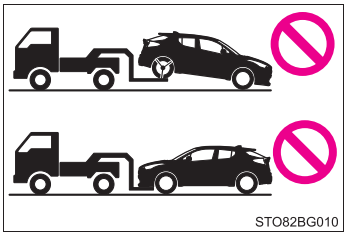
ラゲージルームに搭載されています。（→ P. 436, 449）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

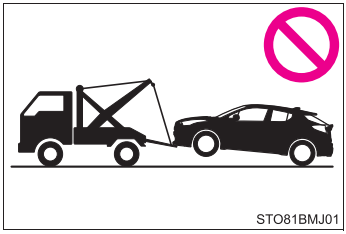
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯（シンボル表示 ※1） 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯（警告ブザー）（シンボル表示 ※1） エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	エンジン警告灯（警告ブザー） ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （赤色／黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）	**クリアランスソナー OFF 表示灯★** クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 268）**
 （点滅）	**PKSB OFF 表示灯★** ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 287）**
 （点滅）	**RCTA OFF 表示灯★** RCTA（リヤクロストトフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパーに汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 275）**
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC ／ TRC ／ ABS システム作動時は点滅します。（→ P. 297） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（黄色）	**LTA 表示灯（警告ブザー）** ※1 LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 232）**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 202, 427）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 218**
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ※1 ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** ※2 パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.4L 以下になった **→ 燃料を補給する**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※3 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**
	後席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※4, 5 後席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	高水温警告灯（警告ブザー）（シンボル表示※1） エンジン水温の異常 **→ P. 469**
	ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー）（シンボル表示※1） ハイブリッドシステムの高温異常 **→ 安全な場所に停車し、対処法（→ P. 469）に従ってください。**
	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール（シンボル表示※1） **ブレーキオーバーライドシステム** アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **ドライブスタートコントロール** アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※4 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

※5 インストルメントパネルに表示されます。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■後席シートベルト非着用警告灯の作動について

●リヤドアを開閉すると約 66 秒間点灯します。

●いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。
点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 66 秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠警告

■ABS ＆ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS、ブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

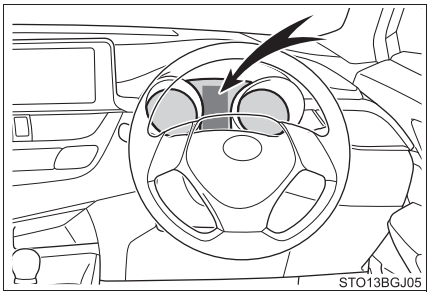
■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
—	あり	・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。
すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

●ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 146）

●ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）★が作動したときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 145, 282）
画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法（→ P. 469）に従ってください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「ブレーキ力が低下　安全な場所に停車して取扱書を確認」
・「充電システム故障　安全な場所に停車して取扱書を確認」
・「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」
・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリ系故障」
・「アクセル系故障」
・「ハイブリッドシステム停止」
・「エンジン停止」

●「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書確認ください」が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。

・約 6 秒後に表示が消えたときは：
ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 463）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

●「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認」が表示されたとき

冷却用の吸入口／フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトに隙間があるなどが考えられます。

・駆動用電池冷却用吸入口を清掃する（→ P. 382）
駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「エンジンオイル量不足　補充するか、交換してください」が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■「ハイブリッドシステム停止 ハンドルが重くなります」が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 469

■「駆動用電池保護が必要 Nレンジの使用を控えてください」が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■ 「駆動用電池保護が必要 Pレンジにして再始動してください」が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。
車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ 「駐車時は Pレンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。

■ 「 Nレンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください」が表示されたときは

シフトレバーがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■ 「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。
そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「新しいキーが登録されました　詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたとき

メッセージは新しい電子キーを登録してからおよそ 1 週間、車外からドアロックを解除し、運転席ドアを開けたときに表示されます。
新しい電子キーを登録していないにもかかわらずこのメッセージが表示されるときは、不明な電子キー（現在所有しているもの以外）が登録されていないかトヨタ販売店で点検を受けてください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 202, 422）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●オートマチックハイビーム

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●オートマチックハイビーム

●先行車発進告知機能

■ レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→ P. 202, 422）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール一時使用不可取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法→ P. 202）

■「クルーズ現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■警告ブザー

→ P. 426

⚠ 注意

■ 「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書確認ください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ **タイヤがパンクしたときは**

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

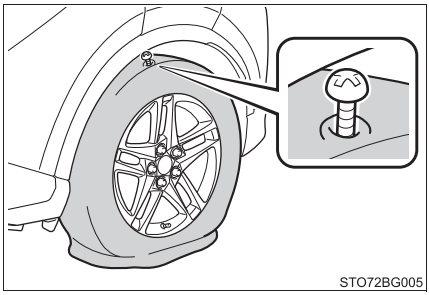
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- シフトレバーをＰにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



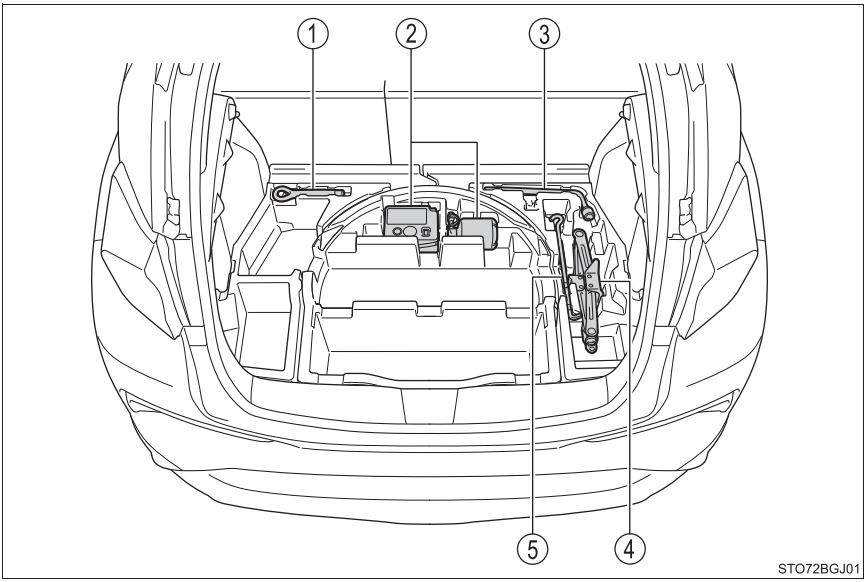
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

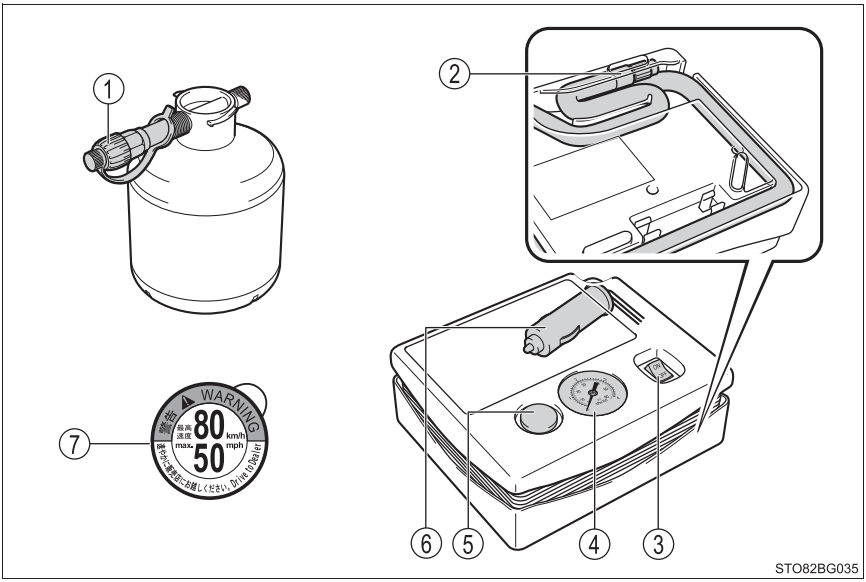
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



① けん引フック
② タイヤパンク応急修理キット
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキ
（使用方法：→ P. 451）
⑤ ジャッキハンドル

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



① ノズル
② ホース
③ 電源スイッチ
④ 空気圧計
⑤ 空気圧逃がしボタン
⑥ 電源プラグ
⑦ 速度制限ラベル

応急修理キットの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 328）

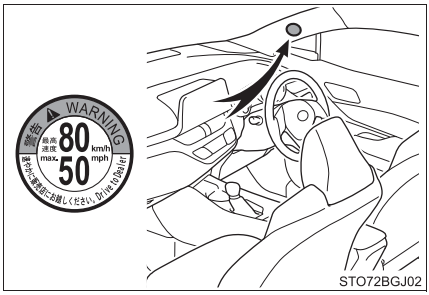
2 応急修理キットを取り出す

応急修理するとき

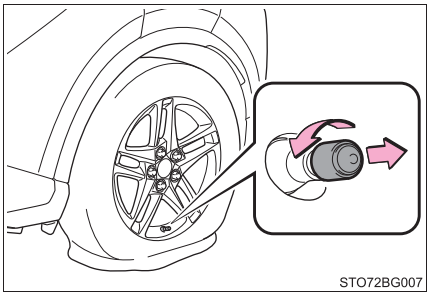
1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ビニール袋は再度使用するため、破ったり捨てたりしないで下さい。

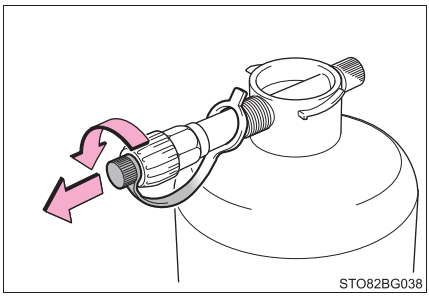
2 付属のラベルを運転席から見えやすい位置に貼り付ける



3 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

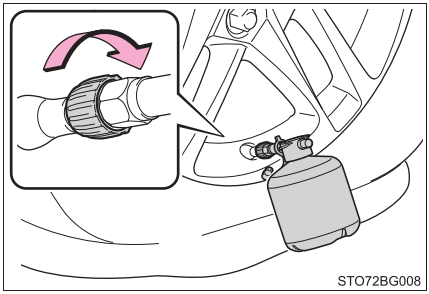


4 ノズルからキャップを取りはずす

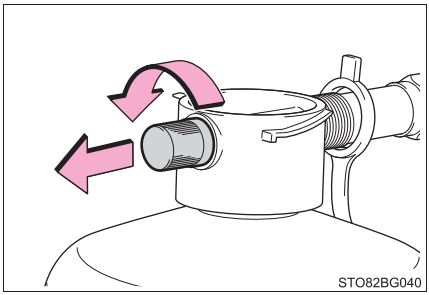


5 ノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

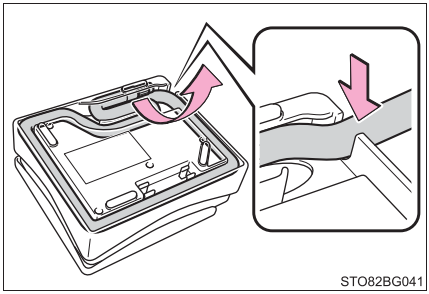
ノズル先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。
ボトルは垂直にぶら下がるように取り付け、地面と接触させない。
もし垂直にできない場合は、バルブの位置が適正になるように車両を移動させる。


STO72BG008

6 ボトルのキャップをはずす

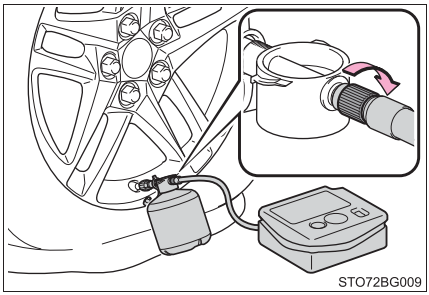

STO82BG040

7 コンプレッサーからホースを取りはずす

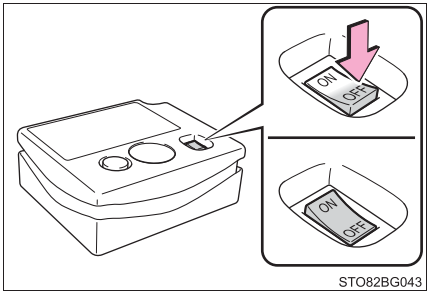

STO82BG041

8 コンプレッサーのホースをボトルに取り付ける

ホース先端を時計回りにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

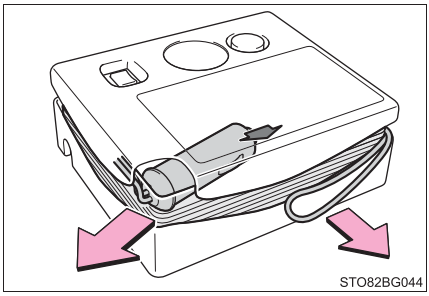

STO72BG009

9 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

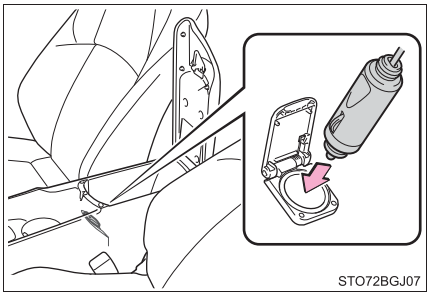


STO82BG043

10 コンプレッサーの電源プラグをはずす

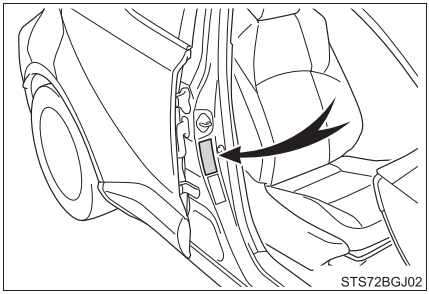

STO82BG044

11 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 336）


STO72BGJ07

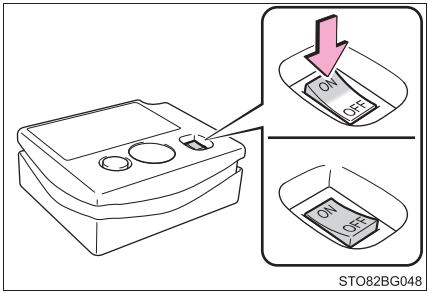
12 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 373）


STS72BGJ02

13 ハイブリッドシステムを始動する

14 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



STO82BG048

15 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

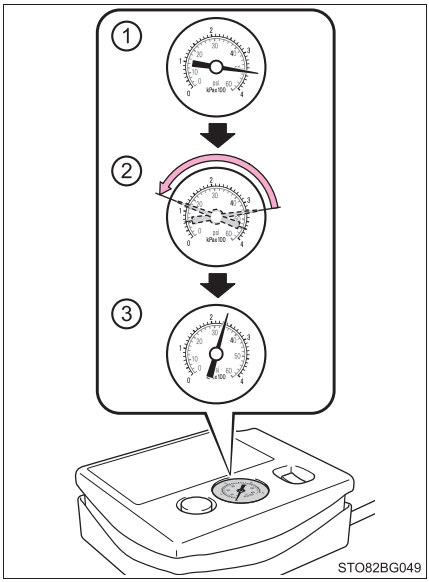
① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

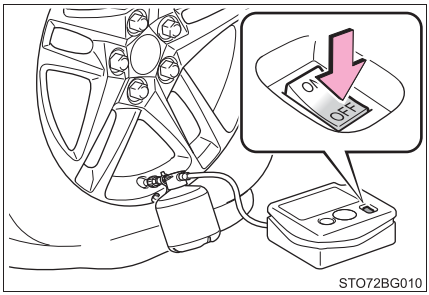
35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 444, 482）



STO82BG049

16 コンプレッサーのスイッチをOFFにする

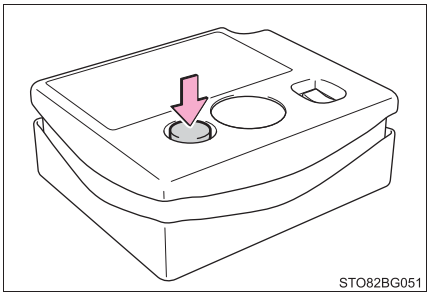


STO72BG010

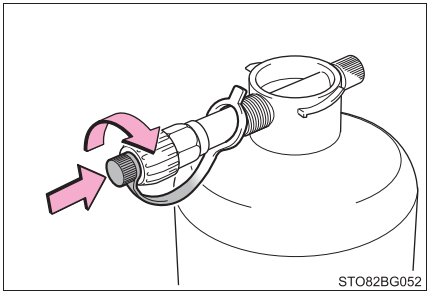
17 アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからノズルを取り外す

ノズルを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

18 空気圧逃がしボタンを押して、ボトル内部の圧力を抜く


STO82BG051

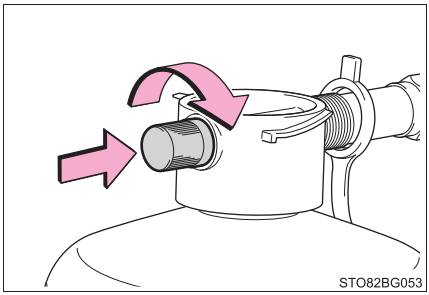
19 ノズルのキャップを取り付ける


STO82BG052

20 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り付ける

21 ホースをボトルから取りはずし、ボトルのキャップを取り付ける

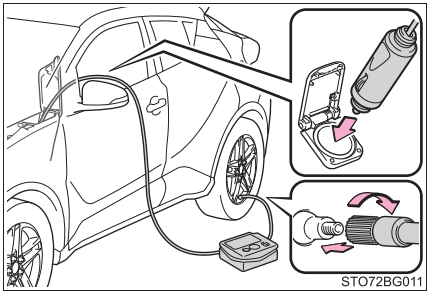
お車が汚れるのを防ぐため、ボトルをもとのビニール袋に入れ、袋を縛る。


STO82BG053

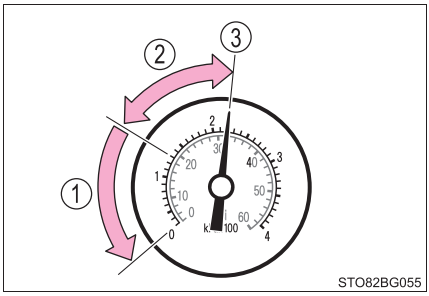
22 いったん、ボトルとコンプレッサーをラゲージルームに収納する

23 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

24 走行後、地面が固く平らで安全な場所に停車し、コンプレッサーを接続する



25 コンプレッサーのスイッチをONにして数秒間経過後、OFF にしてから空気圧を確認する



① 空気圧が130 kpa (1.3 kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130 kpa (1.3 kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：26 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 482）の場合：27 へ

26 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて 24 から実施する

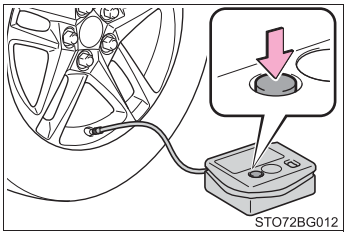
27 コンプレッサーをラゲージルームに収納します

28 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行き、タイヤを修理または交換する

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



2 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
  急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■**パンクしたタイヤを応急修理するとき**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- パンク補修液のボトルを逆さまにして使用しないでください。コンプレッサーの故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 372 を参照してください）

警告

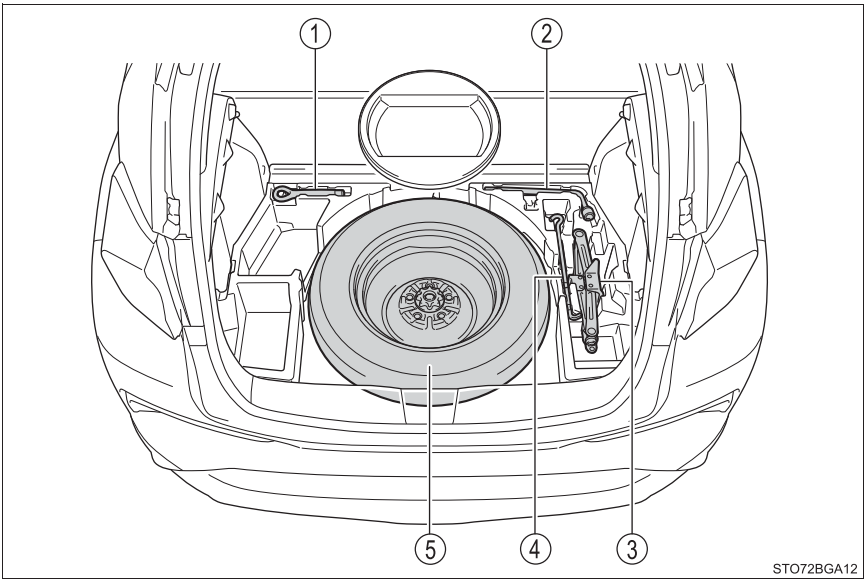
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 411）

工具とジャッキ位置



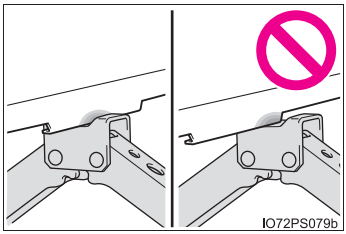
① けん引フック
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキ
④ ジャッキハンドル
⑤ 応急用タイヤ

警告

■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→P. 452）

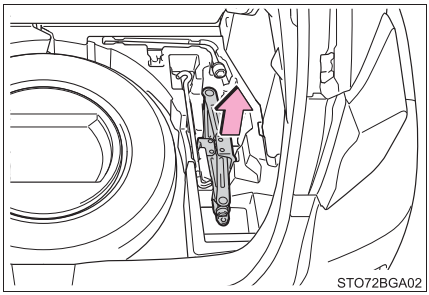


- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 328）

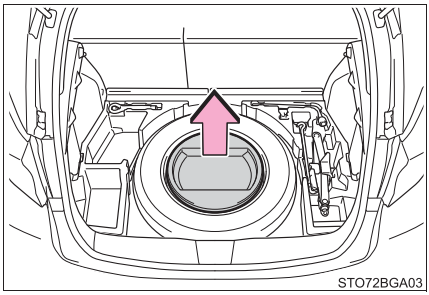
2 ジャッキを取り出す



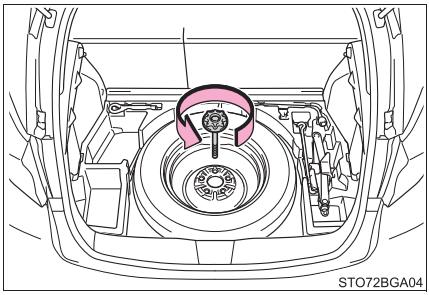
応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 328）

2 クッションを取りはずす



3 留め具を取りはずし、応急用タイヤを取り出す



警告

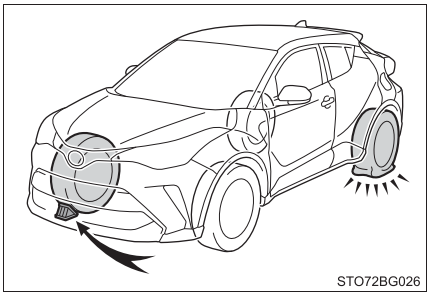
■**応急用タイヤを収納するとき**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

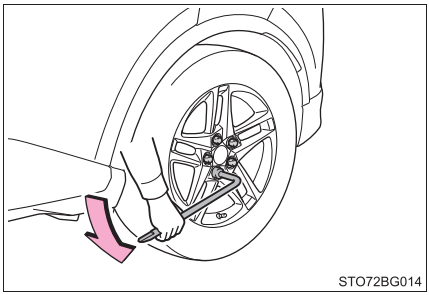
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

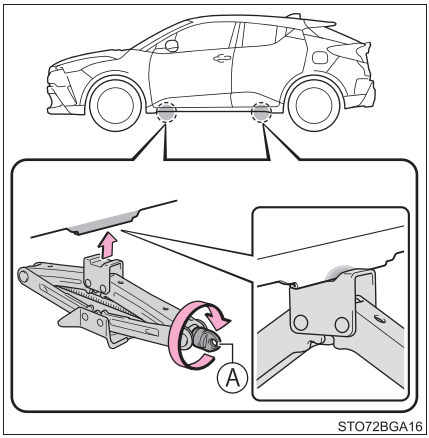

STO72BG026

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

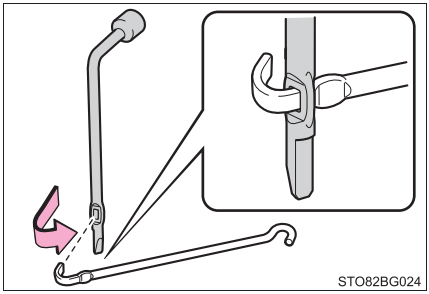

STO72BG014

3 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキのⒶ部を手でまわす。

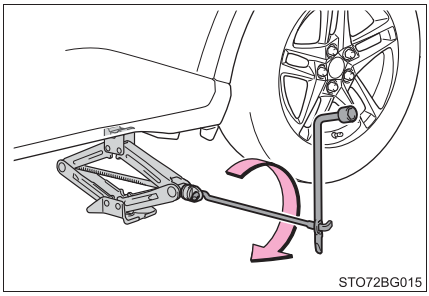


STO72BGA16

4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

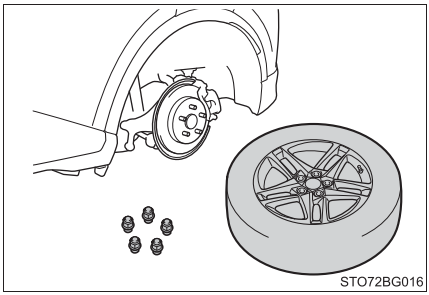

STO82BG024

5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる


STO72BG015

6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。


STO72BG016

警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

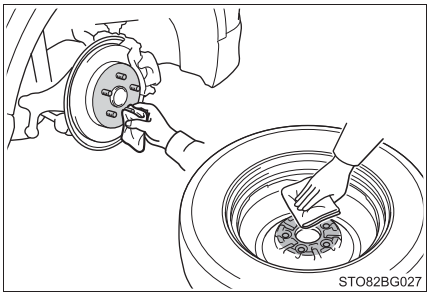
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→ P. 375）

応急用タイヤの取り付け

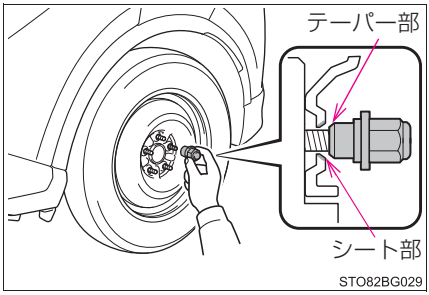
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


STO82BG027

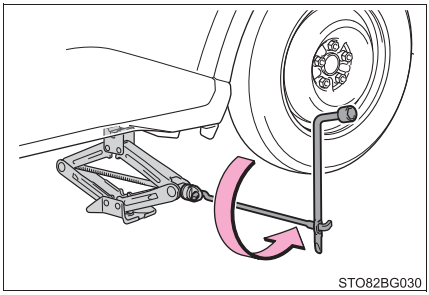
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



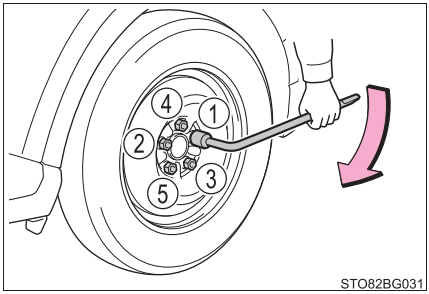
STO82BG029

3 車体を下げる


STO82BG030

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



STO82BG031

5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 482）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・オートマチックハイビーム
・PCS
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・BSM★
・クリアランスソナー★
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■**応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 156）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 461）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。（→ P. 71）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 75）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 459）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－ 30 ℃以下）可能性があります。（→ P. 71, 158）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 463）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 463）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 122）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 105）を使って次の操作ができます。

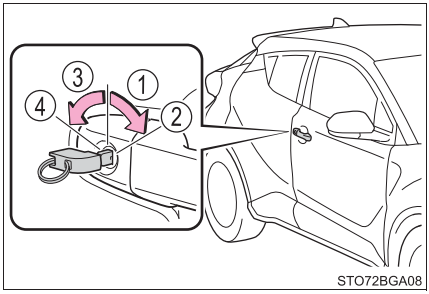
① 全ドア施錠

② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。



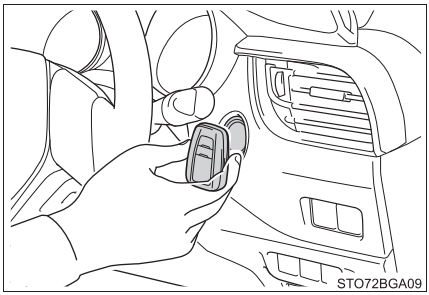
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、パワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 392）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P. 76）

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 157）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 484）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 121）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

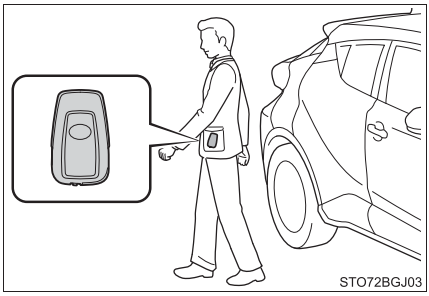
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

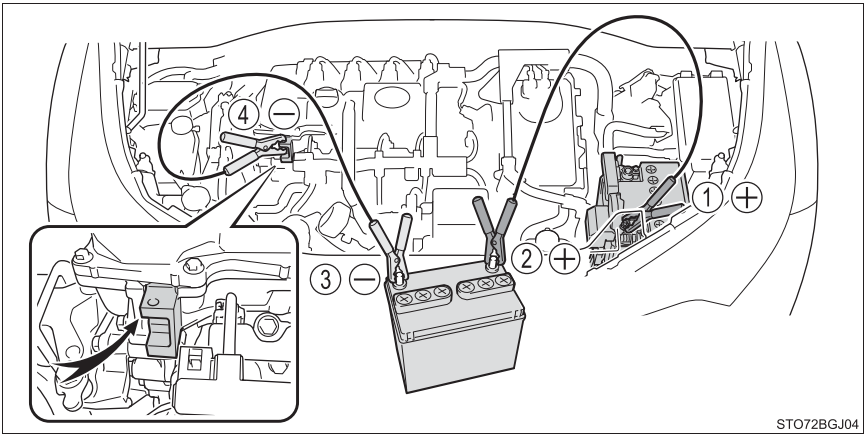
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 78)



2 ボンネットを開ける（→ P. 367）

3 補機バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を補機バッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

6 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー＋ 端子のカバーをもとにもどしてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→ P. 492）

■補機バッテリー端子をはずすとき

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時や補機バッテリー脱着後、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するとき

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（295A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■**補機バッテリーのマイナス端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 87）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

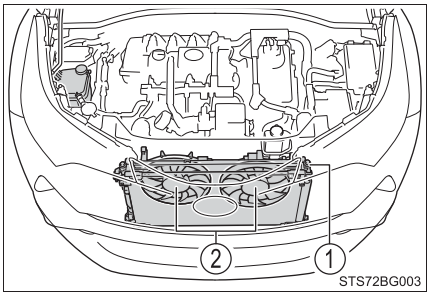
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

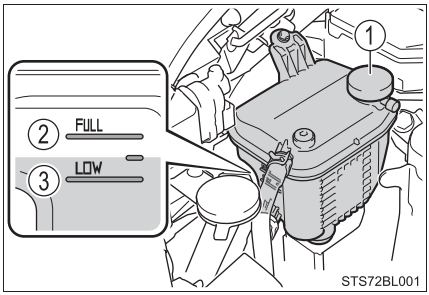
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



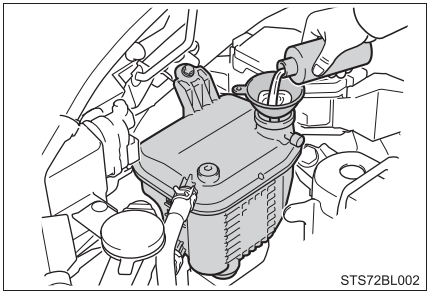
4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク
② “FULL”（上限）
③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

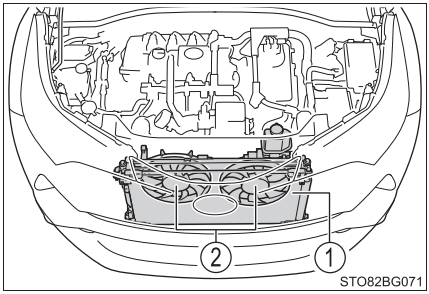
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

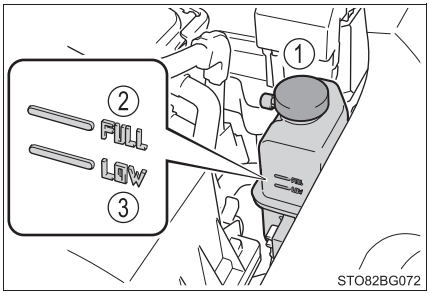


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

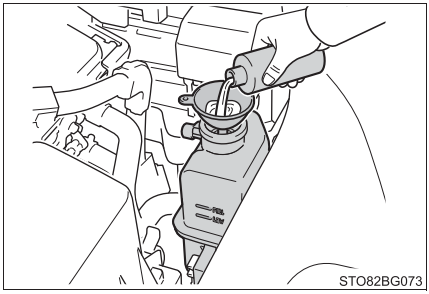
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給し、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから５分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です

ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消えていることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

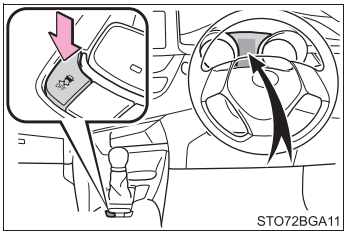
1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押してTRCをOFFにしてください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



警告

■**脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....478
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....484
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....492

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	43

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 —API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.9	4.2

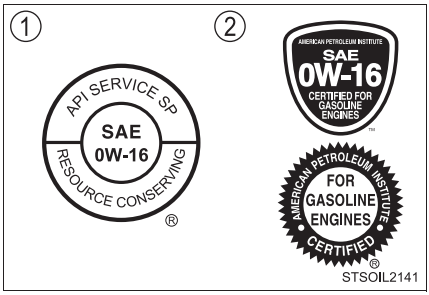
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。
0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

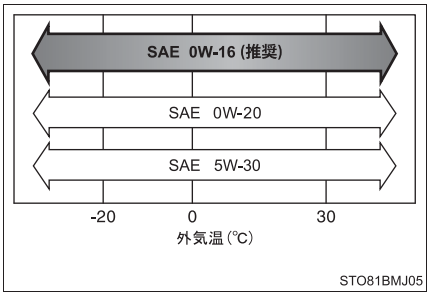
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタスーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　−12 ℃ 濃度 50%　−35 ℃	5.4	1.4

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS※	3.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■オートフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 5
踏み込んだときの床板とのすき間※	125

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R17 96H	17×6 1/2J	230（2.3）	
	225/50R18 95V	18×7J		
	225/45R19 92W	19×7 1/2J		
応急用タイヤ★	T145/90D16 106M	16×4T	420（4.2）	

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク（N・m［kgf・cm］）	
標準タイヤ	103N・m（1050kgf・cm）
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	後退灯（バルブタイプ）	16
	番号灯	5
	リヤフォグランプ（バルブタイプ）★	21
車内	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	バニティミラーランプ★	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ZYX11	2ZR-FXE（1.8 L ガソリン）	1NM	FF（前輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアシステムの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの“＜”または“＞”を押して を選択する

2 “∧”または“∨”を押して「表示設定」を選択し、 ／ スイッチを押す

3 “∧”または“∨”を押して変更する項目を選択し、 ／ スイッチを押す

4 “∧”または“∨”を押して設定したい項目を選択し、 ／ スイッチを押す

設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

■ マルチメディアシステムで設定するには（マルチメディア装着車）

1 「MENU」スイッチを押す

2 「設定・編集」を選択する

3 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

4 「車両カスタマイズ」を選択する

車両カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

② マルチメディアシステムで設定変更可能（マルチメディア装着車）

③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 87, 91）

機能	初期設定	変更後	①	②	③
言語	日本語	English	○	○	―
単位	km/L	L/100 km	○	○	―
EV インジケーター	あり（自動点灯）	なし	○	―	―
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	※	○	―	―
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2	航続可能距離	※	○	―	―
	リセット間平均車速				

※ 瞬間燃費、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから 2 項目を選択

■ メーター照明（→ P. 94）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－2～＋2	―	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－2～＋2	―	―	○

■ ドライブスタートコントロール (→ P. 145)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
後退速度の抑制制御	する	しない ※	○	—	—

※「しない」に変更しても、パワースイッチを ON モードにするたびに「する」にもどります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 108, 112, 119）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
作動の合図（ブザー音量調整）	5	OFF	—	○	○
		1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	—	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	—	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム（→ P. 119）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	—	○	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 108）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○

■ ドアミラー（→ P. 136）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→ P. 138）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能（開）	しない	する	—	—	○
メカニカルキー連動開閉機能（閉）	しない	する	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（開）	しない	する	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（閉）	しない	する	—	—	○
メカニカルキー・ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	する	しない	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 176）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	－２	－２～２	—	○	○

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 204）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
PCS（プリクラッシュセーフティ）※	あり／なし	○	—	—
警報感度	早い／中間／遅い	○	—	—

※ パワースイッチを ON モードにすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 219）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	○	—	—
警報感度	高／普通	○	—	—
ふらつき検知	あり／なし	○	—	—
ふらつき検知感度	高／普通／低	○	—	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 233）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	○	—	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／ 告知表示とブザー／なし	○	—	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／5 km/h ／ 10km/h	○	—	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／ 告知表示とブザー／なし	○	—	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／ 告知表示とブザー／なし	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能（→ P. 252）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②	③
先行車発進告知機能	あり／なし	○	―	―
告知距離	近い／中間／遠い	○	―	―

■ クリアランスソナー★（→ P. 263）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ～ 3	○	―	―

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★（→ P. 282）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	○	―	―

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 257）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
BSM（ブラインドスポットモニター）機能	あり	なし	○	―	―
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	○	―	―
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	○	―	―
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

■ RCTA（リヤクロストラフックアラート）★（→ P. 274）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ブザー音量	レベル2	レベル 1 ～3	○	—	—

■ エアコン（→ P. 310）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○	○

■ イルミネーション（→ P. 320）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	—	○	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチOFF後の作動	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアミラーイルミネーションの点灯★	あり	なし	—	—	○
ドアミラーイルミネーションの消灯までの時間★	15 秒	OFF	—	○	○
		7.5 秒			
		30 秒			
解錠時のドアミラーイルミネーションの点灯★	あり	なし	—	—	○
接近時のドアミラーイルミネーションの点灯★	あり	なし	—	—	○
室内照明の点灯制御★	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

●車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された

●パワースイッチが OFF になった

●車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

警告

■カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 139
PKSB（パーキングサポートブレーキ）★	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 287

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....494
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....498
アルファベット順
さくいん.....500
五十音順さくいん.....502

次の装備については別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」をお読みください。

- オーディオ
- ナビゲーションシステム
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- パノラミックビューモニター
- ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 105）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 107）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 392）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 157）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 122）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 111）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 156）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 159）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 120）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 461）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 463）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON モードになっていますか？
  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないときは （→ P. 166）を参照してください。

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 138）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 158）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 498）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 422、427 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 434）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 448）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 474）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 76
ドアを開閉したとき	シフトレバーがＰ以外になっている	P. 427
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 140
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 120
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 392
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 120
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 120

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはパワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 112, 115
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 171
	運転席・助手席・後席のシートベルトを着用していない※	P. 425
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 149
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 246
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 204
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 224
速度制限より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 233
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近づいたとき	クリアランスソナーが作動した★	P. 265
後退時に左右から車を検知したとき	RCTA（リヤトラフィックアラート）が作動した★	P. 274
前の車が発進しても停止し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 252

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A ／ C
（エアコン）. 310
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 296, 423
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 257
ECB
（電子制御ブレーキシステム）. 296
EDR
（イベントデータレコーダー）.. 9
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 296, 423
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 483
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 479
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 57, 60
LED
（ライトエミッティングダイオード）. 407
LTA
（レーントレーシングアシスト）. 219
PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 204
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 282
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 274
RSA
（ロードサインアシスト）. 233

S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. 296, 423
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 34, 422
Toyota Safety Sense
LTA（レーントレーシングアシスト）. 219
PCS （プリクラッシュセーフティ）. 204
RSA （ロードサインアシスト）. 233
AHB （オートマチックハイビーム）. 181
先行車発進告知機能. 252
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 238
TRC
（トラクションコントロール）. 296, 423
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 296, 423

五十音順さくいん

あ

アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 463
RF 送信機..... 10
RSA
（ロードサインアシスト）..... 233
アウターミラー（ドアミラー）... 136
操作 136
格納のしかた..... 136
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 257
ミラーヒーター 313
リヤクロストラフィック
アラート（RCTA）..... 274
アクセサリーコンセント 338
アクセサリーソケット..... 336
アクセサリーモード..... 157
アシストグリップ..... 337
アラーム
オートアラーム 76
音さくいん..... 498
警告ブザー..... 422, 427
アンチロックブレーキシステム
（ABS）..... 296
アンテナ
スマートエントリー&
スタートシステム..... 119

い

ECB
（電子制御ブレーキシステム）...296
EV ドライブモード.....162
イグニッションスイッチ
（パワースイッチ).....156
車両を緊急停止するには 414
位置交換
（タイヤローテーション).....372
イベントデータレコーダー
（EDR).....9
イモビライザーシステム.....75
イルミネーテッド
エントリーシステム.....322
インジケーター（表示灯).....83
ドアミラー
インジケーター.....257, 274
ハイブリッドシステム
インジケーター.....89
表示灯 83
READY 156
インテリアランプ 321
ワット数 483
インナーミラー 134

う

ウインカー（方向指示灯）..... 168
電球（バルブ）の
交換.....400, 401, 406
方向指示レバー 168
ワット数..... 483
ウインドウ 138
パワーウインドウ 138
フロントワイパー
デアイサー 314
リヤウインドウ
デフォッガー 313
ウインドウロックスイッチ 138
ウォーニングランプ
（警告灯）.....81, 422
ウォッシャー 187, 191
液の補充..... 370
スイッチ..... 187, 191
タンク容量..... 481
冬の前の準備・点検 305
動けなくなったときは
（スタック）..... 474
雨滴感知式ワイパー..... 188
運転..... 144
雨の日の運転..... 146
運転を補助する装置 296
寒冷時の運転..... 305
正しい運転姿勢 28
手順 144
ハイブリッド車運転の
アドバイス 303
運転席シートベルト
非着用警告灯..... 425

え

エアコン.....310
エコ空調モード.....315
フィルターの交換.....379
エアバッグ.....34
SRS エアバッグ警告灯 422
お子さまのための注意 35
改造・廃棄 37
作動条件 38
正しい姿勢 28
配置.....34
エネルギーモニター 99
LED デイライト.....179
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....219
エレクトリック
パワーステアリング（EPS）....296
パワーステアリング警告灯 423

エンジン
エンジン警告灯 422
オーバーヒート 469
緊急時の停止方法 414
ハイブリッドシステムが始動できない 458
ハイブリッドシステムの始動方法 156
パワースイッチ（イグニッションスイッチ）..... 156
ボンネット 367
エンジンオイル..... 479
冬の前の準備・点検 305
メンテナンスデータ 479
油圧警告灯 422
容量 479
エンジンスイッチ（パワースイッチ）..... 156
車両を緊急停止するには..... 414
エンジンフード（ボンネット）..... 367

お

オーディオ操作スイッチ ※ 337
オーディオ ※
オートアラーム 76
オートエアコン 310
オートマチックハイビーム..... 181
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）..... 179
オーバーヒート 469
オープナー
給油口 195
バックドア 114
ボンネット 367
オイル（エンジンオイル）..... 479
応急用タイヤ 448
空気圧 482
交換方法 448
お子さまを乗せるとき..... 43
ウインドウロックスイッチ 138
エアバッグ 35
お子さまの安全のために 43
キーの電池 392
シートの取り扱いに関する警告..... 126, 128
シートベルトの着用..... 31
チャイルドシート..... 44
チャイルドプロテクター 111
発炎筒の取り扱いに関する警告 413
バックドアに関する警告 117
バッテリーに関する警告 467
パワーウインドウに関する警告 140
オドメーター 87

か

カーテンシールドエアバッグ 34
カーペット
　洗浄 365
　フロアマットの取り付け方 26
外気温表示 87
回生ブレーキ 66
外装の電球（バルブ）..... 398
　交換要領 398
　ワット数 483
買い物フック 327
ガス欠になったとき 71
カスタマイズ機能 484
ガソリンスタンドでの情報 524
型式 483
カップホルダー 326
カメラ
　オートマチックハイビーム 181
　前方カメラ 199
　白線認識用カメラ（LTA）..... 219
ガラスの曇り取り
　（リヤウインドウ
　デフォッガー）..... 313
ガレージジャッキ 369
冠水路走行 153
寒冷時の運転 305

き

キー 104
　キーナンバープレート 104
　キーの構成 104
　キーレスエントリー 104, 119
　キーをなくした 105, 107
　正常に働かない 460
　施錠・解錠ができない 460
　電子キー 104
　電池が切れた 392, 460
　ハイブリッドシステムが
　　始動できない 458
　メカニカルキー 105
　ワイヤレスリモコン 104
キーレスエントリー
　スマートエントリー&
　　スタートシステム 119
　ワイヤレスドアロック 104
きしみやひっかき音が聞こえる
　（ブレーキパッドウェア
　インジケーター）..... 149
給油 193
　給油扉が開かないとき 196
　給油のしかた 193
　メンテナンスデータ 478
緊急時シートベルト固定機構 31
緊急始動機能
　（ハイブリッドシステム）..... 459

※: 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

緊急時の対処
オーバーヒートした 469
キーの電池が切れた 392, 460
警告灯がついた 422
警告メッセージが
表示された 427
けん引..... 416
故障したときは 410
車両を緊急停止する 414
水没・冠水したときは..... 415
スタックした 474
電子キーが
正常に働かない 460
ハイブリッドシステムが
始動できない 458
発炎筒..... 412
バッテリーがあがった..... 463
パンクした..... 434, 448
緊急停止システム..... 70

く

空気圧（タイヤ）.....482
区間距離計（トリップメーター）...87
駆動用電池.....69
充電について 66
搭載位置 69
冷却用吸入口 70
駆動用電池冷却用吸入口.....70
手入れ 382
曇り取り
フロントウインドウガラス 313
ミラーヒーター.....313
リヤウインドウ
デフォッガー.....313
クラクション（ホーン）.....132
クリアランスソナー 263
クリアランスランプ（車幅灯）....176
スイッチ 176
電球（バルブ）の交換.....406
クリップ
フロアマット 26
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）.....238
グローブボックス 324

け

警音器（ホーン）..... 132
計器類（メーター）..... 87
照度調整..... 94
警告灯／表示灯 80
マルチインフォメーション
ディスプレイ 91
警告灯 81, 422
運転席・助手席
シートベルト非着用..... 425
ABS ＆ブレーキアシスト..... 423
SRS エアバッグ 422
エンジン 422
クリアランスソナー OFF
表示灯..... 423
後席シートベルト非着用..... 425
充電 422
水温 425
スリップ表示灯 423
電子制御ブレーキ 424
ドライブスタート
コントロール 425
燃料残量..... 424
パーキングブレーキ 424
ハイブリッドシステム
過熱警告灯 425
パワーステアリング 423
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....424
PKSB OFF 表示灯.....423
プリテンショナー.....422
ブレーキ 422, 424
ブレーキオーバーライド
システム 425
ブレーキホールド
作動表示灯.....424
RCTA OFF 表示灯.....423
油圧.....422
警告ブザー
運転席・助手席
シートベルト非着用.....425
エンジン 422
エンジンオイル圧力.....422
高水温.....425
後席シートベルト
非着用警告.....425
クリアランスソナー.....265
車線逸脱警報機能.....224
衝突警報（PCS）.....204
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）.....246
先行車発進告知機能.....252
パーキングブレーキ
未解除走行時.....171

ハイブリッドシステム..... 425
パワーステアリング 423
半ドア..... 109, 112, 115, 120
PKSB（パーキング
サポートブレーキ）..... 283
ふらつき警報機能 225
ブレーキ..... 422
リバース..... 165
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 274
警告メッセージ..... 427
警告ラベル
（ハイブリッドシステム）..... 69
化粧ミラー（バニティミラー）... 334
けん引..... 416
けん引のしかた..... 416
フックの搭載場所 436, 449
フックの取り付け 418

こ

交換
キーの電池 392
タイヤ 448
電球（バルブ）.....398
ヒューズ 395
工具（ツール）.....436. 449
後席シートベルト
非着用警告灯 425
後退速度の抑制制御（ドライブ
スタートコントロール）.....145
航続可能距離.....92
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の
交換 403, 406
ワット数 483
高電圧部位.....69
子供専用シート.....44
選択方法 44
取り付け方 57
コンセント
アクセサリーコンセント 338
非常時給電システム.....345
コンソールボックス 324
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....176

さ

サービスプラグ.....69
サイドエアバッグ.....34
サイド方向指示灯.....168
電球（バルブ）の交換.....406
方向指示レバー.....168
サイドミラー（ドアミラー）.....136
操作.....136
格納のしかた.....136
ブラインドスポットモニター（BSM）.....257
ミラーヒーター.....313
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....274
サンバイザー.....334

し

シート.....126, 127
正しい運転姿勢.....28
チャイルドシート.....44
調整.....126, 127
手入れ.....364
ヘッドレスト.....129
シートヒーター.....318
シートベルト.....30
お子さまの着用.....31
緊急時シートベルト固定機構.....31
シートベルト非着用警告灯.....425
高さ調節.....30
正しく着用するには.....30
着け方、はずし方.....30
手入れ.....365
妊娠中の方の着用.....32
シートベルト非着用警告灯.....425
シートベルトプリテンショナー.....31
プリテンショナー警告灯.....422
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....73
室内灯（インテリアランプ）.....320
始動のしかた.....156
シフトポジション.....165

シフトレバー 164
シフトレンジの切りかえ..... 164
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 165
リバース警告ブザー 165
シフトレバーが
シフトできないときは 166
シフトロックシステム..... 165
締め付けトルク（ホイール）..... 455
車間距離切りかえスイッチ 244
車線逸脱警報機能..... 224
ジャッキ
ガレージジャッキ 369
車載ジャッキ..... 436, 449
ジャッキハンドル..... 436, 449
車幅灯 176
電球（バルブ）の交換..... 406
ランプスイッチ 176
車両型式 483
車両仕様（スペック）..... 483
車両接近通報装置..... 65
車両データの記録..... 8
車両を緊急停止するには 414
収納装備 323
ジュニアシート..... 44
瞬間燃費 92
仕様（車両仕様）..... 483
助手席シートベルト
非着用警告灯..... 425

す

水温計.....87
スイッチ
アクセサリーコンセント 338
EV ドライブモード.....162
イグニッション.....156
ウインドウロック.....138
ウインドシールド
デアイサー.....314
ウォッシャー 187, 191
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....219
エンジンスイッチ.....156
オーディオ ※.....337
オートマチックハイビーム 181
カメラスイッチ ※
給油口オープナー.....195
クルーズコントロール.....238
シートヒーター.....318
シート調整 126
車間距離切りかえ.....244
TRIP 88
ドアミラー 136
ドアロック 110
ハザードランプ.....411
パーキングブレーキ.....169
パワーウインドウ.....138
パワースイッチ.....156
非常時給電 345
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....411

VSC OFF 297
フォグランプ 185
ブレーキホールド 173
方向指示レバー 168
ホーン（警音器）..... 132
メーター操作スイッチ..... 92
ランプ..... 176
リヤウインドウ
デフォッガー 313
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 238
ワイパー..... 187, 191
スタック 474
**ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 296**
**ステアリングホイール
（ハンドル）..... 132**
位置調整..... 132
スイッチ ※ 88, 92, 337
ホーン（警音器）..... 132
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換..... 406
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....305
スピードメーター 87
スペアタイヤ（応急用タイヤ）....448
空気圧 482
交換方法 448
スペック（車両仕様）.....478
**スマートエントリー＆
スタートシステム.....119**
アンテナの位置.....119
カスタマイズ設定.....484
緊急始動機能 459
警告ブザー 120
作動範囲 120
正常に働かないとき.....460
節電機能 121
電波がおよぼす
影響について.....125
ドアの解錠・施錠.....108, 114
ハイブリッドシステムの
始動 156
スモールランプ（車幅灯）.....176
電球（バルブ）の交換.....406
ランプスイッチ.....176

※: 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

せ

清掃 358, 364
外装 358
カメラセンサー 200
駆動用電池冷却用吸入口..... 382
シートベルト 365
内装 364
ホイール・
ホイールキャップ..... 359
レーダーセンサー 199
制動灯
電球（バルブ）の交換..... 406
積算距離計（オドメーター）..... 87
セキュリティ
インジケーター..... 75, 76
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 246
先行車発進告知機能..... 252
センサー
インナーミラー 135
雨滴感知センサー 189
オートマチックハイビーム.... 181
カメラセンサー 199
クリアランスソナー 263
後側方レーダーセンサー..... 259
前方センサー 199
ライトセンサー 179
レーダーセンサー 199, 259
洗車 358
前照灯（ヘッドランプ).....176
オートレベリングシステム 179
電球（バルブ）の交換.....406
マニュアルレベリング
システム 178
ライトセンサー.....179
ランプ消し忘れ防止機能 179
ランプスイッチ.....176
前方センサー 199

そ

走行モード
（ドライブモード).....255
速度計（スピードメーター).....87

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）.....168
電球（バルブ）の
交換 400, 401, 406
方向指示レバー.....168
ワット数 483
タイヤ.....372
応急用タイヤ 448
空気圧 377, 482
交換 448
締め付けトルク.....455
チェーン 305

点検 372
パンク応急修理キット..... 434
パンクしたときは 434, 448
冬用タイヤ..... 305
ホイールサイズ 482
ローテーション
（位置交換）..... 372
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 474
タイヤチェーン..... 305
Toyota Safety Sense..... 198
RSA
（ロードサインアシスト）.... 233
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 219
AHB（オートマチック
ハイビーム）..... 181
先行車発進告知機能 252
PCS（プリクラッシュ
セーフティ 204
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 238

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....305
チャイルドシート 44
ISOFIX ロアアンカレッジ 60
お子様を乗せるときは 43
規格 49
固定方法の種類.....57
シートベルトで固定.....58
知っておいて
いただきたいこと 44
テザーベルト 62
トップテザーアンカレッジに
固定 62
チャイルドプロテクター.....111
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）.....169
操作 169, 170
冬季の注意 306
ブレーキ警告灯.....424
未解除走行時警告ブザー 171

つ

ツール（工具）.....436, 449

て

手入れ 358, 364
外装 358
カメラセンサー 200
駆動用電池冷却用吸入口..... 382
シートベルト 365
内装 364
ホイール・
ホイールキャップ..... 359
レーダーセンサー 199
テールランプ（尾灯）..... 176
電球（バルブ）の交換..... 406
ランプスイッチ 176
デッキフック
（荷物固定用フック）..... 327
デッキボード 328
デフォッガー（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 313
電気モーター 64, 69
電球（バルブ）..... 483
交換要領（外装バルブ）..... 398
ワット数..... 483
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 478
電子キー 104
作動範囲..... 120
正常に働かないとき 460
電池が切れた..... 460
電池交換..... 392
電池交換（キー）..... 392

と

ドア 108, 114
スマートエントリー&
スタートシステム..... 108, 114
チャイルドプロテクター 111
ドアガラス 138
ドアロックスイッチ 110
バックドア 114
半ドア走行時
警告ブザー..... 112, 115
ロックレバー 110
ワイヤレスリモコン 104
ドアミラー
操作..... 136
格納のしかた 136
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 257
ミラーヒーター..... 313
リヤクロストラフィック
アラート（RCTA）..... 274

盗難防止装置
イモビライザーシステム..... 75
オートアラーム 76
時計 335
トップテザーアンカー 62
Toyota Safety Sense..... 198
ドライブインフォメーション 92
ドライブスタート
コントロール..... 145
急発進の抑制制御 145
後退速度の抑制制御 145
ドライブモードセレクト 255
トラクションコントロール
（TRC）..... 296
トランスミッション..... 164
メンテナンスデータ 481
リバース警告ブザー 165
トリップメーター..... 87

な

内装
収納装備 323
手入れ 364
ナノイー.....316

に

荷物
積むときの注意.....154
デッキフック
（荷物固定用フック）.....327
荷室内装備 327

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）.....474

ね

燃費
エネルギーモニター.....99
燃費情報（ドライブ
インフォメーション）.....92
燃料 478
ガソリンスタンドでの情報 524
給油.....193
種類.....478
燃料残量警告灯.....424
容量.....478
燃料計.....87

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 293
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 289
パーキングブレーキ..... 169
操作 169, 170
冬季の注意..... 306
ブレーキ警告灯 424
未解除走行時警告ブザー..... 171
パーソナルランプ..... 321
ワット数..... 483
排気ガス 42
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 176
オートマチックハイビーム.... 181
電球（バルブ）の交換..... 406
ランプスイッチ 176
ハイブリッドシステム..... 64
EV ドライブモード..... 162
運転のアドバイス 303
オーバーヒート 469
回生ブレーキ..... 66
ガス欠になったとき 71
緊急始動機能..... 459
緊急時の停止方法 414
緊急停止システム 70
駆動用電池冷却用吸入口..... 70
高電圧部位..... 69
サービスプラグ.....69
事故が発生したとき.....73
始動できないときは.....458
始動方法 156
車両接近通報装置.....65
充電.....66
注意.....69
特徴.....64
特有の音と振動.....67
バッテリーがあがった.....463
パワー（イグニッション）スイッチ 156
メンテナンス・修理・廃車するとき.....68
ハイブリッドシステムインジケーター 89
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....406
ハザードランプ（非常点滅灯）....411
スイッチ 411
電球（バルブ）の交換 400, 401, 406
ワット数 483
挟み込み防止機能
パワーウインドウ.....139
発炎筒.....412

バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の
交換 403, 406
ワット数 483
バックドア 114
バックドアが開かないとき 116
バックドアハンドル 115
半ドア走行時
警告ブザー 115
バッテリー（駆動用電池） 69
充電について 66
搭載位置 69
冷却用吸入口 70
バッテリー（補機バッテリー）
搭載位置 464
バッテリーを交換するとき 466
バッテリーがあがった 463
冬の前の準備 305
バニティ（化粧用）ミラー 334
バニティミラーランプ 334
ワット数 483
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 398
ワット数 483
パワーウインドウ 138
ウインドウロックスイッチ 138
開閉することが
できないときは 139
操作 138
挟み込み防止機能 139
巻き込み防止機能 139
パワーコントロールユニット 69
パワースイッチ 156
車両を緊急停止するには 414
パワーステアリング 296
パワーステアリング警告灯 423
パンクした
応急用タイヤ装着車 448
タイヤパンク
応急修理キット装着車 434
番号灯
（ライセンスプレートランプ） 176
電球（バルブ）の交換 404
ランプスイッチ 176
ワット数 483
ハンドル
（ステアリングホイール） 132
位置調整 132
スイッチ※ 88, 92, 337
ホーン（警音器） 132

※: 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 296
PCS
（プリクラッシュセーフティ）... 204
機能 204
警告灯..... 424
設定を変更する 209
ヒーター
オートエアコン 310
シートヒーター 318
ミラーヒーター 313
非常時給電システム..... 345
非常点滅灯（ハザードランプ）... 411
スイッチ..... 411
電球（バルブ）の
交換.....400, 401, 406
ワット数..... 483
尾灯（テールランプ）..... 176
電球（バルブ）の交換..... 406
ランプスイッチ 176
ヒューズ 395
表示灯 83
日よけ（サンバイザー）..... 334
ヒルスタート
アシストコントロール 296

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方.....463
フォグランプ.....185
スイッチ 185
電球（バルブ）の
交換 405, 406
ワット数 483
ブザー
運転席・助手席
シートベルト非着用 425
エンジン 422
高水温 425
後席シートベルト
非着用警告.....425
クリアランスソナー.....265
車線逸脱警報機能.....224
衝突警報（PCS）.....204
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）.....246
先行車発進告知機能.....252
パーキングブレーキ
未解除走行時.....171
ハイブリッドシステム 425
パワーステアリング.....423

半ドア..... 109, 112, 115, 120
PKSB（パーキング
サポートブレーキ）..... 283
BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 257
ふらつき警報機能 225
ブレーキ..... 422
油圧警告..... 422
リバース..... 165
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）..... 274
RSA
（ロードサインアシスト）..... 233
フック
買い物フック 327
けん引フック 418
デッキフック
（荷物固定用フック）..... 327
フロアマット固定フック..... 26
フューエルメーター（燃料計）..... 87
フューエルリッド（給油扉）..... 195
給油扉が開かないとき..... 196
給油のしかた..... 193
冬の前の準備（寒冷時の運転）....305
冬用タイヤ.....305
ブラインドスポットモニター
（BSM）.....257
プリクラッシュセーフティ
（PCS）.....204
機能.....204
警告灯.....424
設定を変更する.....209
ブレーキ
回生ブレーキ 66
警告ブザー 422
パーキングブレーキ.....169
ブレーキ警告灯.....422, 424
メンテナンスデータ.....481
ブレーキアシスト.....296
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 423
ブレーキホールド 173
ブレーキ付近から
キーキー音が聞こえる.....149
ブレーキフルード 481
フロアマット.....26
フロントインテリアランプ.....321
フロントシート.....126
シートヒーター.....318
正しい運転姿勢.....28
調整.....126
手入れ.....364
ヘッドレスト 129

フロントパーソナルランプ 321
フロントフォグランプ 185
スイッチ 185
電球（バルブ）の交換 406
フロント方向指示灯 168
電球（バルブ）の交換 400, 406
方向指示レバー 168
ワット数 483
フロントワイパーデアイサー 314

へ

平均車速 92
平均燃費 92
ヘッドランプ 176
オートレベリングシステム 179
電球（バルブ）の交換 406
マニュアルヘッドライトレベリングシステム 178
ライトセンサー 179
ランプ消し忘れ防止機能 179
ランプスイッチ 176
ヘッドランプオートレベリングシステム 179
ヘッドレスト 129
ベビーシート 44

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 448
メンテナンスデータ 482
ホイールナットレンチ 436, 449
方向指示灯 168
電球（バルブ）の交換 400, 401, 406
方向指示レバー 168
ワット数 483
ホーン（警音器） 132
補機バッテリー
搭載位置 464
バッテリーがあがった 463
冬の前の準備 305
保証 10
ボトルホルダー 325
ボンネット 367

ま

巻き込み防止機能 139
マルチインフォメーション
ディスプレイ 91
エネルギーモニター 99
LTA（レーントレーシング
アシスト）..... 219
クリアランスソナー 263
警告メッセージ表示画面..... 427
衝突警報（PCS）..... 204
設定画面..... 94
ドライブインフォメーション... 92
表示項目..... 91
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き）..... 238

み

ミラー
インナーミラー 134
ドアミラー..... 136
バニティミラー 334
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 257
ミラーヒーター 313
リヤクロストラフィック
アラート（RCTA）..... 274

め

メーター（計器類）.....87
警告灯／表示灯.....80
照度調整 94
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....91
メカニカルキー 105
メンテナンスデータ 478

も

モーター（電気モーター）.....64, 69
モーターでの走行
（EV ドライブモード）.....162

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....484
雪道ですべって動けない
（スタックした）.....474
油脂類.....478

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 176
電球（バルブ）の交換..... 404
ランプスイッチ 176
ワット数..... 483
ラゲージアンダートレイ 328
ラゲージサイドトレイ 329
ラゲージフック..... 327
ラゲージルームランプ 115
ラジエーター
オーバーヒート 469
メンテナンスデータ 480
ランプ
インテリアランプ 321
オートマチックハイビーム.... 181
電球（バルブ）の交換..... 398
パーソナルランプ 321
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 411
フロントフォグランプ..... 185
ヘッドランプ（前照灯）..... 176
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 168
ライトセンサー 179
ランプ消し忘れ防止機能..... 179
リヤフォグランプ 185
ワット数..... 483
ランプ消し忘れ
防止機能 179, 322

り

リヤインテリアランプ.....321
リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 313
リヤクロストラフィック
アラート（RCTA).....274
リヤシート.....127
リヤフォグランプ 185
スイッチ 185
電球（バルブ）の
交換 405, 406
ワット数 483
リヤ方向指示灯 168
電球（バルブ）の
交換 401, 406
方向指示レバー.....168
ワット数 483

る

ルームミラー
（インナーミラー).....134
ルームランプ 320

れ

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 238
接近警報..... 246
レーダーセンサー 199
レーントレーシングアシスト（LTA）..... 219
車線逸脱警報機能 224
スイッチ..... 226
ステアリング制御機能..... 224
ふらつき警報機能 225
メーター表示..... 228
冷却水..... 480
水温計..... 87
冬の前の準備..... 305
メンテナンスデータ 480
冷却装置（ラジエーター）..... 480
オーバーヒート..... 469
メンテナンスデータ 480
レバー
シフト..... 164
ハンドル位置調整 132
方向指示..... 168
ボンネット解除 367
ロック（ドア）..... 110

ろ

ロードサインアシスト（RSA）...233
ロック
ウインドウロック.....138
シフトロック 165
スマートエントリー＆スタートシステム.....119
チャイルドプロテクター.....111
ドア.....108, 114
ワイヤレスリモコン.....104

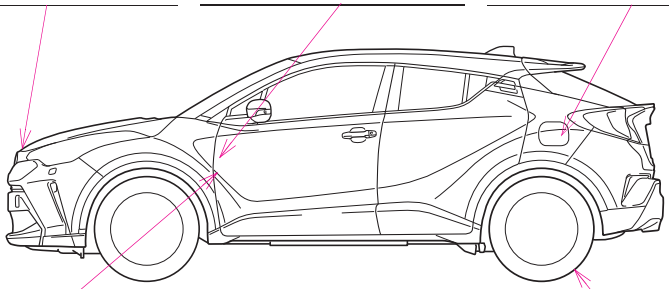
わ

ワイパー＆ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....370
フロントワイパーデアイサー.....314
ワイパーブレード（寒冷地用）....306
ワイヤレスリモコン 104
作動の合図 109, 115
操作.....104
電池の交換 392
半ドア警告ブザー.....109
ワックス.....358
ワット数.....483

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口オープナー	給油口
P. 367	P. 195	P. 195



ボンネット解除レバー	タイヤ空気圧
P. 367	P. 482

燃料の容量（参考値）	43L
燃料の種類 （→ P. 478）	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	P. 482
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時： 3.9L オイルとオイルフィルター交換時： 4.2L
エンジンオイルの種類	P. 479

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450－8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

は-36

M 10606
01999–10606
IS-2022年 7 月29日
2022年 8 月 5 日 初版
C-HR（ハイブリッド車）